

愛労連第72回定期大会

付属文書

2026 年度

■第 1 号議案 付属文書②

- ・愛労連 2025 年度おもな活動報告（2024 年 7 月 2 日～ 2025 年 7 月 14 日）

愛労連2025年度おもな活動報告

2024年7月2日～2025年7月14日

■Ai 四役会議 7月2日

加盟組織のあいさつ割り振り、会計の到達と考えについて、愛知弁護士会との懇談内容について、大会を前にして情勢や課題について議論を行った。

■Ai 組拡推進委員会・総がかり調整会議 7月3日

現状の到達点の確認、7月大会をすべての組合が純増でむかえるために、新人への総当たり、再任用・定年延長者への対話行動、非正規加入促進、定年退職者を年金者組合へお誘いの提案を行った。とくに公募撤廃については画期的であり確実なものにするために、情勢が動いたことと加入書をセットにして、対象者に配布しようと強調した。医労連からは過去最高現勢に達成したこと、9月7日にユニオンセミナーで全労連布施恵輔さんを講師にユニオンセミナー開催の報告、福保労からは恵の組合結成、愛高教からは分会結成が報告された。次回は9月4日。

■Ai 組織強化学習教育委員会 7月4日

オンライン含め9人が参加。各組織の現状報告後、あいちわくわく講座開講式の当日の流れなどを確認した。わくわく講座申込者がまだ少ないので、引き続き声掛けをする確認をした。

■第514回愛知地方最低賃金審議会 7月5日

15時から約1時間、愛知労働局伏見庁舎において愛知地方最低賃金審議会が開催された。出席は公労使の委員各5人。傍聴は愛労連の単産：地域組織、事務局員、ふれあいユニオンの14人と報道機関。愛労連最賃署名が中央テーブルに置かれ、愛労連作成の署名関連資料（42ページ）と6月4日に提出した愛労連と全労連東海北陸ブロックの要請書などが各委員、傍聴者、報道機関に配付され、各要請書について、賃金課長が一定の時間をとり説明し、署名の閲覧も行われた。労働局長から大幅引き上げの発言を期待したが、6月21日の閣議決定の文書（配付）「2030年台半ばまでに全国加重平均を1,500円になることを目指すとした目標・・・」にふれただけであった。局長が審議会会長に「愛知最賃の改正決定」の諮問、専門部会の設置などを説明確認した。労働者委員の寺田委員から資料にもとづき「物価上昇を考慮した引き上げ」と主張したが、額の提案はなかった。

■愛知共済会第35回定期総会 7月6日

労働会館本館で開催され、参加者は28人（+リモートで全労連共済役員）。活動の総括、新年度の運動方針の提案・採択、役員の変更、組織医療共済キャンペーンの説明、討論などがおこなわれた。①基本共済の祝い金の給付範囲の拡大を確認した。これまでの子どもの小学校入学・中学校入学に加え、高校・専修学校入学と成人でも給付されるようになる。②行事スポット保険のルージャパンに扱い停止による代替案について報告された。③役員の変更では理事18人、監事2人が推薦され、任命された。

■平和行進まとめ集会 7月6日

リモートを併用しておこなわれた。参加者のべ5705人（昨年4549人）、ペナント950本、募金870,345円（昨年600,207円）、署名3384筆、折り鶴26万羽、世界大会支持賛同（自治体）36人、自治体からのペナント25本、自治体からの協賛募金90,000円があったことなどの報告があった。

■愛知県医労連定期大会 7月7日

医労連大会が労働会館で行われ、林副議長があいさつをおこなった。医労連は過去最高の峰で現勢報告を行った。

■「非正規公務員なんでも電話相談」周知宣伝 7月8日

7月12, 13日に行われる第3弾非正規なんでも電話相談実施のチラシとポケットティッシュの配布を行った。

国公青山さん、建交労保育パート支部尾崎さん、愛教労住田さん、名古屋市職労津田さん、事務局3名（佐賀、市川、西尾）の7名で取り組んだ。

■サマセミブロック実行委員会 7月8日

リモートで開催し、参加者は三重2、岐阜2、静岡2、石川3、福井1、愛知1の計11人。第31回サマセミについて、全体のスケジュール、内容の確認、チラシの確認などおこなった。①1日目はBBQ後に全体会の流れとなり、自己紹介などアイスブレイクについて協議した。②2日目の分科会・フィールドワークについて協議し、4コースの内容を決定。各コースの参加費については早急に決める事とした。③参加費設定について、全日程参加で18,000円、その他の参加形態についても確認した。④チラシ案について協議した。申し込み期限について、第1次を8月末、最終メ切りを9月10日とした。⑤今後の実行委員会について、8月下旬と、9月初中旬に2回おこなうこととした。

■社保協四役会議 7月11日

愛労連会議室でおこなわれ、参加者は8人。社保協総会の報告と今後のとりくみについて協議した。①介護のたたかいについて、新介護署名が始まり、7月30日のスタート集会への参加が呼びかけられた。10月6日には全労連会館で第22回介護学習交流集会がおこなわれる。②保険証の存続を求めるたたかいでは、自治体意見書が34都道府県173市区町村で採択されている。愛知社保協も9月議会に提出を予定。今後のとりくみとして保険医協会が9月29日に栄で宣伝行動、11月7日には日比谷野音集会がおこなわれる。③国保改善の課題について、6月25日のXデモとオンライン署名の状況が報告された。オンライン署名は7月11日時点で4000を超えた。④生保裁判について、愛知連絡会総会の報告、7月27日のシンポジウムの紹介がされた。⑤秋の自治体キャラバンについて、実行委員会についての協議、春のキャラバン実行委員会と豊田市の事前回答など対応を巡る打合せの報告がされた。

■愛知共済会事務局会議 7月11日

共済会事務所でおこなわれ、参加者は6人。この間の共済加入の状況と給付状況を確認した。協議事項として、組織共済活動費Bお届けオルグの計画、ハゼ釣り大会について、ニュースの発行について協議した。次回事務局会議は8月8日13:30から。

■日本医労連定期大会 7月16-18日

日本医労連第74回定期大会が愛知県三河三谷で開催された。西尾議長が1日目2日目に傍聴参加した。

■Ai機関紙編集委員会 7月16日

オンラインで4人が参加。愛労連新聞7月10日号の振り返りと、8月10日号の企画打合せをおこなった。

■Ai財政担当者会議 7月16日

11人（単産3・地域5・事務局3）が参加した。2024年度決算および2025年度財政方

針・予算案を説明しつつ、厳しい愛労連財政の今後の対応について、組織財政検討委員会の答申をもとに説明した。参加者からは、支出削減だけでなく、組合費値上げについても議論するように意見された。

■全労連第18回幹事会 7月17-18日

愛労連大会準備のため2日目の18日のみオンラインで参加した。労基法改悪の狙いについて伊藤圭一常幹が講師となって学習会を行った。大会に向け、共済の議案などについて確認した。

■安保破棄常任幹事会 7月17日

4人参加。情勢討議。各団体から活動報告。愛労連からは土曜日宣伝、最賃、非正規公務員（3年公募廃止）、革新市政の会。地位協定見直しの学習会（6月29日）は51人（うちオンライン10）が参加。沖縄連帯の旅は満席となった。会議終了後大須で約1時間宣伝、「若いころ自衛隊にいた」という40代くらいの男性が米軍の戦争に巻き込まれると署名した。次回会議は、8月7日（水）10時～。

■原水協理事会 7月17日

オンラインと合わせて開催。世界大会や比非核日本キャンペーンに力をいれることが呼びかけられた。労働会館でもオンライン視聴会場を開設し、参加を呼びかけることとした。

オンライン視聴会

8月4日（日）14：00～16：30 広島・開会総会

8月6日（火）10：30～13：00 広島・閉会総会〈ヒロシマデー集会〉

8月9日（金）10：30～13：00 長崎〈ナガサキデー集会〉

世界大会愛知県代表団会議 7月30日（火）18：30～20：30 @民主会館

次回理事会 8月21日（水）18：30～ @愛知民主会館

■あいち総がかり行動一斉宣伝 7月19日

名古屋市内3カ所（名駅・栄・金山）でハンドマイクで街宣しながらチラシ配布、プラスター・バナーを掲げてスタンディングなどを行った。飛び入りで青年も参加した。

■学習の友フェスタ実行委 7月19日

学習の友読者の交流と、学習会・学習サークルの発展をめざすフェスタの開催に向けて話し合った。参加予定者への声掛けの進捗状況を確認した。引き続き声掛けをおこなう。会場へ貼る看板を手書きで作成した。

豊かな未来の扉を開く私のフェスタ

7月27日（土）14：00～ 労働会館本館会議室

■自治労連愛知県本部定期大会 7月20日

ウィルあいちで開催され、西尾議長が臨席し愛労連を代表して連帯のあいさつを行った。

■愛労連第70回定期大会 7月21日

ウィルあいちで開催し、167人（代議員99「男81、女18：18.2%」・特別代議員3（女3）幹事会28・顧問1・事務局4・傍聴15・来賓3・激励1・訴え6・マスコミ3（赤旗・民報）物販5）が参加した。来賓には全労連・東海労働弁護団・共産党愛知県委員会が臨席し連帯のあいさつを行った。1号議案から5号議案すべてが全会一位で採択された。また、大会宣言と特別決議（争議）も全会一致で採択された。

■JMITUオハラ愛労委調査 7月22日

愛知県労働委員会にておこなわれ、参加者はオハラ分会3、JMITU3、弁護士3、愛労連の計10人。12回目の調査となり、争点整理が終わると期待されたが変わらず、次回10月18日(金)10時から第13回目の調査がおこなわれる。

JMITUの大平氏が労働者委員の中島氏に対して、労使参与の団体交渉への参加を要請したが、中島氏は「議事録を読めば十分」などと固辞した。

■社保協理事会

7月22日

愛知県保険医協会伏見会議室とリモートでおこなわれ、参加者は16人。①この間のとりくみとして第44期総会などの振り返りをおこなった。今後のとりくみについて、大軍拡より社会保障の拡充を求めるたたかいでは9月26日に「秋の国民集会」がおこなわれること、中央社保協総会、中央社保学校の日程など確認した。

■第1回パート臨時労組連絡会・幹事会

7月22日

6名が参加。各組織の活動報告や活動確認などをおこなった後、今後の運動について検討した。11月に非正規公務員の集会在開催予定のため、毎年11月に開催する「パート・臨時・非常勤などの元気が出る集会」は今年度はお休みすることとした。

次回幹事会は 9月13日(金) 18:30～ 愛労連会議室

次々回は 10月18日(金) 18:30～ 愛労連会議室

■Ai青年協幹事会

7月23日

愛労連会議室とリモートでおこない、参加者は医労連2、自治労連2、建交労、愛労連の計6人。7月28日のスポッチャ交流会についての協議と第35回定期総会にむけて議案書の執筆分担をおこなった。次回幹事会は8月27日(火)

■JR懇談会アンケート宣伝

7月23日

毎年行っているJR懇談会アンケートですが、今年は「能登半島地震」などもあり、例年以上の集約をめざして各駅等などでの宣伝行動にとりくんでいます。7月23日にはJR金山駅での「アンケート用紙」配布宣伝にとりくみ、17時からの1時間ほどで130枚のアンケート用紙を配布しました。前日に保守車両脱線事故により東海道新幹線が全日ストップするもとの行動ということもあり、JR東海利用者に職員体制の拡充が公共交通の安全に欠かせないことなどを訴えました。JP懇談会では、寄せられた回答を分析し、10月14日の「鉄道の日」に国労会館にて記者発表を予定しています。

■Ai第1回幹事会

7月24日

参加は幹事16、事務局3だった。報告確認事項で、春教労の上部団体役員団交参加拒否裁判について愛労連として支援することを確認した。協議事項では、定期大会の振り返りとともに、新年度、当面具体化すべき事項として財政問題、秋季年末闘争方針、設置する委員会や任務分担について確認した。

■全労連第35回定期大会

7月25-27日

愛労連から代議員6人、傍聴1が参加した。大会3日目は代議員1人が欠席のため傍聴者が代議員参加した。「対話」と「学び合い」を全労連運動の文化にしようという提起を受け、愛労連から4人が発言通告し3人が発言した。1人は文書発言とした。武藤代議員は、「名古屋市職労における会計年度任用職員組織化と要求実現のとりくみと子どもたちにもう1人保育士をのとりくみ」、尾崎代議員は、「建交労保育パート支部における会計年度任用職員組織化と要求実現のとりくみと愛労連非正規公務員1万人プロジェクトのとりくみ」、薄代議員は、「レイバーノーツ大会に参加して運動の」

■ローカルユニオン総会

7月25日

9人参加。来賓として愛労連の谷藤副議長からあいさつをいただいた。1年の経過報告・会計報告が行われ新役員を選出した。執行委員長は樽松佐一さん。

■労働相談センター全体会

7月25日

10人参加。5月の新規44件（昨年62）、6月の新規54件（昨年86）。紹介単産5組合、紹介件数9人、組合加入者3人。相談情報の共有。

9月からの労働相談の時間担当。

A=9:30~15:30、B=10:30~16:30

月=A青山、B兵藤

火=A長江、B兵藤

水=A水野、B葛谷

木=A葛谷、B（市川）

金=A高松、B長江

8月2日の全労連東海・北陸ブロック労働相談員研修会レジェンド編

第2回全体会；9月24日（火）15時～愛労連会議室

■名古屋市教育委員会金銭授受問題宣伝

7月25・26日

裏金、学閥、アングラ名簿粉碎の名教労街頭宣伝は、25日朝は6人の参加。30分で150枚のチラシを配布した。副委員長の波木さんが30分間ノンストップで訴え続けた。

26日夕方は6人が参加。30分で100枚のチラシを配布した。25日の通行人は公務員が多かったが、26日はそれ以外の層の通行人が多く、チラシの受け取りもよかった。

■第1回愛知県最低賃金専門部会

7月25日

13時30分から労働局北大会議室。部会長に中山委員、代理に長谷川委員を選出。公益は他に水野委員、労働者は寺田・松村・安藤（欠席）の3委員。公益は梶原・古関、堀江の各委員。運営規定の説明。7月22日まで受け付けた意見書26通が配付、賃金課長が全体の概要を8点に渡り説明=5, 6分。中山委員が「意見陳述」について、労働者委員に聞いたところ寺田委員が「意見書の内容もふまえてするので（専門部会としては？）必要なし」、梶原委員は「4月～6月、会員企業と懇談し、意見を聞いているので必要なし」と発言あり。続いて賃金課長から、国や県などが発表している経済指標を説明（分厚い資料）。寺田委員が連合作成の資料の説明、リビングウエッジ（愛知）1100円を述べた（5～6分程度）。梶原委員も引き上げはよいが、価格転嫁の問題点を述べた。

約1時間で終了。帰り際、事務局に明日は今日配付の意見書も含めて配付されるか確認、賃金課長が廊下にいたので「明日の意見書の説明を注目しています」と話した。昨日までに愛労連が持ち込んだ意見書は46通。朝日新聞記者傍聴。

■第515回愛知地方最低賃金審議会

7月26日

10時～10時55分。KKR名古屋。傍聴幹事のほか、池田（医労連）、加藤（尾東）、ふれあいユニオン2。報道機関：名古屋テレビ、テレビ愛知、中日新聞、赤旗（市川⇒4社と開会前に名刺交換。意見書が昨年の28通から47通になり、どう説明するか注目してください。中日の安福記者には専門部会と二者協議の問題を少し説明）。賃金課長から中央最低賃金審議会答申の内容、時間給で働く労働者の人数と割合を文書にもとづき説明。

次に意見書47通について23分にわたり説明。会長から意見陳述への意見をもとめたが昨日の専門部会と同じ発言を労働者委員、使用者委員が行った。（必要なし）

意見書についての質問を使用者委員の堀江委員が（株式会社 フェアウインド 代表取締役）2点、

①意見書の各団体の構成人員は？、そういうこと知る必要があると思うので、②フリーランスユニオンの定義は？、私の会社の関連でのフリーランスの人たちがいる。自分達で「賃金」を決めるという概念で理解ができない。どういう団体か知りたい。(事務局＝後日回答)。

終了後、堀江委員にお礼、県経営者協会の梶原氏と名刺交換(樽松さんと面識あり、栄総行動も)

■年金者組合定期大会 7月26日

谷藤副議長が臨席し、愛労連を代表して連帯の挨拶を行った。

■Ai女性協総会 7月27日

7月27日(土)に第35回女性協総会を開催。リモートを含め46人が参加した。

第一部は、記念講演「子どもの貧困と教育」と題し、名古屋大学大学院 教育発達化学研究科助教の小長井晶子さんから話を聞いた。日本における子どもの貧困、諸外国との対策方法の違い、誤った貧困自己責任論は構造的な問題に目が向かなくなる、などが話された。講師は、講演後も残り各組織の発言を聞いていた。

第二部の総会では、女性協の河合議長と来賓の寺田愛労連副議長のあいさつ後、総括案と方針案を提起し討論へ。愛高教、医労連、建交労、自治労連、福保労恵分会から発言。すべての議案と新役員について全体で採択され、最後に団結ガンバローで総会を終えた。

【新役員】

議長 河合祐美子(自治労連)再/副議長 後藤静(愛高教)再/事務局長 浜島ちか子(医労連)再/幹事 島田幸子(福保労)再/幹事 中尾裕子(郵政U)再/幹事 廣瀬久子(建交労)再/幹事 荒川忍(自治労連)再/幹事 林まなみ(愛高教)再

■女性協第1回幹事会 7月27日

女性協総会后、第1回の幹事会を開催した。総会の総括、秋の労働局要請案、日本母親大会派遣についてなど、今後の活動方針を話し合った。今年度もグループLINEを活用し、連絡確認を密に取る事とした。

次回幹事会は、9月20日(金) 18:30～

■JMITU定期大会 7月27日

寺田副議長が臨席し、愛労連を代表して連帯の挨拶を行った。

■いのちと暮らしを守るなんでも相談会 7月27日

愛知では、司法書士会館を会場にして行われ、71件相談(電話・面接)と38件のフードサービスの利用があった。生活困窮が進んでいることが如実にわかる相談会となった。

■電機・情報ユニオン励ますつどい 7月27日

公然化して会社のリストラとのたたかいに立ちあがった新田さんを励ますつどいが開催され、愛労連を代表して林副議長が参加し、連帯のあいさつを行った。

■Ai青年協スポッチャ交流会 7月28日

ラウンドワン中川1号線店でおこない、参加者は自治労連2、医労連2、建交労3、愛高教、子ども3、愛労連の計12人。スポッチャで2グループにわかれて交流した。

■ストップインボイス!シンポ 7月28日

消費税をやめさせる愛知の会が主催する「税金から平和を考えるシンポジウムinあいち」が栄ガスビルで開催され、愛商連を中心に130名を超える参加者が集いました。国の税収が増え続けているもと、「インボイス制度」でさらに増税。一体この増税は何に使うためのものなのか?地元愛知

で作られる武器は一体どこで誰に向けて使われようとしているのか？愛知平和委員会の矢野創さんとストップインボイス！を起ち上げた小泉なつみさんを招いて学習・交流を行いました。とりわけ、「テレ朝のニュースステーション」の編集に関わる経験を持つ小泉さんが、全商連や労働組合とともに社会的な窓を開くまでのプロセスは、労働組合の組織強化にも大変参考となる内容でした。

■革新愛知の会世話人会 7月28日

愛労連からは林副議長が参加し、定期大会及び賃上げや最賃をめぐる状況について発言し報告した。

■11.17非正規集会打合せ 7月29日

あいち非正規公務員1万人プロジェクトでは、一周年の節目を迎えるにあたり、11月17日に当事者参加型の集会を準備することとしています。すでに記念講演には、非正規公務員制度研究の第一人者である立教大学の上林陽治特任教授をお招きすることが決まり、集約の目的や獲得目標にそった「実施要項」のとりまとめを行う運びとなっています。7月29日、その「実施要綱案」を策定するにあたり、愛労連事務局・自治労連愛知県本部・名古屋市職労・はむねっとの代表者との打ち合わせを行いました。打ち合わせで出された意見や要望を踏まえ、実施要綱案8月8日に予定している「プロジェクト会議」のなかで実施要綱案などを提案することとしています。

■第2回愛知県最低賃金専門部会 7月29日

桜華会館で13:30～16:00まで行われ傍聴は5人（ふれあいユニオン1）。各委員は全員出席。冒頭、中央最低賃金審議会会長から7月25日の答申の内容をビデオメッセージという形で放映。生計費で「消費者物価指数」「頻繁購入品目」「春季賃上げ妥結状況」が強調され、「賃金支払い能力」「各ランクの引上げ目安額」「10月1日にこだわらない」などの考え方が説明された。

賃金課長から資料にもとづく説明（26日の審議会と同様）のあと、審議がおこなわれた。昨年とは違い、労使双方から金額をめぐる主張がされた。その後、休会となり二者協議がもたれた模様。

休会後も労使双方から主張が行われ、審議を継続するとして終了したが、その後も話し合いがもたれた模様だった。

■原水爆禁止世界大会代表団会議 7月30日

オンライン併用で開催。世界大会に向けて、愛知県原水協主催の事前学習がおこなわれ、大村義則さんから、核兵器禁止条約の世界の状況、世界情勢についてなどの講演を聞いた。講演後、体制提案、各団長挨拶、参加者の紹介や参加者交流などがおこなわれた。

■愛知県弁護士会労働法制委員会との懇談 7月31日

弁護士会から6人、愛労連から西尾議長をはじめ9人が参加した。愛労連からは、2024春闘の特長や、非正規公務員の処遇改善と組織化、社会的な賃金闘争について報告した。労働法制委員会からは、最近の労働審判の件数の推移や特徴、弁護士会と労働審判員の懇談会の結果や労働相談の現状、及び最近の労働相談の特徴について報告された。コロナ以降、労働審判も訴訟もオンラインでの対応が増えていることが報告され、意見が交わされた。2年後に開催することを確認して閉会した。

■名古屋労連（仮称）での港地区労オルグ 7月31日

四役会議（7人参加）を竹内事務局長が訪問し、名古屋労連（仮称）結成に向けた経過、これまでの議論の積み重ね、綱領・規約・財政案の検討状況について報告し、結集をよびかけた。

■A i 最低賃金・公契約問題対策委員会

8月1日

浅生さん講師のミニ学習会は、これまでの審議会に出された資料のうち、生計費にかかる資料の分析。前回6月24日以降のとりくみ確認（署名提出、専門委員の推薦、意見書、審議会・専門部会の傍聴、三の丸宣伝）、異議書のとりくみと8月20日の宣伝行動。次回は9月12日（木）15時～17時。

■全労連LA教員組合学習会

8月1日

ロサンゼルス教員組合（UTLA）は2019年にストライキに取り組み、事務職員組合と共同して3万5千人の組合員（専従者は100人）と、50万人近い保護者、生徒が参加するストライキに取り組んだ。当時UTLAの交渉委員会共同代表を務めたアーリン・イノウエさんが来日する機会に、ストライキに至る組合員との対話、議論と組織化、ストライキの運動について話を聞く機会となった。19年のストライキは『When We Fight（私たちがたたかう時）』というドキュメンタリー映画を鑑賞してイノウエさんにお話ししていただいた。UTLAでは『職場を変える秘密のレシピ47』を活用し、徹底して職場の組合員と議論をしながら運動を作り上げ、ストラクチャーテストと呼ばれるストの練習も繰り返してストライキを成功させた。ストライキでは付帯条項のない6%の賃上げ、看護師、学校司書、カウンセラーの増員、無料通学バス、コミュニティースクールの予算増額などを勝ち取った。2014年に組合執行部にたたかう改革派が役員7つの全ポジションをとり、公教育をまもるために、労働組合を強化するために組合員のリーダーを育て組合員をふやし、ストライキの実施を行う過程が話された。4日間のストライキを行い同時に長時間の交渉が行われ、前述の賃上げなどの諸要求を勝ち取り労働者が勝利していく。ストライキを実施するために、敵はだれなのか明確にし、「公教育」をより良くするためだけでなく、悪い政策を批判し、人種差別などすべての抑圧に対抗し、戦争や差別を許さない組合方針を市内全域に広げ結集を高めていく運動が行われていた。分断を乗り越えるために、教員も、生徒も、保護者も、地域の人たちも「みんなの学校」という認識にたち、揺るぎないスローガンに結集し団結を保ち高め合っている。スト批准投票は1対1の対話や電話かけや実際にあって楽しいときをつくって、SNSもつかい、組織化のためにありとあらゆることをやってきた。

アーリンさんは、学校教育は最後に公的な資金が使われるところ、本当に大きなフラストレーションがたまっていた。生徒への予算が削られていき、8年間賃上げがなかった、「私たちの仕事の尊厳が傷つけられている。」組合員に示すことができたのはそれを変えるための計画や希望、我慢し続けていいのか、たたかいをこうやって、やっていこうというビジョンを伝えてきた。生徒には何を望んでいるのか直接話しをきき、人種差別と思われる荷物検査をやめさせた。熱意をもったとりくみが組合員同士のダイナミック、動態がおこさせる。あなたが執行部をオルグするのだとしたら、新たな執行部がさらに新しい人をいれる、こういう繰り返しがダイナミックを作りだしていく。2014年に執行部をとってから5年かかっている、長い時間がかかる。次の段階にいくまでに時間がかかることもあるが、組合員に驚かされるのは一度理解をしたときには次の段階にいくのは、スピードアップすることもある。組合員を信用すること、プロセスを信用することそれをすれば、次のステップにいける。

アーリンさんは、ストライキに参加した生徒は雨で靴が泥だらけになったが絶対に洗いたくない、勝ち取ったモノだから。聞えば勝てるという実体験を経験し社会に旅立っていくときに貴重な経験になると話した。

■クールクライメート事務局会議

8月1日

8人が参加。間近に迫った若者気候訴訟当日の段取りや分担を確認し、9月28日に実施する訴状勉強会について相談した。

■ブロック労働相談員研修会（レジェンド編）

8月2日

41人（三重3、岐阜5、静岡8、石川5、富山6、福井4、愛労連9、講師1）が参加した。

富山県の春山然浩弁護士を招き「パワハラ相談の対応」について学んだ。講演後6人程度分散会を持ち、各県でのとりくみや苦労について交流した。

■機関紙宣伝学校実行委員会②

8月2日

リモートでおこない、8人が参加。今後の機関紙学校の在り方を含めて話し合った。次回2月は開催することとしたが、機関紙宣伝学校の在り方、今後をどうするのか、組織拡大・強化の視点からも組合の姿の発信をしていくことは大切だが、今のまま機関紙学校として開催していく形で続けるのか、などを幹事会でしっかり議論してほしいという意見が出た。第29回機関紙宣伝学校開催は2025年2月1日(土)午後の予定。

次回実行委員会 9月20日(金) 10:00～ @オンライン

■名古屋労連(仮)準備会

8月3日

愛労連運動方針にも盛り込んだように、いよいよ「名古屋労連(仮称)」の設立に向けた具体的な準備を進める段階に移ろうとしています。8月3日の「第9回結成準備会」では、一定のとりまとめを行う予定でしたが、もう一度準備会を挟み、認識を一致させる必要があると確認し、9月16日に「第10回準備会」を設けることとしました。第10回では、その後の具体化をすすめるための「スタートアッププロジェクトチーム」のメンバーを選任することも確認されました。なお、設立時期については未確定なものの、遅くとも2025年秋がひとつの目途となることを事務局から説明しました。

■わくわく講座開講式

8月3日

13人が参加。わくわく講座開講式として、第1章に関することとして『人間らしく生き、働きたい!』『こんな職場なんとかしたい!』～だから労働組合」と題し、名古屋市職労の磯村和佳子副委員長から話を聞いた。職場で差別を感じた発言があったとき、労組役員が反論してくれた体験から労組に加入、労組の力を実感し活動を続けていることや、労組のとりくみ・工夫・成果を通じて感じる労組の必要性などが話された。講演後は3つのグループに分かれて感想や職場の現状などを話し交流をおこなった。

■組織強化学習教育委員会

8月3日

12人が参加。わくわく講座開講式後に実施、感想をまとめた。今回は残念ながら受講生の参加都合がつかなかったため、次回は参加を促す、今後も受講生を増やす声掛けを続ける、などが確認された。

わくわく講座スクーリングは10月27日(日) 10時～12時@労働会館会議室にて。レイバーノーツ世界大会に参加した池田さんが、アメリカ労組の元気なとりくみ、労働組合とは、一緒に声を上げる必要性、などの講演をおこなう予定。

次回委員会 9月27日(土) 19:00～ @愛労連会議室

■原水爆禁止2024年世界大会広島

8月4-6日

広島で行われる原水禁世界大会に愛労連から佐賀事務局次長を派遣しました。被爆80年を迎えることを見据え、愛労連も今年の原水禁世界大会に一人でもおおくの仲間を広島に送ろうと、それぞれの地域や単産、単組でとりくみがすすめられました。その結果、愛知県代表団はのべ132名もの参加者が集まりました。8月6日の「世界大会」では、愛知からの参加者全員が壇上に上がり、愛労連西尾美沙子議長が代表団を代表し、力強く、核兵器廃絶と恒久平和の実現に向けた決意を語りました。愛労連の地域と単産からの参加者数については集約中ですが、福保労・医労連・生協労連・自治労連からの若い女性組合員の参加者が目立つ印象で、今後の平和のとりくみへの反映が期待されます。

■原水爆禁止世界大会視聴会①

8月4日

3人が参加。世界大会を愛労連会議室で視聴した。無事広島に到着して壇上で挨拶する元気な大村美恵さんの姿を見て感動した。愛知からの参加者は画面では判別できなかった。

■革新愛知の会シリーズ学習会②

8月4日

革新愛知の会と革新市政の会が共催で開催し、97人（会場74、オンライン23）が参加した。講演にはNPO法人アジア太平洋資料センター（PARC）共同代表の内田聖子さんを招いた。内田さんは、地域から民主主義を始めよう、公共を再生しようと杉並区長選挙で岸本聡子区長を誕生させた運動について学んだ。その後、保育士配置基準、給食無償化、介護、ジェンダー平等などについて各分野から報告がされた。

■憲法と平和を守る愛知の会世話人会

8月5日

9人参加。土曜の定例宣伝の報告と8月の予定を確認。7月13日には福保労の仲間が参加してくれ採用2年目の組合員がスピーチしてくれた。12月14日の宣伝日が東海北陸ブロックの総会で、翌週に変更要望をした。レジュメにはあり。土曜日の宣伝について体制がとれない団体から意見あったが、他の団体が参加することでこれまでと同様に継続。資料には愛労連NEWS（大会、最賃）が配付あり。7月28日に行われたインボイスシンポについてしんぶん赤旗に掲載され若干議論した。次回は、9月5日（木）16：30～愛労連会議室。

■第516回愛知地方最低賃金審議会

8月5日

審議会会長から、愛知労働局長に対し、愛知の最低賃金を現在の1,027円から50円引き上げ、1,077円とする答申を行った。この日は、労働者委員5名のうち1名が、使用者委員も5名のうち1名が欠席した。採決では、50円の引き上げに労働者委員4名が反対の票を、使用者委員4名と公益委員4名（会長は議決権なし）の8名が賛成した。（2日の専門部会でも投票あり。労働者2名が反対、使用者2名と公益2名が賛成した。会長は消費者物価指数＝食料4.87%と愛知県が調べた春闘の妥結4.8%をふまえ50円引き上げ率4.87%が妥当と発言）

愛労連は、この答申を受け、別紙の「愛知の最低賃金50円引き上げでは生活を改善できない」の事務局長談話を8月5日付けで発表した。

また、労働局から異議の申出について8月20日（火）まで受け付け、その異議内容を審議する審議会を8月21日（水）に開催すると説明した。傍聴者：上記とふれあいユニオン、社民党。5日テレビ愛知、6日の中日新聞、朝日新聞が報道した（確認できた機関）。

■原水爆禁止世界大会視聴会①

8月4日

3人が参加。世界大会を愛労連会議室で視聴した。無事広島に到着して壇上で挨拶する元気な大村美恵さんの姿を見て感動した。愛知からの参加者は画面では判別できなかった。

■第516回愛知地方最低賃金審議会

8月5日

審議会会長から、愛知労働局長に対し、愛知の最低賃金を現在の1,027円から50円引き上げ、1,077円とする答申を行った。この日は、労働者委員5名のうち1名が、使用者委員も5名のうち1名が欠席した。採決では、50円の引き上げに労働者委員4名が反対の票を、使用者委員4名と公益委員4名（会長は議決権なし）の8名が賛成した。（2日の専門部会でも投票あり。労働者2名が反対、使用者2名と公益2名が賛成した。会長は消費者物価指数＝食料4.87%と愛知県が調べた春闘の妥結4.8%をふまえ50円引き上げ率4.87%が妥当と発言）

愛労連は、この答申を受け、別紙の「愛知の最低賃金50円引き上げでは生活を改善できない」の事務局長談話を8月5日付けで発表した。

また、労働局から異議の申出について8月20日（火）まで受け付け、その異議内容を審議する審議会を8月21日（水）に開催すると説明した。傍聴者：上記とふれあいユニオン、社民党。5日

テレビ愛知、6日の中日新聞、朝日新聞が報道した（確認できた機関）。

■若者気候危機訴訟提訴 8月6日

14歳から29歳の全国16人の若者が気候変動で人権が侵害されているとして、主な火力発電事業者10社を相手取り、二酸化炭素の排出量削減を求める訴訟を名古屋地裁に起こした。全国規模での本格的な気候訴訟は全国初。名古屋地裁への提訴は、二酸化炭素排出量全国一の碧南火力発電所や武豊火力発電所を抱えるJERA（中電と東電が50%ずつ出資）があるから。

訴訟を支えているのは、全国の弁護士とともに気候ネットワークが財政的にも支えている。名古屋地裁での裁判となることから法廷外のたたかいをクール・クライメートあいちがになっていく。当面、この裁判の意義を深く理解していくために訴状勉強会を開催していく。第1回は訴状の概要について学び、引き続き章立てごとの学習会を開催していく。愛労連としても積極的に参加していくとともに全労連にも支援を求めている。

■安保破棄実行委員会 8月7日

4名参加。経過報告。加盟団体のとりくみ：愛労連は大会、最賃、昨日の気候訴訟を報告（ニュース配信）。情勢討議。沖縄の旅の詳細確認。総会を10月23日（水）18時30分からを予定。

■Ai交運部会総会 8月8日

西尾議長が来賓として参加し、愛労連を代表して挨拶した。

■非正規公務員組織化1万人プロジェクト会議 8月8日

非正規公務員の賃上げに資する「人事院勧告」の内容を共有するとともに、10月からはじまる「短時間労働者に対する社会保険適用範囲の拡大」および「年収の壁」への影響に鑑みた対応の必要性、雇用の安定に資する「3年公募の撤廃」を活かしたとりくみ、すべての自治体での「賃金改定＝4月遡及」の実施に向けた具体的なとりくみを協議した。9月18日・23日に「年収の壁学習会」（労働会館）を2回配置すること、11月17日に「あいち『非正規公務員』オータムミーティング2024」（国際会議場）を開催することを確認し、具体的な準備を進めることとした。

■424共同行動実行委員会 8月8日

愛労連会議室でおこなわれ、参加者は社保協、自治労連、国公、医労連2、民医連、全医労、愛労連の計8人。①情勢報告でコロナの感染拡大状況、地域医療構想の進捗状況や今後の展開などを確認した。②討議事項では、県内の再編・合理化進捗状況について、主にみどり市民病院の移転・建て替え・増床計画や国立がんセンターについて討議した。次回事務局会議は10月16日10時からとなった。

■愛知共済会事務局会議 8月8日

共済会事務所でおこない、参加者はJMITU、建交労、きずな2、愛労連、共済会事務局2の計7人。①この間の共済の加入増減や給付の実績について確認した。②組織活動費Bのお届けオルグを7月25日に実施した報告と残りのオルグを8月21日におこなう事を確認した。③9月23日のハゼ釣り大会について、共済加入相談コーナーや共済クイズなどをおこなう事を確認した。④7月6日の共済会総会でおこなった基本共済の改定について、適用は2024年6月1日からと確認した。⑤今後の会議日程を確認し、次回事務局会議は9月11日（水）、新年度第1回理事会は8月28日と確認した。

■名古屋労連（仮称）についての名北労連オルグ 8月9日

名北労連の役員3人が参加した。竹内事務局長が訪問し、名古屋労連（仮称）結成に向けた経過、これまでの議論の積み重ね、綱領・規約・財政案の検討状況について報告し、結集をよびかけた。

■A i 四役会議 8月9日

弁護士会懇談内容、会計、大会あいさつの担当について、話し合った。

■9の日宣伝 8月9日

6人が参加し、金山総合駅北口で実施した。酷暑の中での宣伝となったが、証明に応じてくれる姿もあった。体調に配慮し30分で宣伝を終えた。

■原水爆禁止世界大会視聴会③ 8月9日

4人が参加。原水爆禁止2024世界大会、長崎デー集会を愛労連会議室で視聴した。被爆者や海外代表からの発言、長崎の原爆被害の映像などがあった。

■A i 機関紙編集委員会 8月19日

オンラインで5人が参加。愛労連新聞8月10日号の振り返りと、9月10日号の企画打合せをおこなった。

■9・28愛知大集会実行委員会 8月19日

各団体から約20人が参加した。当日の次第について検討され、様々な要求を持ちよって開催することから、1人1分のリレートークを多数行うこととした。次の会議があったことから1時間弱で退席した。

■最賃宣伝（異議審）と異議書提出行動 8月20日

8時から三の丸（地下鉄：名古屋城駅5番出口）にて最賃1,077円の答申に対する異議訴え宣伝、自治労連5、国公2、医労連2、愛高教1、建交労1、千種名東労連1、事務局4、年金者組合1の17人参加。明け方までやや強い雨が降り実施が心配されたが、宣伝次回は雨が上がり、「異議あり 最低賃金1077円では物価高に追いつきません」のビラ692枚を配布した。そのあと、賃金課に第3次分として15通の異議書（合計47通）を提出した。

■名古屋市人事委員会への申し入れ 8月20日

8月8日の人事院勧告をふまえての要請。愛労連、医労連、建交労、生協労連、福保労の連名で提出。11人が参加。竹内事務局長、福保労の西田書記次長があいさつと要請書の内容を説明。参加者から賃金アップ、地域手当、会計年度任用職員の処遇と雇用の安定、公募問題を発言した。当局からは本日の要望と職種別民間調査をふまえて対応したいと述べた。

■全労連幹事会① 8月21-22日

初日の大半を使って組織拡大に向けた集中議論を行った。「対話と学び合い」「仲間を増やして要求を実現する」とりくみの実践報告として名古屋市職労とたかまつ学童保育労組がとりくみを報告した。秋季年末闘争方針の最終議論をおこなった。

■第517回愛知地方最低賃金審議会 8月21日

10時～11時10分。委員15人は全員参加。傍聴は医労連2、自治労連1、愛教労1、事務局2、ふれあいユニオン2、取材：中日新聞、朝日新聞、しんぶん赤旗。労働局長から会長に「最賃審議会の意見に関する異議の申出について（諮問）」があり、賃金課長が医労連はじめ54件の異議申出書の提出がありとし、約40分にわたり説明を行った。会長から質問はないかと確認したが、なし。続いて労働者委員と使用者委員から意見を求めた。

労働者代表の寺田委員は、異議書の内容は、考え方を含め、私たちが審議会で主張してきた方向性と同じものと受け止める。異議書にもあった物価高騰で近傍で働く多くの労働者の生活は厳しいことを重く受け止める。（最賃額が高い）関東圏はじめ県外への人材流出問題も含め議論してきた。

50円の引き上げは過去最高だが、私たちの主張が届かなかったことは残念だ。しかし、春闘の賃上げの流れを県内に早く波及させるためには発効日にもこだわる必要があり答申は尊重したい。中小・小規模事業所や医療・介護で働く人の支援強化、年取の壁を意識せずに働ける環境整備を進める必要があり実効性のあるとりくみを要望する。労働者のくらしの安定、人材流出問題が重要な課題だ。次年度もこれらにこだわって審議に臨みたい。

使用者代表の梶原委員は、答申を尊重して50円の引き上げで良い。使用者側としても引き上げの重要性を理解したうえで議論に臨んだ。労働者側の意見も尊重した。50円の根拠は、名古屋市の物価上昇率と春の賃上げの数値と理解している。

中小企業の現状として価格転嫁、サプライズチェーン全体としての適切な利益の配分などの課題があり、改善は道半である。

継続して賃上げが出来る環境整備の支援が必要という多くの異議書の意見は我々と同意見だ。行政としての実効性のある適切な支援施策を立案して早急な実行を求めたい

会長からは、「審議会に提出された資料をもとに議論した。3要素も十分議論した。中央に「目安」も斟酌した。異議書もふまえて議論を尽くした。答申通りで妥当。見直す必要は無いと考える。答申どおり決定したい」とまとめた。

「8月5日の答申どおり決定することが適当である」と労働局長に答申された。

■サマセミブロック実行委員会

8月21日

参加者は、愛知、岐阜、みえ4、静岡2、石川3、福井の計11人。サマセミ開催に向けて内容の具体化など協議した。①内容の具体化については、初日全体会が1からの具体化となったほか、2日目各コース、3日目全体会も内容の確定にいたっておらず、次回最終確認をおこなう。②昨年同様、LINEオープンチャットをつかうこと、感想アンケートにGoogleフォームを使うことなど確認した。③次回会議を9月9日(月)19時からおこない、参加者の状況をみながら運営についての詰めもおこなう。

■原水協理事会

8月21日

オンラインと合わせて開催。世界大会の報告があった。世界大会はオンラインを含め全国で1万人以上の参加、愛知からは132人の参加があった。30代以下が45人と、若い世代も多く参加していた。今後も多くのとりくみを予定。非核日本キャンペーンに力をいれることが呼びかけられた。ちひろカレンダー税込み1650円で販売予定。

原爆犠牲者を偲ぶつどい 9月2日(月)13時～ @名古屋市公会堂4回ホール

原水協69行動 9月6日(金)12時～13時 @スカイルビル前

2024世界大会報告会「核兵器のない世界」は実現できる 学生&高校生平和ゼミ

9月7日(土)13時30分～15時30分 @民主会館

9.26「核兵器廃絶国際デー」9月26日(木)12時～13時 @スカイルビル前

次回理事会 9月18日(水)18:30～ @愛知民主会館

■社保協四役会議

8月21日

愛労連会議室でおこなわれ、参加者は保険医協会、民医連2、医労連、自治労連、年金者組合2、医療研、愛労連、社保協の計10人。

介護、保険証、国保、後期高齢者医療制度、子ども子育て支援、生保裁判、年金、自治体キャラバンなど今後のとりくみについて確認した。①保険証存続をもとめるたたかいでは11月7日に日比谷野音で集会、愛知県内でも9月29日に栄で宣伝行動、10月11月にも宣伝行動をおこなう。②年金社一揆の日程が10月25日となった。③秋の自治体キャラバンはコースが確定した。

次回四役会議は9月30日(月)13:30から。

■単一協議会幹事会

8月22日

入居団体会議&防災訓練 10月10日(木)10時30分～東館2階ホール
内容は初期消防活動 講師は熱田消防署・労働会館自衛消防隊組織図確認
ホールプロジェクター見積もりや修繕に関して討議。
単一労働組合協議会定期大会・忘年会は12月3日(火)15時～

■高齢者大会現地実行委員会 **8月22日**

オープニングイベント及び分科会等の進捗上の確認をおこなうとともに、必要な要員の確保に関わる調整などを打ち合わせた。最終リーフについても紹介された。次回は9月12日。

■革新愛知の会代表世話人会 **8月23日**

自民党総裁選後に総選挙必至の状況の下、革新愛知の会として自民党政治の転換を実現するアピールを出すこととし文案を検討した。9月22日(日)の開催するシリーズ学習会③(山添拓参議院議員)の段取りについて確認した。

■秋の自治体キャラバン実行委員会④ **8月23日**

労働会館本館4階会議室でおこなわれ、参加者は保険医協会、自治労連、医労連、年金者組合、福保労、医療研、民医連、愛労連、社保協から計13人。要請項目のポイントや意見書の文章内容の確認、確定した今年度のコース・日程の確認と各コースの事務局長の人選をおこなった。今後、要請項目のポイントや意見書の修正、各コースの団長の人選を各担当で検討する。次回実行委員会は11月27日10時から。

■名古屋労連(仮)打ち合わせ **8月26日**

事務局で綱領と規約、よびかけ文のとりまとめについてすりあわせを行った。

■A i 青年協幹事会+サマセミあいち実行委 **8月27日**

リモートで開催し、参加者は医労連2、自治労連、建交労、愛労連の計5人。
前半にサマセミ実行委員会をおこない、参加者の確認、愛知担当パートの具体化をおこなった。
後半は青年協幹事会をおこない、7月28日(日)のスポッチャ交流会の振り返り、11月10日の第35回定期総会にむけての議案書のたたき台での議論、代表委員会の開催時間と場所の確認、総会の内容について協議した。総会に合わせて来年2月の全労連青年部沖縄ピースツアーに向けての事前学習などできないか協議したがまとまらず、次回決定する。
次回幹事会は9月17日(火)19:30から。

■愛知共済会理事会 **8月28日**

愛労連会議室でおこなわれ、参加者は自治労連、JMITU、タクシー協議会、きずな、愛労連、事務局から計8人。①この間の活動や共済の増減、給付の実績など確認した。②全労連共済の事業部会四役回の報告として、火災共済の制度改正にともない、一部加入者に不利益変更となることについて議論した。今後全労連共済でも検討され、9月18日の組織代表者会議で出される案を待つとした。③ハゼ釣り大会や共済学校など今後のとりくみについて確認した。

■鈴鹿大学裁判結審 **8月28日**

鈴鹿大学無期転換後のクビ切り撤回裁判が本日津地方裁判所で行われ、結審を迎えた。原告2名で闘ってきたが、1名は金銭和解し、もう1名は金銭解決には応じられず、裁判を継続する意思を示し、本日の結審に至った。台風で警報アラームが鳴る中、佐賀事務局次長と西尾議長とで傍聴に駆けつけた。判決日は12月12日(木)13時30分～津地裁で行われる。

■被爆80年愛知県民のつどい実行委員会 **8月29日**

被爆80年（2025年）に向けて、愛知独自のとりくみとしての「つどい」開催をめざす実行委員会を開催した。つどい名称決めなどをおこなった。
つどい実施は2025年9月27日（土）名古屋市公会堂を予定。
次回実行委員会 10月31日（木）14時～ @労働会館本館会議室

■マイナンバー制度反対連絡会学習会・総会 8月30日

政府が2024年12月、現行の健康保険証を廃止するとしていますが、保険証廃止は国民皆保険制度の根幹をゆるがすとともに、任意であるマイナンバーカードの取得を強制する動きを食い止め国民の基本的な人権を保障させる運動方針を討議した。

意見として、12月以降、新規の健康保険証の発行は終了というものであり、健康保険証が廃止されるわけではないので正しい表現が必要ではないか。保険証廃止を総選挙の争点にしていく、保険証の存続を求めていくことを希望をもってすすめていくことを確認した。閉会あいさつでは、マイナンバー制度は戦争する国づくりに向けたマイナンバー制度であり、その入口の保険証一体化を阻止すること、保険証を存続させることが、戦争する国づくりにストップをかけることになると結んだ。

■憲法と平和を守る街宣 8月31日

台風接近のため中止の通知（メール、FAX）を出したが、見逃したと1人現地に行った人がいたが、連絡が漏れた時のためにと当番を1人派遣していたので、現地で合流することができた。今後、天候不良など急な中止の連絡を、関係単産地域以外へはどのような方法でおこなっていくか検討する必要があると話合った。

■東三河労連定期大会（中止・書面開催） 9月1日

台風接近に伴い中止され、署名開催となった。愛労連からはメッセージを送った。

■尾中地区労連定期大会（中止・書面開催） 9月1日

台風接近に伴い中止され、署名開催となった。愛労連からはメッセージを送った。

■愛知県人事委員会要請前宣伝 9月2日

愛知県人事委員会への要請前に県庁前での宣伝を実施し、13人（自治労連4・国公1・愛高教2・愛教労1・千種名東1・愛労連4）が参加し650枚のビラを配布した。

■愛知県人事委員会要請 9月2日

愛知県人事委員会に2024年賃金改善に関する要請を行い、愛高教2、自治労連2、愛教労、名高教、愛労連2の8名が参加した。参加者からは愛知県が7月に発表した「県内の企業における2024周期賃上げ要求・妥結状況調査結果」では平均妥結額15,276円（前年比4,851円増）、平均賃上げ率4.80%（前年比1.48ポイント増）であり、官民是正を行うこと。国のアップデートに追従ではなく是正を行うこと。非正規の夏期休暇を4日に改善すること。教育現場の時差勤務の幅を一般と同様にする再任。用制度の是正を、小中教員の定員管理、45時間超過勤務者52%もおり人員をきちんと確保できる総合的な対応をオール県庁で行うこと。休業・休暇の拡充を。時間給の非正規職員の遡及改善。地域手当のアップ。人事委員会は労働基準監督機関としての役割があるが、行政の現場は多忙かを極め優秀な人が職場をさっていく。行政の持続性・継続性の担保をはかり、いのちや健康を第一にせず、勧告を行うよう要請した。人事委員会からは、毎年調査はしているがやり方を考えていかないと、真の声が聞けるような調査をしていかないといいけない。勧告は例年とおり10月10日前後目途としている。

■被爆79周年原爆犠牲者を偲ぶつどい 9月2日

被爆79周年原爆犠牲者を偲ぶつどいが公会堂で開催され。被爆者を代表して愛友会の金本理事長は、「1年間で112名の方が亡くなり胸が痛みます。どういう思いを持って亡くなっていったのか、亡くなった方の無念の気持ちと共に政府に核兵器禁止条約への参加を求めている。どんな理由があろうとも入らない理由にはならない。来年もどうか元気で会いましょう」と話された。愛知県、名古屋市、もとむら伸子衆議院議員、愛労連、愛知県平和委員会から来賓を代表してあいさつを行った。高校1年生の愛知高校の学生が、「被爆体験や戦争体験をきき、被害者でもあり加害者でもあることを実感した。どれだけ学んでも学びきることはできないが、学び・知ること、知らないは罪だということ、被爆体験を語り継ぐこと今だからこそ伝えられることもある、知って知らせて次の世代につなげていきたい」と力強い平和の誓いに感動を覚えた。文化行事は映画「はだしのゲンが見たヒロシマ」、『はだしのゲン』作者・中沢啓治さんのドキュメンタリー映画鑑賞を行った。最後に全員合唱「原爆を許すまじ」を歌った。

■高齢者大会事務局会議 **9月2日**

集会に向けての調整の進捗状況の共有を図った上で、当日の要員要請及び要員の「参加費」に関わる取り扱い等の検討を行った。9月12日の実行委員会で考え方を固めることを確認した。

■労働法制改悪反対実行委員会 **9月2日**

労働基準法解体につながる動きに対して、次回実行委員会（10月1日）でミニ学習の機会を設けることにした。愛労連からは、11月1日の「秋の地域総行動」の夜、労働法制中央連絡会の事務局長だった伊藤圭一氏を招き「過労死NO！労基法解体が労働者のいのちと健康に及ぼす影響について」学習会を持つことを紹介した。

■Ai組織拡大推進委・総がかり調整会議 **9月4日**

秋の組織拡大月間の準備のとりくみについて提起。「対話と学びあい」をスローガンに、いかに職場で対話と学びあいを展開し、労働組合の姿を見せていくとりくみが重要なことを話し合った。自治労連では9月入職もあり名水労では加入の声かけがすすめられている。スクールカウンセラーの人の相談を愛教労と友に行い、仲間に迎え入れたこと、会計年度任用職員の公募制度の撤廃を求める署名の展開、医労連は役員セミナーを開催し対話の実践トレーニングを学び、退勤時行動などで署名行動を行い組合加入を呼びかける行動を計画している。愛教労一宮市教組ではLINEチャット相談で8月に3名の組合員の加入。年金者組合は、自分の別の地域の仲間に組合入らない？と気軽に声をかけて加入がある、サークル活動への参加を通じて加入がすすんでいる。愛高教はアンケートを3種類用意してデスクオーガナイザー、机のうえを整理するもののプレゼントを考えている、など報告があった。

■日本平和大会in愛知実行委員会 **9月4日**

10人参加。前回6月25日の確認。2025年10月25日（土）、26日（日）に開催予定。全体集会会場を金山・市民会館中ホール（1149人）を予約。分科会場の候補として労働会館（3）、東別院会館、愛知民主会館、新教育館、教育会館。参加規模2日間で1000人めざす。「学びと交流のつどい」を8つ程度検討、テーマごとの責任団体を決め具体化する。（本日資料：昨年平和大会＝鹿児島開催要項）（今年11月16日の平和大会＝オンラインのパンフレット）。次回は10月2日（水）15時～愛労連会議室

■学習協常任理事会 **9月4日**

学習の友の読み合わせ学習を実施。当面の方針案やとりくみについて話し合った。労働学校、勤通大、学習の友3ヶ月お試しキャンペーン、全国学習交流集会in千葉への参加、などが呼びかけられた。

次回常任委員会 10月2日（水）19：00～ 労働会館本館会議室

■憲法と平和を守る愛知の会世話人会 9月5日

7人参加。8月からの土曜日定例宣伝の状況確認。自民党の総裁選挙、立憲の党首選、市民と野党の共同、国政などの情勢討論。諸団体のとりくみ状況。9月の土曜日宣伝の確認、愛労連担当の第2週12月14日と第3週21日の交替を確認。9月28日、あいち総がかり行動の大集会に参加。ガザ緊急アクション。次回は9月26日(木)16時～愛労連会議室(市川は16時30分から参加)

■労働法制中央連絡会 9月6日

経過報告では、全労連としての意見書提出以降、労働基準関係法制研究会の議論にも変化生じていることが事務局から紹介された。一方、公務を中心に「時短なき『週休3日制』」など、一日の8時間と定める労基法の原則さえ、ないがしろにされつつある現状などを共有した。また、総会に向けての準備などを議論した。

■クール・クライメートあいち事務局会議 9月6日

8人が参加した。9月28日の訴状学習会について具体化した。若者気候訴訟第1回口頭弁論が10月24日(木)14:00から名古屋地裁1号法廷(大法廷)となった。傍聴参加を広く呼びかけていくためにニュースレターを発行し周知していくこととした。

次回は10月17日(木)14:00から愛労連応接室にて。

■原水協69行動宣伝 9月6日

栄スカイルビル前にて12時～13時で、核兵器廃絶への街宣と署名集めをおこなった。愛知国公1人、愛労連1人を含む合計5人が参加した。

■検数労連定期大会 9月7日

検数労連の大会が港湾会館で行われ、愛労連から西尾議長が参加してあいさつを行った。

■全労連女性部定期大会 9月7日

舟橋初恵部長、全労連・黒澤幸一事務局長、日本共産党吉良よし子参議院議員、婦団連・柴田真佐子会長があいさつ。議案提案、10月に女性差別撤廃委員会日本審議(ジュネーブ)に全労連女性部からも代表を送るので代表派遣カンパの呼びかけなどがあった。各組織からの発言後、1年間の取り組みを総括後、24年度方針と予算、新役員体制を確立。大会宣言が採択された。新部長には、全教の高木りつさんが選任された。愛労連女性協からは、全労連女性部常任委員も合わせて、現地・オンラインで5人が参加した。

■国際人権愛知連絡会学習会 9月7日

9月13日、名古屋大学の石井教授を招いて「権利としての大学・高等教育」と題して、奨学金問題を中心に、経済的格差によって高等教育を受けることができなくなっていることが、結果として民主主義を危うくしていることなど、データと研究に基づき詳しく紹介された。とりわけ、労働組合の組織率や求心力の低下に関しても、高等教育の現状が大きな関わっている可能性も示唆された。これから奨学金問題に取り組む愛労連にとって、非常に参考となる学習会であった。愛労連から、事務局から2名、愛知国公から1名が参加した。

■福保労定期大会 9月8日

寺田副議長が臨席し、愛労連を代表して挨拶した。

■建交労定期大会 9月8日

加藤け副議長が臨席し、愛労連を代表して挨拶した。

■A i 四役会議

9月9日

大会などあいさつの割り振り、秋闘から春闘に向けての準備について議論した。秋は総選挙が予定されており、組合員に投票に出向かせる意識を高めていくために、選挙を我がこととして捉える運動の提起が必要ではないか、愛労連としては全国一律最賃1500円の実現を迫る選挙を、産別としても重点課題を積極的に打ち出していくことが大切なのではないかなど、議論を行った。サマセミの愛知からの参加が不十分な報告を受け、青年運動の強化について議論した。次回会議は10月24日、11月5日、12月10日。

■サマセミブロック実行委員会

9月9日

リモートでおこない、参加者はみえ6人、愛知、岐阜、静岡2、石川3、福井の計14人。9月21日のサマセミ開催にむけて最終確認をおこなった。参加者は現時点で38人。各パートの内容について確認した。①初日についてBBQは炉を追加し、各グループごとに1基使うとした。全体会はワールドカフェ形式で多くの参加者との話し合いをおこなう事とした。②2日目フィールドワークについて、各コースの内容を確認した。③3日目全体会は、内容が最終確定しておらず、資料などの作成も石川県で急いでもらう。④初日の駅からの送迎について、当初JR四日市駅からを予定していたが、送迎が必要な参加者が全員名古屋駅を通過すること、名古屋駅から四日市駅までの電車移動の時間と四日市駅からの車での移動時間を合計すると、名古屋駅から車移動した方が早いことなどから、名古屋駅から車で移動することとした。

次回実行委員会は10月29日を予定。

■社保協理事会

9月9日

保険医協会伏見会議室とリモートで開催された。①各団体の報告で、医労連、自治労連、国公、愛労連、保険医協会などが報告。愛労連からは最賃の改訂についてと社会保険の適用拡大に対するとりくみなどを報告。その他、国公からの人勧についての報告などがされた。②協議事項では、介護や健康保険証存続、国保などのとりくみや目前に迫った秋の自治体キャラバンについての確認などがされた。

■9の日宣伝

9月9日

共同センターによる9の日昼宣伝を金山駅で行い、愛労連、平和委員会、革新懇、共産党の4名が参加した。署名4筆、チラシ25枚配布した。自民党総裁選候補者は違法な裏金問題を放置して、アメリカ財界いいなりの憲法改正を言いだし軍拡予算は5兆円から8兆円もの増額予算で医療・教育・社会保障予算は渋い。米不足問題で農業や食料政策のお粗末さが露呈したが、国民目線でない自民党の古い政治を終わらせようなど、スピーチが行われた。

■中川地域センター総会

9月10日

愛労連からは連帯のメッセージを送付した。労災請求不認定、審査請求却下、再審査請求却下、労災認定裁判敗訴、損害賠償請求地裁敗訴と長く厳しいたたかいが続いたが、名古屋高裁（長谷川恭弘裁判官）は上司のパワーハラスメントを明確に認め、労災認定を認める画期的な勝利判決となった。

■愛知共済会事務局会議

9月11日

共済会事務所でおこなわれ、参加者は全国一般、JMITU、きずな、愛労連、事務局から計7人。①この間の共済の増減や給付の実績について確認した。②全労連共済の組織代表者会議への参加者の確認ともに、火災共済の変更について組織代表者会議での報告を注視することとした。③9月23日のハゼ釣り大会について、役割分担やスケジュールを確認した。④今後の日程を確認し、次回事

務局会議は10月9日(水)10時からおこなわれる。

■A i 最賃・公契約対策委員会

9月12日

6人参加。①愛知地方最低賃金審議会に関わるこれまでのとりくみと審議・答申の評価（浅生さんからの審議会に提出された資料の分析等）＝今年度～来年度への具体的とりくみも議論、②10月1名古屋駅と地域での宣伝行動、③愛労連署名用紙原案について、④総選挙がある場合の投票日以前に地元国会議員に一律署名紹介議員への要請行動（10月8日、11日を中心に）。第3回最低賃金・公契約問題対策委員会＝10月31日（木）13時～15時（愛労連会議室）。

■A i 機関紙編集委員会

9月12日

オンラインで4人が参加。愛労連新聞9月10日号の振り返りと、10月10日号の企画打合せをおこなった。

■東濃信金労災認定訴訟

9月12日

東濃信用金庫の男性職員が2017年に自殺したのは上司のパワハラが原因として、男性の父親が労災認定を国に求めた訴訟の控訴審で名古屋高裁からは、一審の名古屋地裁判決を取り消し労災と認める判決が言い渡された。激しい叱責は業務上必要な範囲を超え、心理的負担は非常に大きく、精神疾患の発病が避けられない程度の強さだったと自殺との因果関係があると認定された。今後は上告阻止のFAX行動をおこなう。

■全労連非正規センターオンライン学習会

9月12日

第3回非正規センターオンライン学習会が19:00～19:45まで行われた。「声を上げ、みんなが主体者となる運動をつくろう！～レイバーノーツ大会から学ぶ～、レイバーノーツ大会参加者による座談会では、原田さん（首都圏青年ユニオン）、米沢さん（日本医労連）、大門さん（国公労連）のトークでレイバーノーツの学びを対話で深掘りした。トークではいかに、当事者の意識を高めていくことが問題の解決や打開につながっていくことが話された。

■単一事務局会議

9月12日

10月9日の入居団体会議の議事内容や、第3四半期会計、修繕状況などを議論した。

■A i パ臨連幹事会

9月13日

オンライン含め6人が参加。各組織の活動報告をおこなった後、11月17日に開催予定のあいち非正規公務員オータムミーティングへの参加呼びかけと、春闘期に向けての活動についてなどを話し合った。

次回幹事会 10月18日（金）18:30～ @愛労連会議室

次々回幹事会 11月22日（金）18:30～ @愛労連会議室

■全労連東海北陸ブロック幹事会

9月13日

幹事7人全員が参加。各県での最賃闘争や秋季年末闘争の交流を行った。協議事項では、10月19日～20日に三重・湯ノ山ロッジで開催する組織拡大交流集会について検討し具体化した。内容は「対話と学びあい」「なかまを増やして要求を実現する」とりくみの具体化をどう進めたいのかを学び考え合えるものとして、全労連の竹下事務局次長の講演、岐阜県労連、名古屋市職労からの特別報告とワークショップを基本とすることを確認した。次回の幹事会を10月

■地域手当格差違憲訴訟打合せ

9月13日

第一法律事務所で弁護団事務局長の北村弁護士と竹内判事もオンラインで参加。こちらからは愛労連から竹内・佐賀、自治労連から松井、国公から青山各氏が参加した。この裁判の本質を竹内判

事から聞くとともに、今後の共同について話し合った。弁護士会議にも参加していくこととした。

■食農健宣伝

9月13日

金山イオン前にて街宣を5名で行った。米不足の実態は政府の農業政策にあること、農業・酪農支援を行い安定安心の食糧需給を訴えた。

■全国一般定期大会

9月14日

谷藤副議長が参加し、愛労連を代表して連帯のあいさつを行った。

■憲法と平和を守る街宣A

9月14日

憲法と平和を守る愛知の会のメルサ前宣伝は国公3人、東海法労1人、きずな1人、中センター1人、年金者高木さん、事務局2人、社民、新社会党含め14人で宣伝を行い85個のティッシュ、13筆の署名を集めた。

署名には、増税への関心や、軍事費が増え危機感を感じている、自民党総裁選で自民はやりたい放題との声が寄せられた。同じ場所で国民民主が街宣を行うため、市民の会は30分で宣伝を切り上げた。

■名労連（仮称）準備会

9月16日

25人が参加した。綱領・規約・財政の案と結成呼びかけ文について内容を検討し概ね確認した。月内にこれを束ねて討議資料としてまとめ、各組合での議論に付すこととした。また、準備会内にスタートアッププロジェクトチームを設置し、結成に向けた詳細な事務段取りを含めた準備を進めていくこととした。次回の準備会は来年2月1日とし、秋の結成をめざす。

■A i 青年協幹事会

9月17日

愛労連会議室とリモートでおこない、参加者は医労連2、建交労、自治労連、愛労連の計5人。主に10月2日の代表委員会と11月10日予定の定期総会にむけて議案書の作成、代表委員会の概要について、総会の概要についてなど協議した。11月10日の定期総会については、衆議院議員総選挙の投開票日と重なる場合は日程を変更すると確認した。

■地域手当格差違憲訴訟弁護士会議

9月17日

愛労連・自治労連・国公が支援に加わることとなり、弁護士会議に参加することとした。地域手当に関わる国公職場や地方自治体の実態について情報提供していく。

■あいち総がかり行動事務局会議

9月18日

8人が参加。9.27集会のリレートークや会場設営など準備状況の確認を行った。10月19日(土)の集会は、13:30から若宮広場ミニスポーツ広場で開催することとした。

■革新市政の会総務代表世話人会

9月18日

定期世話人総会10/22、要求交流大集会12/5、「映画〇月〇日区長になる女」上映会12/21の具体化を行った。総選挙情勢によっては、定期世話人総会と要求交流大集会日程変更することも確認した。

■革新県政の会代表常任幹事会

9月18日

愛知県に対する予算要望書について概ね確認した。26日には県に提出し、11月26日(火)13:30から県議会議事堂で懇談をおこなう。

■安保破棄常任幹事会

9月18日

4人参加。沖縄平和ツアー、日本平和大会実行委員会、総がかり行動など経過報告。各団体からのとりくみ報告、愛労連からはNewSにもとづき、最賃、秋のとりくみ、能登半島地震被災者支援第6次ボランティア、14日の栄宣伝を報告。自民党総裁選など情勢論議。今後＝安保破棄実行委員会総会を10月23日としていたが、総選挙などの情勢から11月27日(水)1830～(労働会館)に変更にした。議案、体制、特別講演の講師、ビラなどは次回会議で確認。次回は10月9日(水)、次々回は11月20日(水)、いずれも10時から愛労連会議室。

■原水協理事会

9月18日

オンラインと合わせて開催。活動報告、交流を中心におこなった。今後も多くのとりくみを予定。非核日本キャンペーンに力をいれることが呼びかけられた。ちひろカレンダー税込み1650円で販売予定。

原水協69行動 10月9日(水)12時～13時 @スカイルビル前

9.26「核兵器廃絶国際デー」9月26日(木)12時～13時 @スカイルビル前

非核平和の願いを実現する愛知県(名古屋市)要請行動

10月24日(木)10時半～12時 愛知県、13時半～15時 名古屋市

国連軍縮週間行動 10月26日(土)13時～14時 @スカイルビル前

次回理事会 10月16日(水)18:30～ @愛知民主会館

■東京地評9.19争議総行動

9月19日

全国一般アクリル争議がエントリーシダウ・ケミカル社前行動と要請を実施した。林副議長が愛労連を代表して参加した。

■非正規公務員プロジェクトチーム会議

9月19日

議題は非正規公務員に関わる経過の報告や、今後のプロジェクトの展開について協議した。10月1日最低賃金の引き上げに伴い「年収の壁」への関心がいっそう高まり、年収の壁学習会2回実施の意義が高まっている。プロジェクトから1周年を記念し11月17日「非正規公務員オースタムミーティングinあいち」の具体化について、獲得目標や実施要項など議論した。10月15日なくそう官制ワーキングプア!大阪集會に愛労連車で便乗し参加をしていく。集會ではたかひの現場からとしプロジェクトとして報告することとなった。各組織より名古屋市職労では保育園の調理員の新規採用が止まっており署名・チラシを作成。會計年度任用の集まりをもち40数名が集まり5年の公募撤廃について交渉の進捗など報告し、生活の不安定さ、試験を受けることが心理的にも負担になっていること等意見がだされた。自治労連・愛教労で対応したスクールカウンセラーの組織化の計画が話された。建交労保育パート支部保育、対象者は1200人、園長によって応募の撤廃の理解がなく不安を抱えている人もいる。決まっていないことを園で話して混乱が広がっている事実など保育課に伝えていくこと、今後の対応について相談を行っていく。

次回会議は10月17日

■Ai女性協幹事会

9月20日

リアルで8人が参加。全労連女性部総会参加報告、秋の労働局要請案担当決め、母親大会、はたらく女性派遣についてなど、今後の活動方針を話し合った。今年度もグループLINEを活用し、連絡確認を密にする事とした。

次回幹事会は、10月20日(木)労働局要請行動後～ @場所未定

■機関紙宣伝学校第2回実行委員会

9月20日

リモートでおこない、4人が参加。自治労連本部で機関紙づくりを担当している武田さんに講演を依頼することとした。機関紙の作成・取材方法などの講演を依頼予定。分科会は3つ。内容は検討中。第29回機関紙宣伝学校開催は2025年2月1日(土)午後。

次回実行委員会は調整中。

■ゆにきゃん

9月21日

愛知からは福保労1人の参加となった。

■中電吉田さん勝利報告集会

9月21日

労働会館にて勝利報告集会が行われた。集会には中電人権裁判で闘った方が大勢参加し、愛知で闘われてきた大須事件、たちばな事件など民主化を求めるたたかひの歴史上に勝利があることが話された。過労死事件は個人的に解決をはかることが最近は多くなってきた中で、みんなで勝利を分かち合えることはすばらしいと讃えられた。愛労連からは西尾議長が代表してあいさつを行った。

■第31回サマーセミナー

9月21-23日

三重県四日市市で開催。参加者は50人（三重、愛知、静岡、岐阜、石川、福井、全労連青年部から参加あり。子ども含む）。「つながり」をテーマに2泊3日で交流や学習にとりくんだ。

参加者の特徴として、開催県の三重県や静岡県からの参加者が多く、初参加者も多く、例年になく男女比が拮抗していた。

今回は2日目を除き、話し合いをおこなえる内容となっていた。参加者同士が来年のサマセミについて話し合う場面も多く見られ、すでに来年の参加を呼びかけあうなど来年に向けて良い雰囲気となっていた。

■革新懇シリーズ学習会③

9月22日

日本共産党参議院議員の山添拓氏を招いて開催され、172人（会場159、オンライン13）が参加した。山添氏は「日米同盟で日本を守れるか」をテーマに講演。岸田政権のもとでもうれているにすすめられている大軍拡の実態を示しつつ、しかしそれが緊張をさらに高めることになっていること、台湾有事を想定した軍備強化についても、米中の対立・緊張であって、日本がどちらか一方に汲みしなければ、日本には直接の関係はないことであると、ASEANに学び平和の外交と共同を東アジアでつくっていかうとよびかけた。

■非正規公務員PT学習会②

9月23日

9月18日に続いて2回目の学習会に44人（会場11、オンライン33）人が参加した。制度が難解なこともあり、國枝講師の講義は2回目、3回目という参加者もいたが、聞く度に理解が深まっていくとの感想も寄せられた。賃上げや労働時間数を増やして積極的に所得を増やして壁を越えていく利点を理解しつつ共感をひろげていく必要がある。

■Ai労働相談センター全体会

9月25日

10名参加（うちオブ参加：健康センター2）。新規相談件数7月83件、8月66件。20年以降、7月の相談件数は一番多かったが、6月が少なかったこともある。紹介単産は4、紹介件数は8、組合加入は3名（建交労1、全国一般2）。相談状況の共有化。なんでも相談会12月21日（土）は全労連も協力。過労死シンポ11月12日（火）14時から中小企業振興会館（チラシあり）。金曜の担当の高松相談員が事情で金曜がきびしくなった。当面は第3金曜について、個別に交替する。その他の金曜は、来年検討。

■Ai単産地域代表者会議

9月25日

31人（13単産16人・9地域10人・事務局5人）が参加した。発言は単産8人、地域2人で女性の発言は2人だった。各組合から確定闘争や年末一時金闘争の具体化、組織拡大について発言された。

■名南労連定期大会 9月25日

単産地域代表者会議と重なったことからメッセージを送付した。

■憲法と平和を守る愛知の会 9月26日

参加は6人。土曜宣伝の報告。総選挙に向けて野党の共闘など情勢討議。9月～10月の土曜宣伝担当の確認。集会、学習会など諸団体のとりくみ予定。土曜宣伝、12月14日の愛労連担当は東海北陸ブロック総会のため、翌週の21日と変更した(前回確認済み)。次回は11月13日(水)14時～愛労連会議室。

■名北労連定期大会 9月27日

北区生涯学習センターにて名北労連総会が開催され、事務局から佐賀事務局次長があいさつをし、名労連(仮称)の設立に向けた準備状況の説明等、情勢の報告をおこなった。厳しい状況におかれる地域労連の状況の中で、職場と地域の現場で奮闘する組合員の発言が相次いだ。

■Ai組織強化学習教育委員会 9月27日

8人が参加。各組織の学習教育のとりくみや組織強化拡大の報告をおこなったあと、今後の行事についての確認。わくわく講座スクーリングが10月27日衆議院選挙投票日と重なることが予想されるが、午前中のみスクーリングなので、そのまま開催することとした。わくわく受講者への声掛け、それ以外の組合員への参加促しなどが意思統一された。

わくわく講座スクーリング 10月27日(日)10時～12時 @労働会館会議室

レイバーノーツ世界大会に参加した池田さんが、アメリカ労組の元気なとりくみ、労働組合とは、一緒に声を上げる必要性、などの講演をおこなう予定。

次回委員会 11月19日(火)19:00～ @愛労連会議室

■東海自治体問題研究所2024年度総会 9月28日

自治労連愛知県本部ホールにて、東海自治体問題研究所総会が開催された。愛労連からは林副議長、高木幹事、佐賀事務局次長が参加した。活動方針の中では、直前に迫った「全国地方自治研究交流集会」への積極的な参加が呼びかけられた。

■全労連青年部定期大会 9月28-29日

全労連会館で開催され、参加者は40人ほど。1日目には議案提案・質疑応答、リード発言、分散交流、全体交流などおこなわれた。リード発言では、道労連の「青年協再開への経過・とりくみ」、全教の「若者憲法集会のとりくみ」、石川県労連の「青年活動の再興と被災状況」の3本と「東海北陸ブロックサマーセミナーについてと春闘について」の一般発言がされた。その後、分散交流でリード発言を受けての感想交流などがされ、全体交流で各グループからの報告がされた。

2日目は全体討論と総括答弁、役員選挙などがおこなわれた。

■若者気候訴訟訴状勉強会 9月28日

会場とオンラインを合わせて約120人が参加した。弁護団からこの裁判の意義と訴状の中心的内容について解説された。

■日本母親大会in和歌山オンライン視聴会 9月28日

日本母親大会が開催され、視聴会を労働会館東館ホールでおこなった。現地へは78人が参加した。視聴会会場には46人が参加。県内サテライト会場が17カ所開かれた。全国では、和歌山県会場とオンラインをあわせて11500人が参加した。

全体会は、安田和也さん(東京都立第五福竜丸展示館学芸員)の講演「第五福竜丸、みんなの船～ビキニ水爆実験70年、世界のヒバクシャとともに核兵器なき地球を～」を聞いた。世界の核の

現状や、歴史、核実験で放出された核物質はいまだに検出されている事などが話された。会場全員参加の各地域エール交換や、運動報告、決議採択など多数のリアル参加で、熱気溢れる団結した大会となった。来年は東京で開催予定。

■止めよう戦争への道！ 幸せな未来へ9・28愛知大集会 **9月28日**

久屋大通公園光の広場で開催された「止めよう戦争への道！ 幸せな未来へ 9.28あいち大集会」は、500人を超える参加者で、要求を掲げたのぼり旗、バナーを持って光の広場いっぱい埋め尽くした。主催者挨拶は、実行員委員会共同代表の草地妙子さん。「安部第二次政権から、戦争する国が推し進められてきた。総裁選挙で勝った石橋氏は9条2項の削除が必要だと主張している。憲法9条のたがが外れれば、私たちの命は守られるどころか軍国大国化の渦に巻き込まれていく。私たちが要求し、声を出してのぞむ未来を、国に示す有権者としての気概が今こそ必要。腐敗した政治を終わらせよう」と訴えた。

その後、様々な分野で要求を掲げて運動している25人が1分間リレートーク。愛労連方は、医労連が介護、愛高教が教育と教員の働き方、福保労が最賃で発言した。

■能登半島震災支援ボランティア第7次派遣 **9月28-29日**

愛労連からは11人（自治労連10、医労連1）が参加した。現地では土嚢づくりなどに従事した。

■能登水害支援緊急物資支援 **9月29日**

豪雨水害支援として、米や水、インスタント食品など29万円分をコープあいち上社店の協力を得て、愛労連宣伝カーで石川県羽咋市にある被災者支援センターに届けた。

■全労連メディア講座① **9月30日**

全労連オンライン講座として、3回連続講座として開催。1回目は、毎日新聞 東海林智さん（元・新聞労連委員長／元・MIC議長）、地平社/Choose Life Project 工藤剛史さん（元TBS NEWS23 ディレクター）を講師に迎え、地元マスコミなどに取材されるために必要な工夫やアプローチの方法、記者との関係をつくるスキルを新聞、テレビ、出版で報道する立場の二人から学んだ。こちらから記者へのオルグをする、開催時間は午後2時ごろを予定する、「初」「最大」「〇〇年ぶり」など興味を引く見出しを使う、取材対象となる当事者に参加してもらう、など具体的な事例が話された。

■社保協四役会議 **9月30日**

愛労連会議室でおこなわれ、参加者は保険医協会、民医連、愛労連、年金者組合、医問研、社保協の計6人。協議事項として、①9月26日の「いのちまもる国民集会」について、②介護について、9月16日の集会の報告となんでも電話相談の実施についての協議、③保険証存続をもとめる9月29日の宣伝の報告、④424共同行動の県との懇談が11月12日10時からにきまった、⑤国保について、9月16日の国保改善運動交流集会の報告とこれから始まる署名についての確認、⑥秋の自治体キャラバンの確認と事前学習会の講師の検討、⑦知っトクパンフの作成についてスケジュールの確認などをおこなった。

次回四役会議は11月13日(水)10時から。

■国際人権活動愛知連絡会事務局会議 **9月30日**

愛労連応接室にて、国際人権活動愛知連絡会事務局会議を開催した。9月7日に実施した名古屋大学石井先生による学習会を振り返り、参加者が思ったように振るわなかったことの分析をおこなった。それぞれの単産の大会などの日程が重なったことだけでなく、そもそもの発信と周知にも問題が生じていること等もその要因となっていることを推察した。12月1日にも学習会を企画してい

るものの、愛労連の春闘討論集会とかぶる設定となった。幅広く参加者をよびかける工夫の検討を確認した。

■最賃周知宣伝 10月1日

名古屋駅で実施し、27人が参加した。「今日から50円アップで1,077円」「全国一律最賃」のチラシが入ったティッシュ約700個を配布した。シールアンケートでは、「今日から1,077円を知っていますか」の問いには、知らなかったが24人で57.1%。「最賃はいくらにすべきですか」には、22人(55%)が2,000円となった。(1,200円に6人、1,500円に9人、1,700円に2人、1,700円に2人)。署名も5筆集まった。

この日は、早朝から4地域でも宣伝行動が行われました。千種・名東労連は4人で200枚(地下鉄:本山駅)、尾中労連は5人で200枚(JR春日井駅)、西三河労連は5人で500枚(JR安城駅)、尾東労連は4人で250枚(瀬戸市駅)、名古屋駅と同じピラを配布、横断幕も掲げた。

■愛知労働法制改悪反対実行委員会 10月1日

樽井弁護士を講師に労働基準法制を大きく変容させようとする動きについての学習をおこなった。愛労連のとりくみの報告として、11月1日に実施する秋の地域総行動の企画の一つとして、「過労死No!『労基法解体』は労働者に何をもたらすのか?」学習会を企画していることなどを報告した。

■Ai青年協代表委員会 10月2日

労働会館本館とリモートを併用しておこなった。参加者は執行部5(医労連2、建交労、自治労連、愛労連)、自治労連2、医労連、愛高教、全印総連、福保労の計11人。第35回定期総会に向けて、総会概要、議案書、総会役員などを提案し、採択された。討論では各組織の状況や青年活動に対するの考えなどが話された。第35回定期総会は11月10日(日)15時から名古屋港湾会館で開催する。

■原水協財政部会 10月2日

6人が参加。2024年度第3四半期の決算状況と年度末決算見込みについて報告を受けた。今年度の剰余金は5万円程度であり、次年度以降の予算立ては厳しい状況にある。来年度は被爆80年であり、一定の増収は見込めるが一過性のものならざるを得ない状況を全体の認識とした。

■2025年日本平和大会実行委員会③ 10月2日

10人参加。9月4日の第2回実行委員会の確認。「学びと交流のつどい」のテーマを議論。案として①愛知の兵器産業と大軍拡、②医療を主題とした企画、③愛知・名古屋空襲と戦跡、④大軍拡と私たちの暮らし(子育て含む)、⑤戦争とつながる地方自治の破壊、⑥環境と気候危機、⑦沖縄をはじめ軍事拠点化、⑧平和を求める高校生の運動交流。各テーマの担当組織(案)を後日通知して、次回、第4回実行委員会で議論する=12月4日(水)15時~17時 愛労連会議室。

■学習協常任理事会 10月2日

当面の方針案やとりくみについて話し合った。労働学校、勤通大、学習の友3ヶ月お試しキャンペーン、全国学習交流集会in千葉への参加、などが呼びかけられた。

オンライン労働学校「学びの森」に愛労連が広く呼びかけ、学習協でも担当を決めて一緒に学ぶことにした。10月24日(木)18:45~毎週木曜日全7回。

次回常任委員会 11月6日(水)19:00~ 労働会館本館会議室

■天白労連名労連オルグ 10月3日

地区労の要請を受け名労連(仮称)の設立に向け、準備会がとりまとめた資料の説明を佐賀事務

局次長がおこない、これから地区労として検討を進めるスケジュール感などを踏まえた対応をお願いした。

■保育園職員1200人雇止め記者会見 **10月4日**

10月3日に愛労連と建交労に示された子ども青少年局からのゼロ回答を踏まえ、10月4日、任命権者たる河村たかし市長が復帰をめざす「衆議院第二議員会館」にて、「5年目公募」の不合理性を問う緊急記者会見を全労連の全面的なバックアップを得て開催した。愛労連からは西尾議長と佐賀事務局次長、建交労保育パート支部から尾崎さんが参加した。会見には和光大学名誉教授でジャーナリストの竹信三恵子さん、東海労働弁護士事務局長の田巻紘子弁護士、北海学園大学の河村雅則教授から全面的な協力と応援を頂いた。マスメディアの関心も高く、地元中日新聞の小野木論説委員はじめ、朝日新聞の澤路編集委員、ジャーナリストの小林美希さんらも参加され、会見時間は当初の予定より大幅な延長を余儀なくされた。報道は朝日新聞が即日WEB配信をおこない、一時ヤフートップニュースにも掲載され、多くのコメントが寄せられた。翌日朝刊では朝日新聞(東海版)、中日新聞(県内版)、東京新聞はこちら特報部で特集記事を掲載した。

■知多労連定期大会 **10月4日**

竹内事務局長が参加し、愛労連を代表して連帯のあいさつを行った。

■地方自治研究全国集会 **10月5-6日**

2日間にわたって名古屋国際会議場で開催され、全国から延べ1200人が参加した。テーマは「守ろう いのちとくらし・人権 ～憲法と地方自治をいかに公共を取りもどそう さあ、はばたこう」。5日は歓迎文化行事として、「高校生フェスティバル実行委員会」による群舞で開会、つづいて伊藤真さん(伊藤塾塾長、弁護士)が記念講演。「わたしたちのいのちとくらしと日本国憲法～平和・人権・地方自治」、憲法や政治に関心がなくても「無関係でないこと」を知ってほしいと述べた。

■東海大王製紙パッケージ労組裁判 **10月7日**

大王製紙子会社の、大王パッケージ株式会社愛知工場の女性職員が上司からセクハラなどを受けたとして、男性上司2人と同社に損害賠償を求め名古屋地裁豊橋支部に提訴した裁判の第2回口頭弁論がおこなわれた。傍聴席に入りきれないほどの支援者19名が集まった。裁判前には、豊橋駅前にてチラシを80枚ほど配付、近づいていろいろ聞いてくれ興味を持ってくれた人や、ニュースで見たことがあるという人など反応は良かった。裁判後は報告集会を実施し意思統一をした。今後も、傍聴席を埋めて応援することや大切。オンライン署名など支援をお願いしたいと訴えがあった。

■Ai組織拡大推進委(総がかり調整会議) **10月7日**

総がかり作戦・あいち非正規公務員1万人組織化プロジェクトで取り組んできた、国会での名古屋市1200人保育士の雇止めについての記者会見の報告、今後の取り組みとして11月17日オータムミーティングを行うことを報告した。7、8月からの拡大は151人加入、新組合結成は医労連あまこだ労組に続き、西区老健施設で組合新結成を予定していることが報告された。「対話と学びあい」の具体化として、対話の行動を計画していくことを確認した。次回の会議11月18日(月)18時30分～

■革新市政の会臨時総務代表世話人会 **10月7日**

候補者問題について検討。10月11日に臨時総会を開催しすることとした。

■最賃国会議員等事務所訪問 **10月8日**

9人が参加し、12候補者を訪問した。

■東海大王製紙パッケージ労組ハラスメント裁判支援 10月8日

大王製紙子会社の、大王パッケージ株式会社愛知工場の女性職員が上司からセクハラなどを受けたとして、男性上司2人と同社に損害賠償を求め名古屋地裁豊橋支部に提訴した裁判の第2回口頭弁論がおこなわれた。傍聴席に入りきれないほどの支援者19名が集まった。裁判前には、豊橋駅前にてチラシを80枚ほど配付、近づいていろいろ聞いてくれ興味を持ってくれた人や、ニュースで見たことがあるという人など反応は良かった。裁判後は報告集会を実施し意思統一をした。今後も、傍聴席を埋めて応援することや大切。オンライン署名など支援をお願いしたいと訴えがあった。

■秋の自治体キャラバン・団長事務局長会議 10月8日

労働会館本館でおこなわれ、約20人が参加。秋の自治体キャラバンの要請項目のポイントについての学習とキャラバン当日の実務についての確認をおこなった。

■革新市政の会総務代表世話人会 10月9日

総務代表世話人会として候補者との政策・組織協定締結、推薦についての最終確認を行った。提案された内容について確認し、11日に開催する臨時総会に付すこととした。

■全労連幹事会 10月9-10日

来週等に向けた1日目のフリートークが行われた。愛労連からは春闘に向けた準備を大切にすること、大企業の内部留保と責任追求、地域手当違憲訴訟の支援などを意見した。

■安保破棄常任委員会 10月9日

情勢議論、各団体からの報告（愛労連からはNew Sで、最賃アクション、能登支援、会計年度任用職員公募、9.28集会・デモ）、小牧基地・名古屋港管理組合への申し入れ、小牧平和集会を確認。安保破棄実行委員会総会の変更。

11月27日⇒12月9日（月）18：30～東館ホール（総選挙後の情勢などで「講師：渡辺治氏」を確認。

■9の日宣伝 10月9日

金山駅北口でおこない、参加者は共産党、革新愛知の会、平和委員会、きずな、愛労連の計5人。石破政権下での軍拡の危険性などが訴えられ、軍事費よりも社会保障など私たちの生活に関わることに税金が使われるように、総選挙で政治を変えようなど訴えた。

■愛知共済会事務局会議 10月9日

愛知共済会事務所でおこなわれ、参加者はきずな2、JMITU、愛労連、共済会事務局の計6人。①この間の共済の増減、給付の実績についてや9月18日の組織代表者会議、9月23日のハゼ釣り大会の報告などがされた。②11月9日(土)の共済学校について、時間や内容について協議した。③今後の日程について確認し、次回事務局会議は11月14日(木)10時から、次々回は12月11日(水)10時からとした。

■愛労連名古屋市総務局への「5年目公募」に関わる緊急要請 10月9日

10月9日、東京で「都スクールカウンセラーの「5年目公募」による一斉雇い止め集団訴訟」の提訴・会見がおこなわれるタイミングに合わせ、愛労連・建交労として、名古屋市総務局長から「要求書」の回答をもとめる要請を緊急で実施した。内容は10月27日提出した要求書の回答を、マスコミにリリースした上で10月11日16時半に直接受け取りに行くというシンプルなもの。その後、総務局から異例の説明を受け、一旦は回答期限を延期する判断をおこなった。引き続き、都スクールカウンセラー集団訴訟や名古屋市職労など職員団体との労使協議の進捗を踏まえ、「公募廃止」

にむけ二の矢・三の矢を放つ準備をすすめている。

■愛知中小企業家同友会との懇談

10月10日

愛知中小企業家同友会との懇談会をコロナ禍以来6年ぶりに行った。同友会から8人、愛労連から10人が参加した。

同友会からは加藤代表理事はじめ内輪専務理事を含む8人が、愛労連からは四役含む、全国一般、JMITU,東海共同印刷から10人が参加した。愛労連からは①社会的な賃金闘争と24春闘の結果と課題について、②労働相談件数と相談内容について。同友会からは①2024年度「最低賃金引き上げに関する調査」結果、②中小企業をめぐる景気動向、③2025年度国および愛知県の政策に関する中小機牛岡からの要望と提言についてそれぞれ報告を行った。最低賃金引き上げ調査では、対応済みと回答した企業は全体で「77.3%」で、文章回答では人件費の上昇分を施工単価に転嫁し続けられるか心配と言った声が多数集まったと報告された。意見交換では、同友会からは「公契約条例は地域の企業で地域作りをしてどうしたらお金が回るか、若い人が地域で働ける場をつくる」「初任給アップしても採用難しく人件費転嫁むずかしい、年収の壁制度の限界の問題もある」「ビジネスと人権の関わりで常に『対等』な関係であるということを考えている。人間尊重人として人を認める社会づくりが大切。」

愛労連からは「2024問題で上限時間規制によって年収の引き下げの問題」「トヨタに対してネジ1本からトヨタの車作りに関わるすべての労働者の賃上げにトヨタが責任をもつべきだという主張をしてきて中日新聞も社会的な役割という主張をかき、『社会的な賃上げ闘争』の重要性を実感している。」「労働組合もマインドチェンジしていく必要、中高年層の実質賃金が下がり高校生大学生の奨学金の問題についても深めていっている」など、賃上げと中小企業支援策が一体であり、労使敵対でなく一緒に社会を変えようという認識が深まった懇談となった。

■女性協労働局要請行動

10月10日

女性協幹事など7名が参加。愛知県労働局側9名参加。「女性労働者が仕事と生活を両立させて男女平等にはたらし続けるための施策の拡充と指導の強化を求める要請書」を提出し、13項目の要請懇談を行った。愛知労働局職員増員依頼、長時間労働調査公表、有休休暇取得違反公表、妊産婦への特別な配慮、男性育休取得促進、子の看護休暇について、ハラスメント防止対策強化、女性に多い非正規雇用労働者の労働条件向上、最賃審議会のあり方、県民の日ホリデーへの対策、学生への周知、健康診断について等要請。合計60分懇談を行い、女性労働者が直面している問題点などを話し合った。

■女性協第3回幹事会

10月10日

リアルで7人が参加。母親大会や各種活動の参加報告、各種活動の女性派遣について、新春のつどいについてなど、今後の活動方針を話し合った。

次回幹事会は、11月14日(木) 19:00～ @愛労連応接室

■労働会館防災訓練・入居団体会議

10月10日

労働会館東館ホールでおこなわれた。①防災訓練として熱田消防署の職員を招き、防災についての講義をうけた。DVDの視聴もおこなわれ、火事や地震・津波について学んだ。②入居団体会議ではこの1年の会館運営状況の報告や今後の日程についての確認をおこない、各団体からの要望などもだされた。

■革新市政の会臨時総会

10月11日

70人(31団体・6地域)が参加した。尾形けいこさんの市長選挙にあつての施政を受けて、政策協定・組織協定を確認し、尾形さんと調印した。人事では、確認団体「名古屋・革新市政の会」の事務局長に津田政策委員長を選任した。

■JR利用者アンケート記者会見

10月11日

痛ましいJR福知山線で発生した脱線事故の発生以降、鉄道の安全とサービスの充実をもとめる東海の会では、毎年「JR利用者アンケート」にとりくみ、国土交通省やJR東海への要請などに反映してきました。国土交通省には真摯な姿勢が見られるものの、事故の当事者であるJRの対応にはまったく誠実さが見られないままです。せっかくの声を形にするため、はじめて10月14日の「鉄道の日」にあわせて、10月14日の「鉄道の日」今こそ地域の"鉄道"を守りたい！「JR利用者アンケート」第19回調査結果の中間報告 寄せられた653通の"JR利用者の声"と題して国鉄会館で、愛視協にも協力呼びかけ記者会見をおこないました。残念ながら、解散日と重なり取材頂くことは実現できませんでしたが、全ての告発を予定どおり実施しました。動画編集等を通して、必ず再度記者発表の機会を儲けることを確認しました。

■愛知国公定期大会

10月12日

谷藤副議長が参加し、愛労連を代表して連帯のあいさつを行った。

■東海労働弁護団総会

10月12日

東海労働弁護団総会がウインク愛知で開催されました。市労連からは林副議長と佐賀事務局次長が参加しました。講演では自治労連として林副議長が公務員の「地域手当」を解説し、それを受け専修大学の山縣准教授が、公務労働が地域経済の中で占める割合の研究成果を説明しつつ、地方ほど公務労働が雇用と消費の面でも大きなファクトを有している実態を紐解きました。最低賃金の地域間格差と同様に、地域手当による格差の問題点をわかりやすく学習機会となりました。

■憲法と平和を守る街宣A

10月12日

栄スカイル前で実施。参加者は福保労、国公、年金者組合、愛教労、名中センター、社民党、愛労連など計20人ほど。軍拡での安全保障でなく、話し合いで国家間の問題を解決しようなど訴えた。

■2024年全国学習交流集会

10月12-13日

全国学習交流集会が千葉県にて2日間で開催。「学ぼう 語ろう 私たちの未来～ともにつくろう 平和な世界～」をスローガンに、1日目はフォトジャーナリストの安田菜津紀さんから「紛争地、被災地に生きる人々の声～取材から見えてきたこと～」と題して平和や人権をテーマの講演を聞いた。2日目は明海大学准教授 宮崎礼二さんから「今日におけるアメリカと日本の経済の行方」を聞き、アメリカの労働組合運動の変遷や日本でもストライキをする大切さなどを学んだ。その後分科会の報告が各会の代表者からあり、全国のなかまと学び交流する会として久しぶりの場で、とても意義のあるものだったなどの感想が述べられた。

■国民救援会愛知県本部大会

10月13日

渡邊副議長が参加し、愛労連を代表して連帯のあいさつを行った。

■小牧平和県民集会

10月13日

小牧市の市之久田中央公園で開催され250人が参加した。主催者挨拶で共同代表の望月敦尾中地区労連議長は、海外と共同開発する次期支援戦闘機の第三国輸出を自公政権が閣議決定するなど平和憲法を踏みにじる大軍拡をすすめていることを批判し、「兵器を海外に輸出するなどみんなで声を上げよう」とよびかけた。集会には、愛友会の金本弘理事長も参加し、ノーベル平和賞を受賞したことを報告。「来年は被爆80年。被爆者んp最期のたたかいになる。一緒にたたかってほしい」とよびかけた。

■革新市政の会重点政策打ち合わせ **10月14日**

名古屋市長として実現をめざす重点政策について議論した。18日に政策委員会にも意見をもらいまとめ上げていくこととした。

■革新市政の会財政打ち合わせ **10月14日**

全体の運動と予算規模を概ね確認し、主要団体での分担を確認した。

■自治労連名古屋ブロック決起集会 **10月15日**

確定闘争山場の決起集会として昨年に続いて開催され、800人が参加した。愛労連として支援参加を呼びかけ、公務・民間労組からノボリを持って参加した。

■地域手当格差違憲訴訟第1回口頭弁論 **10月16日**

勤務地によって地域手当に格差があることは、裁判官の在任中は報酬が減額されないなどと定めた憲法に違反するとして、津地裁の竹内浩史判事が、減額分約238万円の支払いを国に求める訴えを名古屋地裁に起こした。10月16日大法廷で第1回期日が行われた。本質的に問うているのは地域手当の不当性でありさらにそれが国・自治体、地域公務関連で働く労働者の差別を是正する、人事院制度が労働基本権の代償期間としての役割をはたしていないことを問うているまさに公務関係だけでなく民間もふくめて、労働組合が一緒になってたたかう裁判だということが意見陳述で述べられた。意見陳述は、新開聡弁護士、竹内浩（原告）判事、水野幹男弁護士が行った。次回期日は2月4日（火）14時～

■西三河労連総会 **10月16日**

愛労連より連帯のメッセージを送付した。

■424共同行動実行委員会 **10月16日**

愛労連会議室でおこなわれ参加者は、社保協、国公、医労連、民医連、全医労、愛労連の計6人。
①「地域医療構想」の状況について確認し、名古屋ではみどり市民病院の移転・増床について一時期ストップがかかったものの南部調整会議で仮承認され進められようとしている事が報告された。
②名古屋リハセンの名市大化で労働者の賃金等労働条件について、一部手当の継続がされないこと、有給休暇の引き継ぎがされないことなど報告された。
③11月12日の愛知県との懇談について各団体からの出席者の確認がされた。
④次回会議は12月13日10時からとなった。

■全労連学習教育担当者会議 **10月17日**

全労連が組織建設新中期計画の要として提起している、研修・研究機能の具体化、学習教育要綱改定に関わり、加盟組織との意見交換をすすめる、わくわく講座、ゆにきゃんの受講促進に向けての交流と意思統一をすすめるため開催された。学習教育を、4つのプログラム（1. 全組合員対象のわくわく講座、2. 全労連版トラブルメーカーズスクール（仮）、3. 対話の戦略作りを学ぶゆにきゃん、4. 次世代幹部養成を目指す）に再編することなどが提案され、今後について話し合った。

■Ai 機関紙編集委員会 **10月17日**

オンラインで4人が参加。愛労連新聞10月10日号の振り返りと、11月10日号の企画打合せをおこなった。

■Ai 非正規公務員プロジェクト会議 **10月17日**

「年収の壁」学習会及び10月4日の緊急記者会見の振り返りを行いつつ、建交労保育パート支部・名古屋市職労の「5年目公募」撤廃に向けた戦略と、11・17あいち非正規公務員オータムミーティングの概要について議論・確認を行った。（1）11月2日「なくそう！官製ワーキングプア大坂集

会」に、愛労連・愛知国公・建交労・自治労連（名古屋市職労）から7名を派遣し、一斉大量雇い止め問題の発信を行う。(2) 11月8日に愛労連・建交労にて「記者会見」を行う。(3) オータムミーティング実行委員会とはむねっとで、名古屋市長選挙立候補予定者に「公開質問」を実施する。(4) 11月17日の「オータムミーティング」を必ず成功させる。以上の意思統一をはかりました。

■JMITUオハラ愛労委調査 10月18日

愛知県労働委員会でおこなわれ、参加者はオハラ分会3人、JMITU3人、弁護士3人、愛労連1の計10人。争点整理がおこなわれた。次回調査は12月24日(火)15時から。

■Aiパ臨連幹事会 10月18日

オンライン含め7名が参加。各組織の活動報告をおこなった。保育パート1200人雇い止め問題について団結し協力していこうと話した。11月17日に開催予定のあいち非正規公務員オータムミーティングへの参加呼びかけと、春闘期に向けての活動についてなどを話した。

次回幹事会 11月12日(金) 18:30～ @愛労連会議室
次々回幹事会 12月17日(火) 18:30～ @愛労連会議室

■国民春闘共闘委員会年次総会 10月18日

国民春闘共闘委員会は、2025年度年次総会を開催し、春闘構想、役員体制の確立を行った。春闘共闘主催記念学習会は、「労基法解体を斬る！」と題して、土井直樹（全労連構成労働局長・国民春闘共同常任幹事）氏からの講演が行われた。総会では、西尾議長が愛知春闘共闘のとりくみを発言した。

■全労連東海北陸ブロック組織拡大交流会 10月19-20日

講師を含む24人（愛労連7人）が参加した。「対話と学びあい」をテーマに全労連の竹下事務局次長による講演、岐阜県労連と名古屋市職労からの実践報告で学んだ。分散会では、実践的にレベルアップした組織を出し合い、「対話と学びあい」をどう具体化するのかを議論した。

■愛知母親大会in一宮 10月20日

アイプラザ一宮にて開催。午前中は11分科会、2見学分科会が開催された。午後は、オープニングの劇団集団くつわ、による伊六万歳のあと、開会宣言、議長、主催者、来賓挨拶後講演。千葉工業大学准教授 福嶋尚子さんから、子育てにかかる隠れた教育費の現状から考えられる支援のあり方や問題点などが話された。その後各団体から活動交流発言がおこなわれた。会場とオンラインあわせてのべ1000人以上が参加した熱気溢れる大会となった。

■道路使用許可有料化を考える学習会 10月21日

17人が参加した。デモ申請有料化の法的根拠や憲法の定める民主主義や人権との関係、当面の対応について学んだ。宣伝活動の権利についても学んだ。

■社保協理事会 10月21日

愛知県保険医協会伏見会議室でおこなわれ参加者はリモート含め14人。①各団体からの報告で保険医協会からマイナ保険証に関するアンケート結果、名古屋市職労から10月15日の決起集会と会計年度任用職員の公募問題、福保労から地域手当の変更で福祉関係も賃下げの懸念、国公から10月18日の国会議員との懇談会、愛労連から最賃のとりくみ、建交労保育パートの記者会見などの報告がされた。②協議事項では各課題のとりくみ報告や今後のとりくみについての確認などがされた。③自治体キャラバンについて、請願書の提出が必要な自治体の確認や愛知県との懇談の出席確認がされた。④知っトクパンフ2025年版は2月に刊行予定。⑤今後の日程の確認で12月の理事会は12月16日15時からおこない、終了後忘年会も行われる。1月理事会は1月20日(月)、12月の四役会

議は12月9日(月)となった。

■港地区労定期大会 10月23日

佐賀事務局次長が参加し、愛労連を代表して挨拶した。

■全労連組織拡大実践講座② 10月23日

愛知県医労連の矢野彩子書記長が、新人拡大100%拡大のとりくみを報告した。新人を不安にさせずスムーズな流れで説明かを成功させる手法や、説明下に向けた丁寧かつ緻密な準備の必要性についても報告した。グループに分かれて新人から出される質問に答えるワークショップも行われた。

■全労連メディア講座② 10月24日

全労連オンライン講座として、3回連続講座として開催。2回目は、毎日新聞 東海林智さん(元・新聞労連委員長/元・MIC議長)を講師に迎え、プレスリリースの作り方を学んだ。マスコミが注目しやすい見出し・内容の書き方、スケジュール、記者会見のスケジュールリングなど、実際に出されたプレスリリースの原稿へ校正したものを活用して具体的な方法を学んだ。

■JMITU川本製作所支部24Hストライキ 10月24日

JMITU川本製作所支部は、団体交渉の場で示された会社側の一時金に納得せず、歴史的な好業績に導いた社員の奮闘に報いる一時金を要求しストライキに立ちあがった。愛労連からも現地に赴き連帯と激励の挨拶を行った。

■瑞穂区労連定期大会 10月24日

竹内事務局長が参加し、愛労連を代表して挨拶した。

■非核・平和の願いを実現する県・名古屋市要請 10月24日

10月24日～10月30日国連軍縮週間にあわせて、非核・平和の願いを実現する県・市要請が行われた。愛知県には西尾議長があいさつをおこなった。

■中村地域センター大会 10月24日

西尾議長が参加し、愛労連を代表して挨拶した。

■若者気候訴訟第1回期日 10月24日

14歳から29歳の全国16人の若者が気候変動で人権が侵害されているとして、主な火力発電事業者10社を相手取り、二酸化炭素の排出量削減を求める訴訟を名古屋地裁に起こした。第1回口頭弁論は、名古屋地裁大法廷に入りきらないほど多くの支援者が集まり、マスコミも各社集まった。原告側から若者当事者の声として、気候変動の影響で起こる水害などでの被害者をなくすためにも、今すぐ二酸化炭素の排出量を減らす必要があること、また、原告側弁護士からは、世界基準の排出量にしなければならない科学的根拠などが述べられた。裁判後は、報告集会が開かれた。

■第2期オンライン全国労働学校「学びの森」 10月24日

第2期オンライン全国労働学校「学びの森」を、愛労連でも集団視聴を開催することとした。全体テーマは「しっかり学ぼう、労働時間短縮の課題」全7回で毎週木曜日19時～愛労連会議室にて。第1回は、「人たるに値する生活とゆとり」と題し、岡山県学習協事務局長の長久啓太さんから話を聞いた。ゆとりのあるなしを、他人に決めさせないのは労働組合の役割、ケアしあえる職場づくりにも、ゆとりが欠かせないなどが話された。講義のあとは分散感想交流をおこなった。

■年金者一揆

10月25日

若宮ひろばにて年金者一揆が行われた。愛労連を代表して浜島副議長があいさつをおこなった。福保労簿書記長が連帯して発言を行った。

■国連軍縮週間街伝

10月26日

「日本被団協ノーベル平和賞受賞 核兵器のない平和な世界の実現を」として国連軍縮週間にあわせた宣伝行動を、栄メルサ前にて実施。町並みは、ハロウィンの仮想をされた若い世代、家族連れであふれているなか、署名は28人の市民から寄せられ、駆け寄ってみえた女性から「おめでとうございます」との言葉と共に被爆者支援募金（オスロへの派遣）5000円が寄せられた。ノーベル平和賞受賞した、日本被団協の役員の一員として紹介された、金本弘愛友会理事長は「禁止条約に入るよう、日本政府を変えたい。被爆者としてみなさんに訴えたい」とマイクを握って訴えがあった。愛労連、新日本婦人の会千種支部のファミリー、反核医師の会、平和学生会議の名古屋大学生、高校生平和ゼミナールの高校生、愛知のうたごえ協議会、名古屋市職労、愛知県平和委員会と青年学生部、愛知県原水協など18人の参加があった。

■福祉予算削るな！愛知県民集会

10月27日

若宮広場で開催され、参加者は550人。リレートークでは、保育、自治体(給食)、介護・高齢福祉、学童保育、障害者施設などから訴えがあった。最後に保育士は位置基準を改善させたことを例に挙げ、「声を上げていき自分たちの手で人権保障の社会福祉へと変えていこう」集会宣言を採択した。

■わくわく講座スクーリング

10月27日

8名が参加。わくわく講座スクーリングとして、労働組合で声を上げる大切さを学ぶとして、医労連書記次長の池田幹人さんから「レイバーノーツ大会から学んだ元気なアメリカの労働運動～みんなで討論、みんなで決定、みんなで実践～」と題した話を聞いた。アメリカの労働運動の高まりには徹底的な対話があると実感したこと、現場に何度も出向き、繰り返し対話し、要求をつかみ、闘いのヒントを引き出すなど、対話を軸にしたボトムアップの組合活動が重要、などが話された。講演後は感想や職場の現状などを話し交流をおこなった。

■Ai青年協幹事会

10月27日

愛労連会議室とリモートでおこない、参加者は医労連2、自治労連、建交労、愛労連の計5人。①11月10日開催予定の第35回定期総会について協議した。当日の総会の内容、役割分担、来期役員体制など確認した。愛労連の佐賀事務局長に来賓あいさつとミニ学習を依頼する。②名古屋市長選挙について、尾形けいこ氏の推薦・支持について推薦を決めた。その他青年協としてのとりくみ、青年連絡会への参加について協議した。③その他、上部団体のとりくみへの参加について、12月14日の東海北陸ブロック総会、2025年2月の全労連青年部沖縄ピースツアーについて協議した。

■三重県生活保護基準引き下げ取り消し訴訟控訴審第1回口頭弁論

10月28日

三重県生活保護基準引き下げ取り消し訴訟控訴審第1回口頭弁論が行われた。2月22日に津地裁・竹内浩史裁判長が、「自民党の選挙公約に付度」した引き下げは裁量権の逸脱・濫用だと断罪した三重県の生活保護基準引き下げ取消訴訟の控訴審第1回口頭弁論が、行われた。渥美弁護士が心を打つ意見陳述を行った。次回期日2月4日14時～

■サマセミブロック実行委員会

10月29日

リモートでおこない、参加者は愛知、岐阜、三重、静岡、石川から計15人ほど。①第31回サマセミを振り返っての総括をおこなった。②来年に向けて開催地など検討し、静岡開催を軸に具体化を進めることとした。静岡県内の具体的な地域・宿泊施設については、静岡実行委員会で検討し、

仮押さえした段階でブロック実行委員会で決定する事とした。③来年のブロック実行委員会の始動時機については、12月14～15日の東海北陸ブロック総会でサマセミブロック実行委員会関係者が集まり協議する。

■愛知共済会理事会

10月30日

愛労連会議室でおこなわれ、参加者は愛労連、自治労連、全国一般、JMITU、きずな、共済会事務局から計9人。①この間の共済の増減、給付実績など確認した。②この間のとりくみについて、全労連共済組織代表者会議やハゼ釣り大会などの報告がされた。③今後のとりくみについて協議し、11月9日に予定していた共済学校を名古屋市長選挙などの影響で日程変更することとし、12月8日に開催することとした。④共済会ニュースの発行について協議した。12月1日の春闘討論集会に合わせて発行する。⑤次回理事会は12月18日（水）の午後におこなわれる。

■愛自交定期大会

10月30日

西尾議長が参加し、愛労連を代表して連帯の挨拶をした。

■最低賃金・公契約問題対策委員会

10月31日

全員参加。報告として10.1最賃宣伝、地元国会議員要請、女性協の賃金課要請、NHKおはよう日本に郵政ユニオンの仲間が出演した。最賃署名1万筆を超えるためにどうしたとりくみが必要か。家族、街頭宣伝、集会入り口、集会会場、愛労連外の組織要請など、今後も議論継続。2015年最低生計費の改定版を作る（全労連）・物価上昇率（10月、11月の名古屋市消費者物価指数）、生活実態。1人暮らしの青年に生活実態を出し合う合意形成会議を12月8日（日）10時～12時に労働会館特別会議室で開催、対策委員が対象者に声をかけ一緒に参加してもらう。事前に消費支出品目など聞きたい品目について、ペーパーにして渡しておく（参加できない場合はペーパーで）。第4回最低賃金・公契約問題対策委員会は12月18日（水）10時から愛労連会議室。

■オンライン全国労働学校集団視聴②

10月31日

第2期オンライン全国労働学校「学びの森」愛労連での集団視聴を開催。全体テーマは「しっかり学ぼう、労働時間短縮の課題」全7回で毎週木曜日19時～愛労連会議室にて。第2回は、「労働時間のそもそもと、長時間労働の弊害」と題し、関西勤労協講師のみつくりかつのりさんから話を聞いた。長時間労働の心身への悪影響や、世界の労働者の労働時間短縮をたたかって勝ち取ってきたこと、労働時間短縮のたたかいは賃上げと同じ、それ以上に重要なもの、などが訴えられた。講義のあとは分散感想交流をおこなった。

■機関紙宣伝学校実行委員会

10月31日

リモートでおこない、7人が参加。自治労連本部で機関紙づくりを担当している武田さんに講演を依頼することとしたが、講師と講演内容についての打合せを再度おこなうこととした。分科会と学校全体のスケジュールの確認などをおこなった。分科会は3つ。①ニュース・機関紙づくりレベルアップ講座、②Wordでニュースづくり初級講座、③SNS活用講座。状況にあわせてオルグをおこない参加をうながす予定。

第29回機関紙宣伝学校開催は2025年2月1日（土）午後。

次回実行委員会は調整中。

■被爆80年つどい実行委

10月31日

被爆80年（2025年）に向けて、愛知独自のとりくみとしての「つどい」開催をめざす実行委員会を開催、実行委員会の構成・体制、予算案や賛同金などを話し合った。

戦後・被爆80年 あいち平和のつどい 2025年9月27日（土）@名古屋市公会堂

次回実行委員会 12月19日(木) 10時~@労働会館本館会議室

■天白地域センター定期大会 11月1日

名古屋市長選スタート集会と重なったことから、メッセージを送付した。

■名古屋市長選スタート集会 11月1日

東別院ホールで開催したスタート集会には250人が参加した。各分野から切実な要求と実態がリレー特で語られ、これを受けて尾形候補が市民税減税の庶民犠牲金持ち優遇の実態を明らかにしつつ、住民の暮らしを充実する施策とこれを支える職員体制の拡充を掲げて市長選をたたかう決意を語った。

■東海法労第35回定期大会 11月2日

愛労連を代表して若井副議長が参加し、連帯のあいさつを行った。

■水野幹男弁護士ご苦労さん会 11月2日

水野弁護士の50年を超える弁護士活動の労をねぎらう会として開催され、約40人が集まった。愛労連からは竹内事務局長が代表して参加し挨拶した。

■なくそう官製ワープア大阪集会 11月2日

なくそう！官製ワーキングプア大阪集会実行委員会からの要請を受け、愛労連2名、あいち国公1名、名古屋市職労3名、建交労保育パート支部1名の計7名で、「なくそう！官製ワーキングプア」第12回大阪集会に参加した。分科会ではあいち非正規公務員1万人プロジェクトのとりくみと、建交労保育パート支部からは「保育士等1200人の一斉大量雇い止め」を前提とする公募試験簿募集の強行について報告をおこない、午後の全体会では、名古屋市職労から会計年度任用職員も組織運営に係わる組合運営と要求実現と組織化を一体としてとりくむ意義を報告した。集会には、日本共産党や社民党の国会議員やマスメディアも参加しており、愛知での状況やオータムミーティングの周知などについて発信することができた。

■尾形けいこ事務所びらき 11月3日

労働会館に設置した事務所開きには100人以上が参加した。オープニングは「世界中の子どもたちが」を元気にうたってスタートした。司会、スピーチ全員が女性で、女性の力で選挙を勝ち抜く決意が現れた事務所開きとなった。

■愛知9条の会県民のつどい 11月3日

名古屋市公会堂にて、11・3「憲法9条をまもろう2024」愛知県民のつどいが開催された。愛労連からは、最前列に配置していただいた年金者組合の防衛要員を除き、それぞれの単産から9名が要員として運営を支えた。つどいでは、元文部事務次官の前川喜平氏が講演と青年とのでスカッションをおこなった。客観的に参加者の高齢化が進み、現役世代の組合役員の参加に顕著な陰りが見られる。愛労連としてこのつどいをどのように位置づけ、憲法を守る運動に結びつけられるのか？それぞれの単産での参加状況などの検証が求められる。

■革新市政の会 団体地域代表者会議 11月5日

20団体6地域・60人が参加した。告示を直前に控え、マスコミや青年会議所の公開討論会などを通じて、争点が明確になってきている

■医労連サニーライフ裁判 11月5日

11月5日、サニーライフ豊橋労組・瀬瀬委員長の高裁の2回目が行われた。愛労連、愛知争議団

などから15名が傍聴に駆けつけた。2回目の弁論準備は、被控訴人の準備書面に対してこちら側が反論を出しました。反論に加え、これまでに全国のサニーライフの職員や家族から愛知県医労連に寄せられた相談やサニーライフに対する苦情をまとめ意見書として提出した。また、地裁では出てこなかったサニーライフ豊橋の支配人の証人申請を行った。裁判官は、被控訴人に対し支配人が健康面も含め証人尋問が可能か確認するよう指示した。裁判官から被控訴人が、証人尋問が不要であるとの判断の場合は慎重な判断をと告げられた。次回の期日では、今後証人尋問となれば日程調整が行われ、反対になれば、その場で結審となることもある。2回目の高裁期日に、これまでに集まった署名（244団体、個人署名1907筆）を提出した。次回期日にて結審となる可能性もあるため署名の最終集約を11月末でとりくむ。次回期日は12月10日（火）16時30分～名古屋高裁

■秋の自治体キャラバン・名古屋市交渉 **11月6日**

名古屋市役所東庁舎でおこなわれ、キャラバン側参加者は30人程度。介護、国保、生活保護、地域医療、子ども子育て支援など重点項目を中心に質問や要請をおこなった。

■学習協常任理事会 **11月6日**

当面の方針案やとりくみについて話し合った。労働学校、勤通大、学習の友3ヶ月お試しキャンペーンなどが呼びかけられた。

オンライン労働学校「学びの森」に愛労連が広く呼びかけ、学習協でも担当を決めて一緒に学ぶことにした。次回オンライン労働学校は11月7日（木）18：45～愛労連会議室、次回常任委員会 11月6日（水）19：00～労働会館本館会議室

■秋季年末闘争全国統一行動・名古屋駅宣伝 **11月7日**

17：30～18：30まで名古屋駅桜通口交番前で実施。愛高教4、検数労連2、愛教労1、千種名東労連1、国公1、JMITU1、医労連1、生協労連1、事務局6の18人参加。リレートーク、全労連ビラ（ティッシュセット）約520枚配布（あなたの声で大幅賃上げへチェンジ、いのちとくらしを守る政治に変えよう）。シールアンケートには46人が参加。時間給の方に聞いた最低賃金はいくらにすべきですか？に1077円＝1人、1200円＝7人、1400円＝12人、1600円＝5人、1800円＝7人、2000円以上＝14人。月給制のみなさんに賃上げはいくら必要ですか？には、1万円＝2人、2万円＝1人、3万円15人、4万円＝2人、5万円以上＝18人。職場に労働組合は必要だと思いますかには77.4％が必要と答えた。しんぶん赤旗が取材し、9日の全国面に掲載された。

■オンライン全国労働学校集団視聴③ **11月7日**

第2期オンライン全国労働学校「学びの森」愛労連での集団視聴を開催。全体テーマは「しっかり学ぼう、労働時間短縮の課題」全7回で毎週木曜日19時～愛労連会議室にて。第3回は、「ディーセント・ワーク（人間らしい労働）と労働時間・・・世界の動向」と題し、労働者教育協会理事の筒井晴彦さんから話を聞いた。みなし労働時間制は世界に例をみない異常な制度であり、ヨーロッパの人にどんなに説明しても理解してもらえない、などが話され、海外の労働時間や働き方などの例から、労働時間短縮の必要性を説いた。講義のあとは分散感想交流をおこなった。

■建交労保育パート支部団体交渉 **11月7日**

イーブルなごやにて、建交労保育パート支部が名古屋市子ども青少年局との団体交渉に臨んだ。愛労連からは佐賀事務局次長が子ども青少年局からの承諾を受け団体交渉に参加した。要求書に対する回答の中で、中心的な論点となったのは、10月25日と11月1日に強行された「5年目公募するルール」を前提とする公募試験の募集についてである。これまでのマスコミの取材に対し、当局は「再度試験をパスすれば『雇止め』になるわけではない」などと答えたにもかかわらず、実際には23人の対象者に対し、募集人数が8人に留まっている部署もあるなど、確実に「職」を失

う職員が生じることが交渉の中でも明らかにされた。組合員からは「漠然とした「不安」から、仲間と職を奪い合う「恐怖」へと変わった」との追及をおこなったものの、当局からは使用者責任を感じられる明確な答弁は得られなかった。11月14日の記者会見で雇用主としての無責任な対応を告発することを確かめ合った。

■非正規公務員プロジェクト会議 11月8日

従前の予定では、建交労保育パート支部の団体交渉（11月7日）の回答を受けて11月8日に「記者会見」を予定していたが、市長選挙立候補者への公開質問への回答の公表と合わせ11月14日に延期したことに伴い、11月8日のPT会議については、11月17日に予定している「オータムミーティング」の最終確認に限った内容で会議を実施した。会議にはオータムミーティングに協力いただくはむねっとから渋谷典子さんも参加した。

■単一事務局会議 11月8日

これまでの日程、報告・協議事項の確認を行った。12月3日に行われる総会の内容について協議した。ゲストには大村美恵さん、ピアノ白竜ティーバンド、ピアノ伴奏の演奏がある。粗大ゴミ12月18日までに収集。次回事務局会議11月14日単一事務局会議。

■北法律ちくさ事務所感謝パーティー 11月8日

ちくさ事務所開所10周年を祝って開催され、西尾議長が愛労連を代表して参加した。

■市長選宣伝 11月9日

候補者を含めて15人が参加した。告示前ビラの配布とともにシール投票で「あなたの市民税減税額ご存じですか」と聞いた。多くの人たちが知らず、市民税減税によって住民サービスや職員体制について影響を受けていることを伝えると対話になった。

■電機・情報ユニオン定期大会 11月9日

西尾議長が参加し、愛労連を代表して連帯の挨拶をした。

■憲法と平和を守る定例宣伝 11月9日

丸栄スカイル前で定例宣伝。国公2、検数1、一般1、尾中1、事務局2、社民1、一般1。（健康センター4人が同場所で過労死月間と相談会の宣伝。マイクでスピーチもしてもらった）。最賃署名2筆。

■名古屋市長選挙告示・尾形けいこ出発式 11月10日

金山駅北口前で行い、約250人が参加した。出発式には、5人が応援に立ち、「給食をより安心安全で豊かで、どんな境遇の子どもも食べられるように無償化に」（市民）、「早急な保育士配置基準の改善とスタンダードとなる公立保育園民営化の中止を」（保育士）、「地球温暖化は深刻、名古屋市を先頭に環境にやさしい都市づくりを」（緑の党東海）など尾形けいこ候補が市長になれば、実現できることを訴えた。政党からは林豊川市議（れいわ新選組）、本村衆議院議員（日本共産党）も駆けつけ支援を訴えた。

■Ai青年協總會 11月11日

名古屋港湾会館とりモートを併用しておこなった。参加者は代議員12人、傍聴2人、来賓2人、執行部5人の計20人。代議員欠席組織は、全印総連、愛教労、港地区労。①議案提案でこの1年の運動の総括と2025年度の運動方針の提案、会計決算・予算の報告をおこなった。②名古屋市長選挙にむけて愛労連の佐賀事務局次長を講師に「労働組合と政治・選挙」をテーマにミニ学習会をおこなった。講演が長引き分散討論の時間がとれなくなったが、講演は好評だった。③役員選挙をお

こない、新年度の役員体制は医労連からの2人のみとなった。

■革新市政の会青年連絡会「みんなと語るNAGOYAの未来」 11月11日

名古屋港湾会館とリモート併用でおこなった。参加者は自治労連、医労連、福保労、建交労、検数労連、JMITU(埼玉)、国公、民青など30人ほど(マスコミ含む)。名古屋市長選挙の尾形けいこ候補を招き、尾形さんの考えを聞き、青年の要求を交流し伝えた。東海テレビの取材が入り、翌日報道された。

■革新市政の会総務代表・みんな未来合同会議 11月11日

14人が参加した。河村市政の継承・刷新とともに市民税減税が争点になっている。河村陣営は河村本人の声で「敬老パス下げるでよう」「他はみんな増税」と一斉電話をかけている。「市民税減税をやめる」とは言わず、「市民税減税を福祉と暮らしにまわす」と押し出すことを意思統一した。

■革新市政の会 団体地域代表者会議 11月12日

23団体・5地域から54人が参加した。告示され論戦のなかで河村市政を継承する広沢氏、刷新をめざす尾形さん、立場をあいまいにする大塚氏とそれぞれの立場が鮮明になった情勢を確認しつつ、市民税減税の本質を暴きつつ、100億円の財源を市民の暮らしに回していくことをひろげていく基本戦略を確認した。

■名古屋市長選労働者連絡会打ち合わせ 11月12日

団体地域代表者会議に続いて開催し、宣伝カー運行や宣伝行動の意思統一を行った。

■非正規保育士等記者会見 11月12日

はむねっととオータムミーティング実行委員会の共同で実施した「市長選挙立候補者への公開質問状」に対する回答の公表および、建交労保育パート支部の組合員の斉一大量雇い止めを前提とする「公募試験」募集の強行を各発する記者会見を、桜華化館で開催した。マスコミは毎日新聞、北海道新聞、河北新報、しんぶん赤旗が参加した。しんぶん赤旗は翌日の全国版で報じ、毎日新聞は13日のデジタル版、14日の朝刊(東海版)で大きく報じた。なお、広沢候補からは回答が寄せられなかった。

■424共同行動県との懇談 11月12日

愛知県庁三の松庁舎でおこなわれた。社保協、医労連、国公、自治労連などから計8人が参加。事前に提出していた「第8次地域医療計画と地域医療充実強化についての要望書」に対しての第1次回答を受けての懇談をおこなった。回答の多くが「国の基準に基づいて」などで県独自の考えなどはあまり聴かれなかった。

■全労連幹事会③ 11月13-14日

衆議院選挙の結果と特徴、春闘方針、春闘討論集会の持ち方などについて議論を行った。2025年秋に計画する労働運動交流集会(略称レバカレ2025)についての基本構想を確認し、準備を進めていくこととした。

■秋キャラバン・愛知県交渉 11月13日

愛知県白壁庁舎でおこなわれ、参加者は25人ほど。介護、国保、生活保護、キャラバンの重点項目を中心に質問や要請をおこなった。

■社保協四役会議 11月13日

愛労連会議室でおこなわれ、参加者は保険医協会、自治労連、年金者組合など計9人。介護、健康保険証存続、424共同行動、国保、子ども子育て、年金裁判などのとりくみについて確認した。高齢者大会や知ったクパンプの改訂などについても確認した。

■憲法と平和を守る愛知の会

11月13日

8人参加。名古屋市長選、総選挙の結果（103万円、紙の保険証、辺野古新基地問題）などを討論。次回は12月7日（火）1600～（場所未定）

■全労連メディア講座③

11月14日

全労連オンライン講座として、3回連続講座として開催。3回目は、毎日新聞 東海林智さん（元・新聞労連委員長／元・MIC議長）を講師に迎え、「実践！模擬記者會」と題して、記者会見への挑み方、見せ方見られ方、質疑への対応方法などを聞いた後、模擬記者会見をおこない実践的に学んだ。記者をオルグするように、一般の人にも伝わるようにわかりやすい説明や資料をとの話があった。

■オンライン全国労働学校集団視聴④

11月14日

第2期オンライン全国労働学校「学びの森」愛労連での集団視聴を開催。全体テーマは「しっかり学ぼう、労働時間短縮の課題」全7回で毎週木曜日19時～愛労連会議室にて。第4回は、「余暇は人権一有給休暇制度を考える」と題し、岡山学習協の長久啓太事務局長から話を聞いた。愛労連会議室とあわせて愛高教にも視聴会会場が作られ、合計15人の参加があった。

■Ai女性協幹事会

11月14日

リモートあわせて8人が参加。母親大会や各種活動の報告、各労組の現状などが報告された後、新春のつどいについて話し合った。また、来年の原水爆禁止世界大会への参加周知としてノベルティグッズを作成しアピールすることとした。

次回幹事会は、12月12日（木）19：00～ @愛労連応接室

■愛知共済会事務局会議

11月14日

共済会事務所でおこなわれ、参加者はJMITU、全国一般、建交労、きずな、愛労連、共済会事務局から計8人。①この間の共済の増減、給付実績、この間のとりくみなど確認した。②12月8日に延期した共済学校について、内容耶事務局の役割分担など確認した。

■名古屋市長選挙れいわ宣伝行動

11月15日

11月15日（金）名古屋駅西口の街頭演説に、れいわ新選組が応援に駆けつけた。れいわ新選組から上村ひであき衆議院議員、さかぐち尚人衆議院議員、つじ恵参議院政策委員、すがや竜豊橋市議、西田ひさよ豊田市議、林まさこ豊川市議が参加をして、弁士を行った。CBC大石アナウンサーも街頭演説を聞いており、共産党とれいわが一緒になって取り組んでいることに関心を持っていた。河村市政15年で職員が減らされ、採用辞退があること、残業が多いことなど名古屋市の市の職員の労働実態に驚いていた。

■名古屋市長選労働者宣伝&未来カー一運行

11月16日

自治労連全国支援や全労連の仲野常幹などの支援を受け、約40人が参加し矢場町交差点で宣伝を行った。尾形候補も参加しシール投票を行い、テレビ取材も入った。

9時～18時まで未来カー宣伝行動を行い、11時に労働者連絡会の宣伝に若宮広場高架下で合流し、宣伝、シールアンケートにとりくみ対話を行い、尾形けいこ候補本人が訴えた。東海テレビがシールアンケートの様子を取材した。全労連から仲野幹事が弁士として参加し名古屋市政の転換を訴えた。自治労連長坂副委員長、松井さん、医労連川上さん、愛労連西尾議長が参加をした。

■名古屋市長選青年連絡会宣伝行動 11月16日

金山駅北口でおこない、参加者は自治労連（愛知青年部、千葉青年部、名古屋市職労、県本部）、民青、愛労連など約30人。自治労連の作成したシールアンケートボードを使い、シールアンケートを中心にとりくんだ。「川村減税」について対話し、減税の実態などを伝えた。

■はたらく女性の中央集会 11月16-17日

初日の全体会は、文化行事として北上湘南高校の鬼剣舞が披露された後、記念公演として、ライターのと田静香さんから「私たちが安心して暮らすために考えたい身近な政治」と題した話を聞いた。以前は政治のことは全くわからなかったが、原発反対の運動などに参加していく中で、対話などで少しずつ理解を深めていったこと、意見の違う人を突き放してはいけないことなどが訴えられた。

2日目の分科会は4分科会、2見学分科会を開催。ジェンダー平等、防災、いのちや平和、女性の権利を国際基準に、もりおか歴史散歩、陸前高田見学などがあった。全体でオンライン含め、のべ845人の参加があった。

■非正規公務員オータムミーティング 11月17日

名古屋国際会議場で「あいち非正規公務員オータムミーティング2024」を開催した。参加者は会場参加が60数名、Zoom参加が20数名、あわせて80数名が参加した。協力団体の東海労働弁護団の田巻紘子事務局長からは、日本労働弁護団の「非正規公務員制度立法提言」の説明と、立法提言のとりまとめに参加した金沢大学の早川准教授からは補足説明がおこなわれた。また、はむねっとの渋谷典子監事からも、アンケートの概要の説明がおこなわれ連帯の思いが参加者に伝えられた。当事者らによる「つながるリレートーク」では、シリアスな訴えからキラキラした報告まで、会場は一体感に包まれました。記念講演は立教大学の林陽治特任教授がおこない、今まさに問題となっている「公募ルール」と対峙するために求められる知識など。ワイワイがやがやグループワークでは、時間の経過とともに盛り上がり、閉会後も当事者同士の交流は続いた。

■名古屋市長選青年連絡会打合せ 11月18日

23日の選挙戦最終日の行動について協議した。最終日は候補者を同行させず、青年の要求訴えを中心にとりくむ。そのため、各組織参加の呼びかけを強めることなど確認した。

■全労連東海北陸ブロック幹事会 11月18日

7人全員が参加した。間近に迫った総会の持ち方や決算・予算案、役員案などについて確認した。宿泊費が高騰していることから、宿泊費補助をおこなうこととした。総会には青年と女性の参加も積極的に呼びかけていくこととした。

■Ai 機関紙編集委員会 11月18日

オンラインで4人が参加。愛労連新聞11月10日号の振り返りと、12月10日号の企画打合せをおこなった。

■社保協理事会 11月18日

保険医協会伏見会議室とリモート併用でおこなわれ、参加者は17人。①団体報告では愛労連から非正規公務員に関するとりくみ、医労連から医療3単産の中央行動について報告された。②今後のとりくみについて確認し、直前に迫った高齢者大会の運営時積むについての確認、愛知社保学校の2025年3月2日開催の確認もおこなった。

■9の日宣伝 11月19日

4名参加（愛労連3、平和委員会1）。リーフレットの配布がかなり進んだ。声をかけてきた人が何人かいた。憲法署名は3筆。

■あいち総がかり行動集会&デモ 11月19日

120人が参加した。総選挙後の情勢を長峯共同代表が報告した。リレートークでは建交労保育パート支部の尾崎書記長が1200人よと挑め問題について発言した。

■安保破棄実行委員会 11月20日

3名参加（愛労連、平和委員会1、事務局）。団体報告、愛労連はNew Sを資料につけて最賃、非正規公務員、市長選）を報告した。情勢討議、12月9日の総会と記念講演の段取りなどを確認。加盟組織に参加を要請するため分担を確認。愛労連は文書を送付する⇒自治労連・国公・愛高教・医労連・建交労・JMITU、年金者組合。

■消費者大会実行委 11月20日

6名参加。活動の総括、今後の講座の開催方法、内容、講師などを話し合った。今後は、公衆衛生、食糧事情政策について、気候変動・環境問題、住宅活用地域活性化、消費者被害、などの講座を予定。愛知県・名古屋市への懇談会申し入れ書の内容について検討をした。

「地震に備える家について、耐震補強も」

11月30日（土）13：30～16：00 @愛知民主会館2階

講師：壬生伸次さん

（一級建築士・耐震化アドバイザー・新建築家技術者集団愛知支部会員）

「再生エネルギー開発の今、そしてこれから～再エネでの乱開発はゴメンです」

1月25日（土）13時30分～ @愛知民主会館2F会議室

講師：傘木宏夫さん（NPO地域づくり攻防、自治体問題研究所）

行政懇談会・名古屋市

2月3日（月）10時～ @名古屋市役所会議室

「食の安全→健康とサプリ、機能性表示食品など」

3月22日（土）13時30分～ 場所：未定

講師：原英二さん（日消連）

第9回実行委員会 12月19日（木）13：30～ @イーブルなごや

■原水協理事会 11月20日

オンラインと合わせて開催。活動報告、交流を中心におこなった。今後も多くのとりくみを予定。非核日本キャンペーンに力をいれることが呼びかけられた。

原水協69行動 12月6日（金）12時～13時 @スカイルビル前

被爆者励ますつどい 12月22日（日）11時～14時@名古屋市総合社会福祉会館

原水協新春のつどい 1月12日（日）13時～16時半 @愛知民主会館

定期総会 2月23日（日）13時～17時 @愛知民主会館

次回理事会 12月18日（水）18：30～ @愛知民主会館

■オンライン全国労働学校集団視聴⑤ 11月21日

第2期オンライン全国労働学校「学びの森」愛労連での集団視聴を開催。全体テーマは「しっかり学ぼう、労働時間短縮の課題」全7回で毎週木曜日19時～愛労連会議室にて。第5回は、「ジェンダー平等のための労働時間短縮」と題し、東京法律事務所の青龍美和子弁護士から話を聞いた。男女の賃金格差や国際比較、その要因などから男性の有償老働時間を短縮し家事労働へまわすとともに、女性も有償労働時間が長くなっているの、労働時間規制を強めていく必要があることなどが話された。講義のあとは分散感想交流をおこなった。

■第4回パート臨時労組連絡会・幹事会 11月22日

オンライン含め7名が参加。各組織の活動報告をおこなった。春闘期に向けての活動についてなどを話し合った。

次回幹事会 12月17日(火) 18:30～ @愛労連会議室

次々回幹事会 1月24日(金) 18:30～ @愛労連会議室

■日本高齢者大会inあいち 11月22-23日

「まちから村からの連帯でひとりぼっちの高齢者をなくそう」をメインスローガンにする日本高齢者大会(主催・実行委員会)が名古屋国際会議場をメイン会場に開催された。22日は10の分科会1300人、23日は全体会に1500人で延べ2800人が参加しました。オンライン参加も300人ありました。

■全国一般ナトコ労組伴走支援オルグ 11月23日

6人が参加。昨年、声をかけられて組合加入した組合員も参加し、一時金回答と団交の様子を報告し今後の運動について議論した。現行だと昨年実績を下回る懸念もあり、月曜に再度物価高騰が厳しく一時金回答の上積みを求める要請書を提出することにした。春闘への準備に際し、みんなの要求アンケートと冬季一時金の評価についてアンケート、組合加入QRコードつけて取り組むことにした。アンケート期間は12月末まで、次回はアンケート結果をふまえて春闘要求案について議論する。次回会議1月25日(土) 10時～

24秋闘回答 2. 1カ月平均73万円(昨年78万円・1次回答プラス5万円)

12/26 二次回答 79万円

本給比2. 273か月 所定内 2. 131か月

■アクリル争議支援共闘会議 11月23日

会議は開催されたが、名古屋市長選最終日で事務局からは参加できなかった。

■市長選青年連絡会宣伝行動 11月23日

大須・万松寺交差点付近から栄・三越前にかけて尾形候補の政策や青年の要求を訴えた。参加者は検数労連、福保労、医労連、自治労連、東海法労、愛労連など約30人。

大須では尾形候補、本村衆議院議員、福保労からのスピーチ後、練り歩きで矢場町へ移動。矢場町では、尾形候補、検数労連、医労連、福保労、西尾議長がスピーチ。その後、音楽に乗せたコールをしながら栄に向かい、革新市政の会宣伝行動に合流した。

■全労連・春闘共闘2025年国民春闘討論集会 11月24-25日

全労連会館とオンラインで開催され、愛知からは西尾議長・竹内事務局長・佐賀事務局次長が参加した。春闘方針1次案の提案を受け、グループ討論と全体討論で議論を深めた。グループ討論では「対話と学びあい」の具体化について絞って議論した。全体討論では佐賀事務局次長が非正規公務員問題やトヨタ総行動などについて発言した。

■Ai労働相談センター全体会 11月27日

9人参加(全国一般からも参加)。新規相談件数は9月:56件、10月:51件。昨年度比較して3割減。人手不足で労働問題での相談が減っている。ハラスメント相談は全体の25%となっている。各相談員からの事例報告で情報の共有化。全国一般に紹介するときの留意事項を確認。11月29日の全労連主催の全国労働相談員交流集会には2名参加(オンライン)、12月21日の「いのちとくらしを守る何でも相談会」の確認。第4回は1月30日(木)15時から愛労連会議室。

■秋の自治体キャラバン実行委員会

11月27日

労働会館本館でおこなわれ参加者は保険医協会、自治労連、年金者組合、民医連、新婦人などから計12人。キャラバンの振り返りや今後のまとめ冊子作成などのスケジュールについて確認した。3月2日のあいち社会保障学校に間に合うように作成し、愛労連は昨年同様生活保護の項目についてまとめる。

■クールクライメイト事務局会議

11月28日

7人が参加した。12月14日の第2回勉強会の当日の運営はや分担など具体化を行った。2月18日の第2回口頭弁論については、14：00から開廷なので13：00から受付・資料配付、15：30から桜華会館で報告会を開催することとした。

■第2期オンライン全国労働学校「学びの森」

11月28日

第2期オンライン全国労働学校「学びの森」愛労連での集団視聴を開催。全体テーマは「しっかり学ぼう、労働時間短縮の課題」全7回で毎週木曜日19時～愛労連会議室にて。第6回は、「労働時間の短縮に向けて～全労連の方針と課題」と題し、全労連の秋山正臣議長から話を聞いた。全労連の運動方針の三つの柱、組織強化のためには対話と学びあいが必要、労働時間短縮のためには労働組合の役割と責任は重いことなどが話された。講義のあとは分散感想交流をおこなった。

■中教審答申批判愛知中央行動

11月29日

国の教員配置基準を改善し、フルタイムの教職員をふやして、持続可能な学校に変えようと、「せんせいふやそう」「このままでは学校がもたない」「1127定時アクション」のSNSデモが11月27日に全国で行われた。愛知では愛高教、愛教労、名教労が一緒になって、名古屋駅桜通口で宣伝を行い、約30名が参加をした。中央教育審議会の「答申」（8月）は、公立学校教員の待遇改善について、残業代の代わりに基本給に4%上乘せしている「教職調整額」を10%以上に引き上げることなど盛り込んだもの。小手先の手当でなく、教職員を抜本的にふやし、教育予算を引き上げることなど、教員らが次々をマイクを握ってリレートークを行った。一緒にとりくんだシール投票では、「先生の不足は知っているか」「どうすれば先生になりたい人が増えると思うか」「学校に労働組合は必要か」などをたずねた。自治労連1、愛知国公2、事務局2名が参加した。

■愛知争議団連絡会議総会

11月30日

佐賀事務局長が参加し、愛労連を代表して連帯のあいさつを行った。

■憲法と平和を守る街宣A～C

11月30日

6人（内愛労連2、年金者組合1）が参加した。

■2025国民春闘討論集会

12月1日

71人（内リモート10・単産43・地域19・女性協1・全労連1・学習協1・事務局6）が参加した。講演では、全労連の布施事務局次長を招き、大幅賃上げ待ったなしの情勢とともに、これまでの運動で大きな前進をつくっていることに確信が持てるとともに、「対話と学びあい」の必要性と可能性について全国のたたかいをもとに学ぶことができた。

・特別報告（医労連・名古屋市職労）とともにグループワークで、「対話と学びあい」の具体化と実践についての議論を体験する場となった。

■医労連サニーライフ裁判

12月10日

サニーライフ豊橋労組の額額委員長の雇用継続の高裁が結審した。判決は2025年2月26日（水）13：15～名古屋高裁にて行われる。最終版の署名を1月中旬には提出予定。

■Ai組織拡大推進委員会（総がかり会議） 12月11日

単産の拡大のとりくみを報告しあった。対話と学びあいの実践が報告された。非正規公務員オータムミーティングの取り組みなど総がかり行動のとりくみなど報告を行った。

■愛知共済会事務局会議 12月11日

共済会事務局でおこなわれ、参加者はJMITU、きずな、建交労、愛労連、事務局から計7人。①この間の活動や共済の増減、給付の実績を確認した。②12月8日に開催した共済学校の振り返りをおこなった。③秋の拡大月間について各団体のとりくみ状況を確認した。④今後の日程について協議した。次回事務局会議は1月15日(水)10時から。

■学習協理事会 12月11日

この間のとりくみの教訓の共有化と次期総会に向けての議案の報告と提案後、グループに分かれて分散討論をおこなった。その後まとめと総括をおこなった。

次回常任委員会 1月8日(水) 19:00～ 労働会館本館会議室

■高齢者大会現地実行委員会 12月11日

■鈴鹿大学裁判判決 12月12日

契約打ち切りの鈴鹿大学非常勤講師の地位を認める判決が津地裁で判決がしめされ、原告の訴えを認める判決を言い渡した。雇用契約を変更したあと合理的な理由を示されないまま契約を打ち切られたのは不当だとして、大学を運営する学校法人に対し、地位の確認などを求めていた裁判で、津地方裁判所は「雇用を維持する努力を尽くしたとは認められない」と画期的な判決を行った。

■Ai女性協幹事会 12月12日

8人が参加。はたらく女性の中央集会で、来年は愛知で開催の旨をアピールしたことなどの報告があった。各種活動の報告、各労組の現状などが報告された後、新春のつどいについて話し合った。オリジナルグッズ作成は来年2月ごろの予定。

女性協新春のつどい 1月13日(月・祝) 13:30～ @労働会館東館ホール

はたらく女性の中央集会準備打合せ 1月13日(月・祝) 新春のつどい後ホールにて

次回幹事会は、1月13日(月祝) 新春のつどい後～ @労働会館東館ホール

■鈴鹿大学裁判報告集会 12月13日

前日の判決結果をうけ、名古屋で集会が行われた。東海圏非常勤講師組合、愛知争議団、中センター、愛労連、三重労連から参加があった。

■424共同行動実行委員会 12月13日

愛労連会議室でおこなわれ、参加者は自治労連、国公、医労連、民医連、全医労、愛労連の計6人。①情勢報告で「地域医療構想」の進捗、「第8次地域保健医療計画」の状況を確認。東三河北部の新城市民病院の移転計画について、将来的な運営形態の変更により職員の雇用・身分に影響が出るのではと危惧されていることなど報告された。②県内の再編・合理化進捗状況について、リハセンやみどり市民病院、半田病院と常滑市民病院の経営統合、県立がんセンターについてなどが話された。③各団体からとりくみや医療機関の状況など報告された。

次回実行委員会は3月5日を予定。

■機関紙宣伝学校第4回実行委員会 12月13日

リモートでおこない、5人が参加。機関紙宣伝学校の講演内容や、分散会の内容確認をおこなっ

た。講演は、機関紙をつくり続ける事の意義、必要性など元気が出るような内容を依頼した。

第29回機関紙宣伝学校開催は2025年2月1日(土)午後 @労働会館本館会議室

講演 武田敦さん(自治労連本部機関紙「自治他の仲間」編集長)

分科会①ニュース・機関紙づくりレベルアップ講座、②Wordでニュースづくり講座、③SNS活用講座(初級編)。組織状況にあわせてオルグをおこない参加をうながす予定。

■全労連東海北陸ブロック幹事会 12月14日

総会準備および、次年度のとりくみの具体化について議論した。組織拡大交流集会について開催時期を含めて議論したが、全労連が計画する労働運動交流集会2025(レバカレ)の日程が10月にあることから調整が付かなかった。レバカレの持ち方そのものについても多くの意見があり、1月の全労連評議員会に意見を持ちよることとした。

■全労連東海北陸ブロック総会 12月14-15日

参加は42人(富山2、石川13、福井4、静岡8、三重3、岐阜3、愛知8、全労連1)で内女性が11人(26.2%)、青年の参加も多い総会となった。発言は22本(内女性4)で、各県のとりくみとともに最賃闘争や組織拡大、対話と学びあいの具体化について関わる発言もされた。採決ではすべての議案が拍手で採択された。

2日目は、全労連の秋山議長を招き春闘学習を行うとともに、石川県労連の長曾副議長から能登震災・水害の復旧・復興状況とボランティアのとりくみ、今後の課題について報告された。

■若者気候訴訟第2回勉強会 12月14日

労働会館本館会議室で開催し、102人(会場32、オンライン70)が参加した。カンパは1万4300円寄せられ、クール・クライメートへの入会も2人あった。

■Ai機関紙編集委員会 12月16日

オンラインで5人が参加。愛労連新聞12月10日号の振り返りと、1月10日号の企画打合せをおこなった。

■社保協理事会 12月16日

保険医協会伏見会議室でおこなわれ、参加者は保険医協会、民医連、名古屋市職労、自治労連、国公、年金者組合などから17人。①各団体からの報告で、保険医協会から国会行動やマイナ保険証一本化反対のとりくみなど報告。愛労連からは、非正規公務員問題のとりくみなど報告。②介護、健康保険証存続、国保など各分野のとりくみについて確認した。生活保護では最高裁にむけた署名を2月末までとりくむ。③キャラバンのまとめ冊子の作成について確認。④社保学校について、次第や役割分担について案が示された。⑤次回理事会は1月20日、労働会館でおこなわれる。

■Aiパ臨連幹事会 12月17日

オンライン含め7人が参加。各組織の活動報告をおこなった。春闘期にむけて、非正規労働者へ年収の壁問題にからめたアンケートをおこなうために内容を検討した。

次回幹事会 1月24日(金) 18:30~ @愛労連会議室

次々回幹事会 2月21日(金) 18:30~ @愛労連会議室

■革新市政の会総務代表・みんな未来合同会議 12月17日

17人が参加した。市長選挙の概要的な振り返りを行った。市民税減税の本質を中心に押し出したことへの評価などについて議論した。革新市政の会としての総括は別途行っていく。

■Ai青年協幹事会 12月17日

リモートでおこない、参加者は医労連2、建交労(オブ)、自治労連(オブ)、愛労連の計5人。①11月10日の第35回定期総会や名古屋市長選挙の取り組みなどの振り返りをおこなった。②この1年のとりくみについて協議した。この1年何を目的にするかはスルーされたが、年間の流れを確認した。当面のとりくみとして最賃を絡めた交流会をおこなう方向で今後具体化する。また、2月のトヨタ総行動について、すでに全労連青年部が参加・呼びかけを検討してるようで、トヨタ総行動に参加した青年で終了後に交流会をすることを今後具体化する。③サマセミを今年は青年協としてしっかりとりくんでいき、青年協役員から澁谷幹事をブロック実行委員会に派遣する。

■Ai 最低賃金・公契約問題対策委員会

12月18日

全員参加で開催。個人署名、団体署名の進捗状況を確認。次年度予算で業務改善助成金が大幅に引き上げられる予定、一方、使いやすいものになっているかが重要。

○最低生計費試算調査結果(2015年以降の物価上昇、消費税の10%引き上げ、合意形成会議・アンケート・賃金構造基本統計調査などをふまえて再計算)を協力者の浅生さんから説明。消費支出は全体で30000円ほどアップし、時間給で、男性1811円、女性1774円という結果が出たことについて議論した。項目として食費、教育娯楽などのアップが目立った。調査結果の説明会を2月6日(木)1930~2030、オンラインを中心に愛労連会議室で行う=説明30分、質疑10分、発言数人で20分。わかりやすいリーフを作成し、臨時大会で配付できるように準備する。

家計簿は愛労連としては隔年実施で25年は実施しないが、単産からの希望により「家計簿Excelデータ」を1月中旬頃までに配信することとした。愛労連としての集計は行わない。

○2月1日(土)1430~1530、名駅で宣伝行動=役員・一般組合員の参加を呼びかける。これに間に合わせるようにQRコード付きのオンライン署名を作り配布する(これまでのものを刷新して新規に作成)。ピラ、シールアンケート、音楽など楽しい雰囲気で行う。

○第5回最賃・公契約問題対策委員会は1月30日(木)1000~1200:愛労連会議室)

■Ai 第1三半期会計監査

12月18日

金川監査と高木監査が監査を行い、諸帳票や会計処理について問題無いことが確認された。牧野監査は事情により欠席となった。

■愛知共済会理事会

12月18日

愛労連会議室でおこなわれ、参加者は愛労連、自治労連、JMITU、全国一般、きずな、建交労、事務局から計12人。①この間の活動日誌、共済の増減、給付実績など確認した。②12月8日に開催した共済学校について振り返り、内容や運営、アンケートから参加者の感想など確認した。③24秋と25春の拡大月間について、とくに秋の拡大月間における各団体のとりくみ状況を確認した。事務局ときずなの対話などの状況が報告された。④共済会ニュースの発行にむけて内容と発行日など確認した。

■原水協理事会

12月18日

オンラインと合わせて開催。理事会前に、大村代表理事から、ノーベル平和賞授与式に参加しての報告がおこなわれた。ノーベル平和賞受賞で、世論や自治体の対応が変わってきたので、今が訴えていく好機であることが話された。今後も多くのとりくみを予定。非核日本キャンペーンに力をいれることが呼びかけられた。

新春元旦行動 1月1日(水・休)12時~13時 @熱田神宮東門前

原水協新春のつどい 1月12日(日)13時~16時半 @愛知民主会館

定期総会 2月23日(日)13時~17時 @愛知民主会館

次回理事会&平和行進実行委 1月15日(水)18:30~ @愛知民主会館

■A i ケア労働対策委員会

12月19日

25春闘に向けて意思統一を行った。保育、介護で、加算の動きが出てきているが、賃金だけの運用ではない。国・自治体に迫る運動が必要で全労連との方針が必要。使用者も政府に声をあげるためには、労働組合がしっかりと賃上げをせまることが重要と意思統一した。愛知県に総合確保基金をつかった独自県費で賃上げ要求と人材確保策になる奨学金返済事業を国に求めていくこととした。1月末に記者会見を行い県への要求書をだしていく。春闘アンケート自由欄を報告する。次回会議1月22日(水)10時～リモート調査。

■全労連2024秋闘期組織拡大交流集会

12月19日

本音のトーク集会というコンセプトで、二人から報告があった。福保労の清水さんから「本音トーク会」の取り組みが報告された。福保労は、賃金要求や人員不足の実態について、一人ひとりがこう思っているという話し合いのとりくみを行った。大会では大会の振り返りのグループ討論を行ったことが報告された。「本音のトーク会」実施によって要求書を出してみようとなった分会も出てきている。山梨県労連の新藤さんから、前年比50名増で3年ぶりの組織増勢になったことが報告された。その後、グループに分かれてグループ討論を行った。

■戦後・被爆80年愛知平和のつどい実行委員会

12月19日

被爆80年(2025年)に向けて、愛知独自のとりくみとしての「つどい」開催をめざす実行委員会を開催、実行委員会の構成・体制、予算案や賛同金などを話し合った。

戦後・被爆80年あいち平和のつどい 2025年9月27日(土) @名古屋市公会堂

次回実行委員会 2月6日(木)13時半～ @労働会館本館会議室

■消費者大会実行委員会

12月19日

7名参加。活動の総括、今後の講座の開催方法、内容、講師などを話し合った。今後は、再エネ、食の安全について、大学生向け契約トラブルなどの講座を予定。愛知県・名古屋市への懇談会申し入れ書の内容について検討をした。

「再生エネルギー開発の今、そしてこれから～再エネでの乱開発はゴメンです」

1月25日(土)13時30分～ @愛知民主会館2F会議室

講師：傘木宏夫さん(NPO地域づくり攻防、自治体問題研究所)

行政懇談会・名古屋市 2月3日(月)10時～ @名古屋市役所会議室

行政懇談会・愛知県 2月10日(月)13時半～ @自治センター

「食の安全→健康とサプリ、機能性表示食品など」

3月22日(土)13時30分～ 場所：未定

講師：原英二さん(日消連)

第9回実行委員会 1月22日(水)13:30～ @イーブルなごや

■クール・クライメイト事務局会議

12月19日

第2回学習会には102人(会場32、オンライン70)が参加したことが報告された。カンパは1万4300円寄せられ、クール・クライメイトへの入会も2人合った。2月18日の第2回期日を満席にするための広報などについて具体化した。

■労働経済ジャーナリスト小林美希さん取材

12月20-21日

ジャーナリストの小林美希さんが来名し、障害福祉のこと、保育のこと、介護をする人、介護職の実態について取材が行われた。福保労・医労連・自治労連・名古屋市職労から取材強力を得た。

■憲法と平和を守る宣伝A

12月21日

名古屋市中区栄・ラシック前でおこなわれ、参加者は東海法労、千種名東労連、年金者組合、愛

労連、その他など計7人。スカイル前は自民党青年部が道路使用許可をとって宣伝するというこ
で急遽ラシック前に場所を移して宣伝した。平和も暮らしも守るために声上げようなど訴えた。

■あいち総がかり行動討論会

12月21日

総選挙後の情勢と今後の運動を語りあう討論会として開催され、99人が参加した。カンパは1
万2083円が寄せられた。基調報告で共同代表の中谷雄二弁護士は、SNSが「アラブの春」
のように本来は抵抗の道具であるのに、日本では支配の道具となってしまっている。選挙結果をS
NSに矮小化せずに、リベラル・デモクラシーが時代遅れとする若者に、グローバリズムの限界を
示しながらどうか足るかが問われていると問題提起した。

■いのちと暮らしを守るなんでも相談会

12月21日

愛知会場は司法書士会館を会場に開催された。80件の相談が寄せられ内面接相談が10件以上
あった。フードサービスは100食以上準備して全て配布された。名古屋市職労や労働相談センタ
ーから相談員として3人が参加した。

■被爆者を励ますつどい

12月22日

名古屋市総合社会福祉会館大会議室で開催された。ノーベル平和賞授賞式の報告や、参加者の感
想が話された後、被爆者を囲んでの懇談や花の贈呈などがあった。

多くのマスコミも集まるなど、総勢120人を超える多くの参加者で熱気溢れる会となった。

■建交労保育パート支部地域子育て支援センター緊急集会

12月22日

12月23日子育て支援センターの合否がわかることから、緊急に交流集会をもつことになり、
愛労連会議室で行った。建交労保育パート支部支援センター当事者11名、保育パート支部他7名、
愛労連から西尾議長、佐賀事務局次長、ジャーナリストの小林美希さんが参加した。支援センター
で働く一人ひとりから、思いが話された。衝撃的だったのは、公募数が8名であり、仲間と争いた
くないと辞退した人がいたことがわかった。「本当は支援センターではたらきたかったのに・・・
私の判断は間違っていたのか」と涙を流された。面談も不採用を前提とした「支援センターがダメ
ならどうする？他の地域に行けますか？」といった質問がなされていたこともわかった。みんなで
力をあわせて雇い止めを止め保育を守っていこうと話した。

■名古屋市1200人雇い止め記者会見

12月23日

国会と愛知労働会館で、非正規公務員の雇用をまもるよう求める記者会見をおこなった。内容は
名古屋市パート保育士ら1200人雇い止めストップと全労連12.8労働相談ホットライン13
8人の声としておこなった。東京会場では、全労連黒澤事務局長、建交労廣瀬書記長、自治労連橋
口書記長、愛労連西尾議長、たつみ国会議員、ジャーナリスト竹信さん、Zoomから北海学園の川
村教授が発言した。愛知会場からは、建交労保育パート支部尾崎さん、子育て支援センターで働く
会計年度任用職員が発言した。愛知会場には建交労保育パート支部から3名、建交労田村委員長、
自治労連長坂副委員長、愛知国公青山事務局次長、愛高教松本書記次長、愛労連佐賀事務局長、小
松・市川事務局員が参加した。東京会場は全労連稲葉・宮鍋・栗原・大久保さんが参加した。

■Ai組織強化学習教育委員会

12月23日

オンライン含め8人が参加。各組織の学習教育のとりくみや組織強化拡大の報告をおこなったあ
と、今後の行事についての確認。わくわく講座閉校式について内容や方法などが検討された。わく
わく受講者への声掛け、それ以外の組合員への参加促しなどが意思統一された。次回委員会は1月
下旬で調整中。

■労働組合基礎調査説明

12月24日

県労働局労働福祉課の職員が2名来局し、2024年労働組合基礎調査の集計結果について報告された。

■秋の自治体キャラバン実行委員会

12月25日

労働会館本館4階会議室でおこなわれた。2024自治体キャラバンの各項目アンケートのまとめ一覧表について確認した。次回実行委員会ではまとめ一覧表からの特徴についてまとめた文章を確認する。次回実行委員会は1月17日。

■消費税クリスマス宣伝

12月25日

■生活保護裁判宣伝

12月25日

生活保護基準引き下げ反対愛知連絡会が毎月25日の定例日、いのちのとりで宣伝を栄三越前でおこなった。「いのちのとりで裁判」勝訴、権利としての生活保護制度の実現を呼びかけを行いアピールを行った。

■越冬活動突入集会

12月28日

「仲間のいのちは仲間が守る」をスローガンに50年目となる越冬活動の突入集会が名古屋市中区の天津橋小園で行われ、支援者など80人ほどが参加した。

主催者挨拶で、実行委員会代表の東岡牧さんは「本当はこの活動は続かない方がいい。目の前に困っている人がいるから開く」「本来は行政がやるべきだ。でも、私たちがやるしかない」と、政治や行政の責任を問うた。愛労連からは林副議長（自治労連県本部試行委員長）と竹内事務局長、武藤幹事（名古屋市職労執行委員長）が参加し、連帯のあいさつを行った。

■原水協・新春宣伝行動

1月1日

■2025国民春闘スタート宣伝行動／刈谷駅

1月6日

トヨタグループ企業の集中する刈谷駅で2025国民春闘のスタートを切る宣伝。24人（国公2、自治労連2、愛高教4、建交労2、医労連1、西三河労連6、共産党3、事務局4）が参加した。以前に比べると時差勤務の影響か乗降客が分散しているが、2000枚のビラを配布することができた。各組合から、2025春闘にかける思いや要求が語られた。

■2025国民春闘スタート宣伝行動／名古屋駅

1月7日

名古屋駅で8時～9時まで実施。33人が参加し、全労連作成の「給料上げてと言える自分になる」などビラ1045枚（ティッシュ入れ）を配布した（昨年31人：834枚）。スピーチでは内部留保、大幅賃上げ、最低賃金1500円、中小企業の賃上げ、年収の壁問題、職場体制・・・を訴えた。テレビ愛知としんぶん赤旗が取材した。（自治労連8、国公5、愛教労3、愛高教3、医労連2、建交労2、電機情報ユニオン1、生協労連1、千種名東労連1、検数労連1、福保労1、個人1、事務局4）



■知多労連旗開き

1月8日

西尾議長が愛労連を代表して参加した。

■学習協理事会

1月9日

11人が参加。理事会を受けて、この間の状況と今後の方針が話し合われた。自治労連青年部の活動報告がおこなわれ、青年部や若者の現状や、今後のとりくみへの展望などが話された。

次回常任委員会 2月5日（水）19：00～ 労働会館本館会議室

■9の日宣伝 1月9日

金山総合駅北口で実施し、5人が参加した。

■あいち総がかり事務局会議 1月9日

■医労連・東三河労連サニー裁判弁護団会議 1月9日

Zoom会議にて打ち合わせを行った。判決期日を2月26日に控えているが、和解についての条件を議論した。原告の奮闘と労働組合が存続しているからこそ、サニーライフ豊橋の人員確保を整備させていることなど、意義を広げていくこと、最後まで署名にとりくみより良い条件を出していくために奮闘することを確認した。

■中地域新年合同旗びらき 1月9日

愛労連を代表して林副議長が参加した。

■福保労旗びらき 1月9日

愛労連を代表して寺田副議長が参加した。

■Ai機関紙編集委員会 1月10日

オンラインで4人が参加。愛労連新聞1月10日号の振り返りと、2月10日号の企画打合せをおこなった。

■JMITU旗びらき 1月10日

愛労連を代表して佐賀事務局次長が参加した。

■全国一般旗びらき 1月10日

愛労連を代表して佐賀事務局次長が参加した。

■東海法労旗開き 1月10日

愛労連を代表して浜島副議長が参加した。

■Ai単産地域代表者会議 1月11日

40人（15単産19、13地域21、事務局6）が参加した。佐賀事務局次長が司会を務め、竹内事務局長が愛労連国民春闘方針案（1月26日臨時大会議案事前配付用）を報告した。討論では単産・地域組織から28人が発言。「中高年も家計簿調査実施：自治労連」「職場の団交力に力を注ぐ：福保労」「1.19に地域で平和集会：中川地域センター」「トヨタ総行動に合わせてグループ企業要請：西三河労連」「地域総行動でプラスター希望：港地区労」「要求額は家計簿つけることから：全国一般」「中小企業での賃上げ重視：検数労連」「要求対話が大事：建交労」「最賃署名に全力：きずな」「3月にストを構える単組あり：JMITU」など、職場討議、ストライキ、地域総行動などに向けての決意が語られた。

■Ai・春闘共闘新春大学習会 1月11日

筑波大学名誉教授の田中洋子氏を招き、133人（会場103、オンライン30）が参加した。講演は、「エッセンシャルワーカー・非正規・女性、すべての労働者が豊かにくらす社会をめざして～ドイツと日本の労働政策・働き方から考える～」をテーマに、日本とドイツは同規模の経済大国だったにもかかわらず、この新半世紀で大きく差がついたことを、ドイツ労働者の働き方や、暮らし、市民生活など様々な分野から、違いはどこからきているのか、働きやすさを実現するポイ

ントは何なのかを解明した。

■憲法と平和を守る街宣A

1月11日

定例の「憲法と平和を守る宣伝」が榮で行われ、国公3・福保労2・年金者組合2・愛教労1・社民党2・愛労連事務局2人が参加。スピーチをみんなで行った。

■Ai新春旗びらき

1月11日

67人が参加した。来賓の挨拶で冒頭に、ノーベル平和賞授賞式に参加してきた愛友会の金本弘理事長が、被爆80周年を機に核のない世界を実現していく運動と世論をさらに高め、日本政府が核兵器禁止条約を批准するよう求めている決意を語った。政党からは日本共産党愛知県委員会の大野宙光副委員長、立憲民主党の藤原規真衆議院議員が挨拶した。

■きずな新春旗開き

1月12日

愛労連を代表して寺田副議長が参加した。

■反核・平和新春のつどい

1月12日

民主会館で開催、開会あいさつ後、金本弘愛友会理事長からのノーベル平和賞授賞式でのエピソードや、受賞を機に運動の目に見える前進を勝ちとりたい意気込みなどが話された。講演は、医療生協はまきた診療所・医師の間間元さんから「一戦後・被爆80年に寄せてー原爆被爆者、ビキニ船員被ばく者の被ばくをめぐる問題について」を聞いた。交流や文化企画もおこなわれ60人以上が参加し盛況だった。

■Ai女性協新春のつどい

1月13日

労働会館東館ホールにて、オンライン含め50名以上の参加で開催された。女性協幹事は、今年も着物にて主催。オープニングは「愛知教職員合唱団きぼう」の合唱。「もしも名字が選べたら」などのジェンダーに関するオリジナルソングが歌われた。記念講演は、静岡大学人文社会科学部教授・白井千晶さんから「ジェンダーと若者支援」を聞いた。ジェンダー問題における日本と海外との比較や、繁華街を歩き若者の困難な現状を注視してほしい、などが話された。活動交流は、建交労・愛高教・医労連・愛知国公・自治労連・福保労がそれぞれ発言した。みんなが集まり年のはじめに元気をもらえた、と好評だった。

■Ai女性協幹事会

1月13日

9人が参加。新春のつどいの振り返り、今後のとりくみに話し合った。原水爆禁止世界大会参加を促す女性協オリジナルグッズを作成し啓発をおこなっていく予定。

母親大会名古屋市要請行動 2月13日(木) 10:00～ @名古屋市西庁舎

次回幹事会は、2月13日(木) 13:30～ @愛労連応接室

■はたらく女性の中央集会在あいち事前打ち合わせ

1月13日

11月に開催される「はたらく女性の中央集会在あいち」の事前打ち合わせをオンラインとリアルで開催し、集会の意義や今後の日程などを話し合った。

■中川地域センター幹事会&旗開き

1月14日

愛労連から連帯のメッセージを送った。

■共済会事務局会議

1月15日

愛知共済会事務所でおこなわれ、参加者は建交労、全国一般、きずな、JMITU、愛労連、事務局から計8人。①この間の共済の増減、給付の実績など確認した。②24秋の拡大月間の到達について

て確認した。JMITUやきずなが目標未達ながら健闘した。そのほか事務協が大きく対話数をのばした。③2月16日～17日の第14回共済拡大全国交流集会の参加者について協議した。集会の特別報告ではきずなのとりくみを報告する。

■社保協四役会議

1月15日

愛労連会議室でおこなわれ、参加者は保険医協会、民医連、愛労連、自治労連、年金者組合など計8人。各分野のとりくみについて確認・協議した。①新介護署名について2月12日に国会行動がとりくまれ、署名の提出もおこなわれる。社保協としても参加を位置づけ、参加を呼びかける。②健康保険証存続のたたかい、国保改善、生活保護裁判のとりくみについて確認した。③知っトクパンフについて販売価格について確認した。

■中村区合同旗びらき

1月15日

愛労連を代表して若井副議長が参加し、連帯の挨拶をした。

■日本平和大会in愛知実行委員会

1月16日

15人参加（平和委員会8、革新懇、年金者組合、民医連、自治労連、国公、愛労連事務局、中央実行委員会各1名）。テンポと大会に向かう運動を確認。愛知実行委員会としてのパンフレット作製、現地実行委員会企画として「学びと交流のつどい」のテーマと責任組織を前回に続いて討論。次回は3月10日（月）15時～17時、労働会館第一会議室。

■最賃国会議員訪問

1月17日

12人が参加し、14人の議員を訪問した。

■秋の自治体キャラバン実行委員会

1月17日

労働会館本館でおこなわれた。2024自治体キャラバンについてまとめの文書の確認をおこなった。確認した文書の修正などは1月27日(月)までの提出で2月6日に最終確認される。今後、冊子の納品は2月28日となる。

■自由法曹団・救援会・争議団新春のつどい

1月17日

愛労連を代表して谷藤副議長が参加し、連帯の挨拶をした。

■自治労連愛知県本部臨時大会

1月18日

西尾議長が参加し、愛労連を代表して挨拶した。

■愛知県医労連臨時大会

1月19日

愛労連を代表して寺田副議長が参加し、連帯の挨拶をした。

■一宮地区労連旗びらき

1月19日

愛労連を代表して佐賀事務局次長が参加し、連帯の挨拶をした。

■あいち総がかり行動集会&デモ

1月19日

「生きるのにお金の心配なくていい社会を」をスローガンに掲げ、光の広場で開催され約200人が参加した。各団体から5人がスピーチ。愛教労幹事の新井孝昇さんは、教育予算が削られるもとの、一人ひとりの子どもたちに寄りそった教育が困難になっている実態を告発。「すべての子どもたちが輝ける学校づくりのために声を上げ続けます」と語りました。参加者は集会後、矢場町までデモ行進した。

■最賃国会議員訪問**1月20日**

12人が参加し、7人の議員を訪問した。

■社保協理事会**1月21日**

労働会館本館とリモート併用でおこなわれ、参加者は約20人。①各団体からの報告では、自治労連から25春闘では生計費調査をおこなうこと、保育関係の動きなどが報告された。また名古屋市職労からの報告では、新市長はまともに話ができていること、マイナカードに関する業務が「イオン」に委託されるのではと話された。②協議事項では、社会保障の拡充を求めるたたかいで毎月25日に生活保護裁判とセットにした宣伝について検討、介護分野では2月12日の国会行動など今後の各分野のとりくみについて確認した。③知っトクパンフは社保協組織内には1冊30円と確認した。

■クールクライメートあいち事務局委員会**1月21日**

6人が参加した。2月18日の第2回口頭弁論とその後の報告集会の運営や分担について具体化した。JERA知多ガス火力7・8号機増設に関わる公聴会が2月16日に開催されることから参加を呼びかけることとした。

次回は2月27日(木)13:30～愛労連会議室&オンライン

■A i ケア労働対策委員会**1月22日**

1月31日に愛知県に「ケア労働者の賃上げを求める要請書」を提出と懇談、記者会見を行う。要請内容について内容を検討した。県独自に緊急策として1万円の賃上げを行うことなど、賃金の抜本的な改善を求めていく。記者会見の内容、スケジュールについて相談を行った。

参加：建交労 田村、医労連 矢野、近藤、愛労連 西尾

■全労連第66回評議員会**1月22日**

全労連会館及びオンラインで開催され、16単産30名(定数30名)、47地方組織49名(定数名)の、計63組織から79名の評議員が参加した。評議員の女性比率は1日目20.7%、2日目24.3%であり、全労連規約第21条2項に定める努力目標(「評議員はその3分の1を女性とするよう努める」)には及ばず、前回第65回評議員会の32.5%、第32回定期大会の32.8%と比べても少なくなった。幹事会の議案提案を受け、32名の発言があった。発言を受けて評議員会2日目の23日、黒澤事務局長は幹事会を代表して総括答弁を行った。議案採決は、1号議案は挙手による採決、2号議案は拍手による採決とした。各議案の採決結果は第1号議案(含む附属議案および附属文書、総括答弁)は反対0、保留0、全員賛成により採択、第2号議案は満場の拍手により採択された。

■東三河労連新春のつどい**1月22日**

佐賀事務局次長が参加し、愛労連を代表して連帯のあいさつを行った。

■最賃国会議員要請**1月22日**

立憲民主党の小山千帆衆議院議員の国会事務所を竹内事務局長が訪問。秘書と有意義な懇談ができ、後日、紹介議員も応諾された。

■尾東労連旗びらき学習会**1月22日**

西尾議長が参加し、愛労連を代表して連帯のあいさつを行った。

■消費者大会実行委**1月22日**

6名参加。活動の総括、今後の講座の開催方法、内容、講師などを話し合った。今後は、再エネ、

食の安全について、大学生向け契約トラブルなどの講座を予定。愛知県・名古屋市への懇談会申し入れ書の回答から当日の懇談内容について検討をした。

- ・「再生エネルギー開発の今、そしてこれから～再エネでの乱開発はゴメンです」

1月25日(土) 13時30分～ @愛知民主会館2F会議室

講師：傘木宏夫さん(NPO地域づくり攻防、自治体問題研究所)

行政懇談会・名古屋市 2月3日(月) 10時～ @名古屋市役所会議室

行政懇談会・愛知県 2月10日(月) 13時半～ @自治センター

- ・「食の安全→健康とサプリ、機能性表示食品など」

3月22日(土) 13時30分～ 場所：ウインクあいち905会議室

講師：原英二さん(日消連)

- ・第11回実行委員会 2月20日(木) 13:30～ @愛労連会議室

■高齢者大会実行委員会 1月23日

労働会館本館で開催され、食事をとりながら労をねぎらい合った。

■年金者組合新春のつどい 1月24日

西尾議長が参加し、愛労連を代表して連帯のあいさつを行った。500人を超える参加だった。

■Aiパ臨連幹事会 1月24日

オンライン含め6名が参加。各組織の活動報告をおこなった。春闘期にむけておこなう、非正規労働者へ年収の壁問題にからめたアンケートの内容や集計方法などを検討した。完成次第各組織へ交付し、第一次集約を3月末、第二次集約を4月末としてアンケートにとりくむ。

次回幹事会 2月21日(金) 18:30～ @愛労連会議室

次々回幹事会 3月17日(金) 18:30～ @愛労連会議室

■愛労連第71回臨時大会 1月26日

刈谷市産業振興センターで開催し、代議員100人、特別代議員3人を含む151人が参加した。

■機関紙宣伝学校実行委員会 1月27日

リモートでおこない、6人が参加。講演は、武田敦さん(自治労連本部機関紙「自治体の仲間」編集長)から、機関紙をつくり続ける事の意義、情報を発信することの大切さを伝える。分科会は、①ニュース・機関紙づくりレベルアップ講座では、機関紙を作成する上での悩みや交流、見出し・レイアウトのテクニックなどを学ぶ。②Wordでニュースづくり講座は、効果的なレイアウトやフォントなどを実践。③SNS活用講座(初級編)は、効果的な表現方法や実際に投稿などの実践をおこなう予定。

第29回機関紙宣伝学校開催 2月1日(土) 13:00～ @労働会館本館会議室

■春闘共闘役員会 1月27日

5人が参加した。春闘スタート宣伝をはじめ、春闘前半の取り組みを振り返りつつ、トヨタ総行動や、山場の全国統一行動などのとりくみについて議論した。

次回は、2月17日(月) 18:30～労働会館本館

■最賃国会議員要請 1月27日

竹内事務局長と国公の青山事務局次長とで公明党の新妻秀規参議院議員を訪問した。秘書と30分にわたり懇談できた。

■非正規センターオンライン学習会 1月27日

オンラインで開催。29カ所から参加があった。「25非正規春闘に立ち上がろう、均等待遇を実現させよう」と題して、非正規センター議長の柳恵美子さんから話を聞いた。また、「生協労連パート部会のとりのくみ」を、生協労連大黒さんから聞いた。正規と非正規の雇用形態別制度比較表を作り、制度の違いをわかりやすくして要求に活かしている。項目ごとに一つ一つ要求する事が大切である。事業主の待遇に関する説明義務を団体交渉に活かそう、などが話された。25春闘を賃金引き上げとともに均等待遇を実現させよう！と非正規センター全体としておこなっていくことが訴えられた。

■瑞穂区労連・すすめる会合同会議 1月28日

瑞穂区労連と瑞穂すすめる会は、1月の会議を合同で行っており、会議後に旗びらきを兼ねた懇親の場が持たれた。愛労連を代表して竹内事務局長が参加し、連帯のあいさつを行った。

■全労連事務局長交流会打ち合わせ 1月28日

地方選出幹事および、全労連事務局の参加で4回目となる事務局長交流会の持ち方について議論した。地域組織の抱える課題について悩みを出し合い交流することとした。開催は5月9日にオンラインで開催する。

■A i 組織強化学習教育委員会 1月29日

オンライン含め9人が参加。各組織の学習教育のとりのくみや春闘期の報告をおこなったあと、今後の行事についての確認。わくわく講座閉校式については、受講生の参加が難しいため、全労連主催のオンライン修了式を受講するよう促すこととした。また、3月からは、2025年のわくわく講座募集がスタートするため、各組織で全ての執行委員が受けてもらえるように、計画を立てて次回に受講目標数値を出すこととした。

■A i 最賃公契約対策委員会 1月30日

7人参加。①月刊全労連の徳島ショックの記事、②国会議員要請行動、③2大個人署名と2つの団体署名の状況、④2.1ローカルビッグアクション、⑤2.6最低生計費アップデート説明会、⑥Excel家計簿データ、⑦愛知県の申し入れ第一次案、⑧4.9第二次最賃データの議論・確認。次回は3月10日(月)1300～1445 (愛労連会議室)

■A i 労働相談センター全体会 1月30日

新規相談件数11月＝42、12月＝58(うち19は12.8非正規ホットライン分)。昨年は106、70なので約5割の減。24年の合計は674(昨年956)で約3割減。背景を議論、解雇や雇い止めの相談は明らかに減っている。人手不足が背景にあるかもしれない。ハラスメントも全体が減るなかで減少。相談事例の紹介と議論。次回は、3月26日(水)1500～1700：愛労連会議室

■憲法と平和を守る愛知の会 1月30日

8人参加。土曜宣伝の報告と2月の責任団体確認。情勢議論。団体からの報告、愛労連NEWSで報告：臨時大会、国会議員要請、トヨタ総行動など。次回は3月5日(月)1600～愛労連会議室

■A i ケア労働者の賃上げ記者会見 1月31日

愛労連ケア労働者対策委員会で愛知県にケア労働者の月額5万円を求める要請書を手渡し現況を説明した。愛知県は労働福祉課、医務課、福祉局ら8名が対応した。その後愛知県庁記者クラブにて記者会見を行った。愛労連からは医労連、建交労、自治労連、福保労、事務局から9名が参加した。

■A i 青年協幹事会

1月31日

愛労連会議室とリモートでおこない、参加者は医労連2、建交労、自治労連、愛労連の計5人。今後のとりくみについて協議した。①トヨタ総行動について、参加者など確認。青年協役員では澁谷幹事が参加できるか、今後の推移を見守る。終了後には全国から集まった青年との交流を検討。②春の交流会として、4月19日に最賃・最低生計費などの学習と意見交換などと交流をおこなうとした。③5月18日に新歓☆地引き網を予定。④次回幹事会は2月24日(月休)にリモートでおこなう。

■延期 名労連(仮称)準備会①

2月1日

結成に向けたスタートアッププロジェクトの立ち上げなど、準備会開催に向けた諸実務が遅れていることから延期することとした。日程については調整中。

■第29回あいち機関紙・宣伝学校

2月1日

労働会館本館でおこない、実行委員あわせて25人の参加があった。

全体講座は「自治体の仲間」編集長 自治労連本部の武田敦さんの講演「機関紙作りで私が心がけていること」を聞いた。機関紙の活動を要求実現の運動に組み込むこと、だれもが理解できる内容に、平易な言葉遣い、担当者1人でおこなうのではなく皆に協力してもらうこと、などが話された。実践講座は①ニュース機関紙づくりレベルアップ講座、②Wordでニュースづくり初級講座、③SNS活用講座、の三講座をおこなった。他の担当者と交流できて悩みが相談できて良かった、と好評だった。

■2. 1全国最賃デー「ローカルビッグアクション」

2月1日

名古屋駅にて1430～1530まで実施。スピーチ・ビラ(全労連)・署名・シールアンケート・横断幕。19人参加(自治労連3、医労連2、国公1、名中センター1、愛教労、千種名東労連1、東海法労1、障害者組合1、ふれあいユニオン4、事務局4)。全労連作成の全国一律最賃ビラは、この場では近年最高の1000枚を配布した(ティッシュ入れ)。署名=愛知7、国7。女性(57)は、一度通り過ぎてから戻ってきて、「生活が苦しいし、ニュースを見ていると今の政治が不安、何かしたい」と思い、街中で初めて署名したと話した。しんぶん赤旗が取材し、3日報道した。

■メーデー会場取り

2月3日

5月1日分の白川公園を確保できた。

■トヨタ&グループ企業要請

2月3日

トヨタ自動車、デンソー、トヨタ紡織、豊田自動織機、アイシン、トヨタ車体の6社にトヨタ総行動実行委員会として要請をおこなった。要請の中心は下請を含むすべてのトヨタ車づくりに関わる労働者の賃上げのため、下請の末端まで価格転嫁できるように求めた。各社、具体的な説明はないが、価格転嫁へのとりくみについてはすすめている旨の表面がされた。要請書は、トヨタ・デンソー・アイシンが受けとった。

■消費者大会行政懇談会

2月3日

5名参加。名古屋市側24名参加。第55回消費者大会行政懇談会申し入れ書の回答をもとに、名古屋市との行政懇談会を計2時間行った。消費税率引き下げ、消費者行政について、名古屋市主催の審議会等について、防災学習・地域ぐるみでの運営等のしくみ、マイナカードと健康保険証一本化の中止等、食料自給率の向上・米不足問題、学校給食無償化、再エネ転換について、原発避難計画について、名古屋城について、平和外交、PFASの名古屋市の現状と対策、についての話し合いを行った。

■社保協四役会議

2月3日

愛労連会議室でおこなわれ、参加者は保険医協会、民医連、自治労連、医労連、年金者組合、愛労連など計9人。①介護問題について、2月12日の国会行動の参加者など確認した。愛知から6人は参加することで愛知選出国會議員を3グループに分かれて全員回る。②健康保険証存続、424共同行動、国保などについて情勢や今後のとりくみについて確認した。③生活保護裁判について1月31日の最高裁要請行動で署名が約10万筆提出され、計12万筆余となったこと、福岡高裁で福岡事案が勝訴したこと、今後の裁判日程など確認した。2月4日には三重事案が名古屋高裁で審議され、支援連絡会は宣伝行動や傍聴にとりくむ。④知っトクパンフについて、2月10日納品をまえに各団体の注文数を確認した。2月13日の中日新聞で紹介される。⑤3月2日(日)の社会保障学校について、役割分担や会場発言について確認した。会場発言では国保、生活保護、介護、マイナ保険証などについて発言を依頼する。⑥今後の四役会議、理事会、総会の日程について確認した。総会は6月21日(土)を予定。

■医労連名城病院パワハラ裁判

2月5日

第8回期日が行われ、争点整理の確認を行った。年度末で裁判官が入れ替わりになる。次回期日、3月17日(月)14時30分～1103号法定

■道路使用許可有料化問題署名提出

2月5日

国民救援会、自由法曹団、愛労連、原水協で、道路使用許可有料化問題で警察側と懇談、署名の集約状況を報告した。しもおく奈歩愛知県議會議員、山口さんが参加した。

■学習協常任理事会

2月5日

青年部活動の実態を学び共有するとりくみを学ぶため、日検労(検数労連)青年部長の大西さんから青年部のとりくみを聞いた。年に1回青年部独自で要求をまとめ労使懇談をおこなっていることなどが話された。青年の奮闘に質疑応答が止まらず好評だった。

次回常任委員会 3月5日(水)19:00～ 労働会館本館会議室

■全労連第1回組織拡大実践講座「25春闘で対話を進めよう」

2月5日

第1回目は愛知県医労連矢野書記長が愛知県医労連の新人加入説明会の教訓を報告した。そのあと、グループワークでは対話練習で先輩役、新人役を分けて説明や質問回答を行い、今度は役割を変えて実践しあい、それぞれ講評し、グループ報告を行い、気付きブラッシュアップをしていくトレーニングを行った。

■全国一般アクリル都労委証人尋問

2月6日

アクリル争議都労委での証言が東京都労委であり、全国一般愛知地本委員長の煤本さんと東中・全国一般中央委員長の尋問・反対尋問が行われた。

愛知からは林・自治労連愛知県本部委員長、西尾・愛労連議長はじめ愛知から11名が参加し、全国の全国一般の仲間、JAL争議団の方含め50名(宮城、千葉、埼玉、東京、神奈川、京都、大阪、広島)が傍聴を見守りました。審問室の傍聴席は埋まり、別会場でモニターを設置、会場は満室だった。

煤本さんは、ジャルアクリル労組との差別があった事実と団交を一方的に打ち切った事実が、明確に語った。60分主尋問、60分反対尋問の長時間の主尋問を立派に努め、会社の不誠実さを明確にし。審問後は労働者委員の北委員を交え報告集会が行われた。審問では公益委員、労働者委員が積極的に質問し、不当労働行為性が明確になり、委員の熱意が感じられた。愛知の労働委員会の質の違いを感じた。今後は、組合は会社側証人・内田元社長の証人を申請している。次回期日は3月21日16時～。

■最低生計費試算アップデート説明会 2月6日

19:30～20:30、リアルとオンラインで開催。建交労4（うちオンライン1）、国公1（同1）、生協労連（同1）、福保労1、事務局2。竹内事務局長から約30分、資料にもとづき説明（全国一律最賃で国会議員要請時活用を編集）、参加者から発言は「1人暮らしはきつい。お茶は極力、自宅でお茶を作り水筒持参」「昼食はコンビニが多いが、自宅から持参している人を見ると贅沢かなと思ってしまう」などの声が出された。最低生計費の資料を春闘の賃上げ要求の資料として積極的に活用しようと呼びかけた。

■戦後・被爆80年 あいち平和のつどい実行委 2月6日

被爆80年（2025年）に向けて、愛知独自のとりくみとしての「つどい」開催をめざす実行委員会を開催、実行委員会の構成・体制、予算案や賛同金、当日の開催の内容や進行などを話し合った。

戦後・被爆80年あいち平和のつどい 2025年9月27日（土）@名古屋市公会堂
次回実行委員会 4月7日（月）13時半～ @労働会館本館会議室

■単一協議会幹事会 2月7日

12月総会、忘年会の振り返りを行った。経費について外壁工事、ホールプロジェクター更新工事、エアコン故障、AED入れ替えなど費用の支出を確認した。次回会議4月18日（金）10時～。

■国際女性デー実行委員会 2月8日

3人が参加。国際女性デーにむけて内容の打合せ、担当者決めなどをおこなった。昼の街宣は、チラシ配り、横断幕でのスタンディングアピール、リレートークなど、国際女性デーを市民にもアピールすることとした。夜は中央大会の視聴を呼びかけることとした。

■共産党県議団との賃上げのレクチャー 2月7日

しもおく奈歩県議が議会で4年ぶりに報告を行い、賃上げについてレクチャーの要請があり、佐賀事務局長が説明を行った。西尾議長も同行した。共産党からはしもおく県議、すやま愛知県委員会副委員長、山口さん、高橋さん、西田さんが参加された。

■憲法と平和を守る街宣A 2月8日

雪の舞う中、検数労連2名、年金者組合2名、国公1名、中センター1名、社民党など11名が参加した。それぞれがマイクを握り訴えた。検数労連尾崎委員長は、「港湾労働者は国民の安心・安全の生活のため、港湾の軍事利用、憲法9条改悪、軍事費増強などいかなる戦争の企てにも反対し平和な商業交をめざしてとりくんでいくと訴えた。

■消費者大会実行委愛知県要請行動 2月8日

第55回消費者大会行政懇談会申し入れ書の回答をもとに、愛知県との行政懇談会を計1時間行った。消費税率引き下げ・インボイス制度廃止、契約トラブル対策、最低賃金1500円、各種会議議事録公開、非正規雇用を正規雇用へ、避難所運営、マイナ保険証中止、米不足問題、学校給食無償化、再エネ転換について、原子力政策の転換、PFAS問題、平和外交などについての要請を行い、話し合いを行った。

■第46回トヨタ総行動 2月11日

延べ614人の参加した。（内訳：要請15、三河豊田駅宣伝31、刈谷駅宣伝35、名古屋駅宣伝62、豊橋市内ピラまき21、田原市内ピラまき15、決起集会450）ピラは合計6677枚を配布した。（内訳：三河豊田500、刈谷駅宣伝2500、名古屋駅宣伝677、豊橋市内ピ

ラまき2000、田原市内ビラまき1000)

集会には全労連議長をはじめ中央単産の委員長の参加もあり、全国的な位置づけの集会として成功させた。事前の要請では、昨年に続いてトヨタ本社が丁寧な対応とともに要請書を受けとった。

■愛知共済会事務局会議 2月12日

共済会事務所でおこなわれ、参加者は建交労、きずな2、JMITU、愛労連、事務局2の計7人。この間の共済の増減や給付実績など活動の報告、今後のとりくみについての協議をおこなった。①24秋の拡大月間のまとめでは対話目標70に対し、80の対話を達成した。一方、火災特約の予約や学習会の開催は目標に届かなかった。②今後のとりくみについて、2月16日・17日の共済拡大全国交流集会や25春の拡大月間について確認した。

■サニーライフ豊橋高裁和解期日 2月12日

サニーライフ豊橋労組・瀬瀬委員長の高裁の3回目の和解協議が行われた。和解協議では原告側の意見・主張が取り入れられ、原告の瀬瀬委員長が納得できる形での和解となった。和解事項の中には、川島コーポレーションに対して「サニーライフ豊橋労働組合との適切な労使関係を構築するよう努める」という一文を盛り込むこともできた。

2022年2月の地裁への提訴、2024年3月の地裁判決を経た3年という長きにわたり奮闘してきた。和解となり、2月26日の判決期日はなくなった。後日、報告集会を行う予定。

■春の自治体キャラバン実行委員会 2月13日

通常国会での法改正の動きや最新の地方自治に係わる情勢を共有しつつ、春のキャラバンに係る自治体への送付書類への反映及び最終調整を行った。今月中の送付に向け事務局で準備をすすめることを確認した。

■25春闘「労働時間短縮運動交流集会」 2月13日

名古屋市長選挙などが重なり延期となっていた「労働時間短縮運動交流集会」～賃上げなしの1日7時間労働をめざして～を春の自治体キャラバンの一環として、全労連土井直樹厚生労働局長を招いて開催した。単産・地域のとりくみとも重なったこともあり、タイムリーなテーマであったにも関わらず残炎ながら参加は低調な結果となった。講演の様様についてはYouTube（限定配信）を実施している。あらためて春闘期に「対話と学びあい」のツールとして単産・地域での活用が望まれる。

■尾中地区労連春闘学習決起集会 2月13日

8人が参加し、春闘情勢と愛労連のたたかいについて愛労連の竹内事務局長が報告した。そのあと尾中地区労連の加藤事務局長が春闘方針を提起し、職場の状況を交流した。

■春教労団交拒否違憲訴訟高裁判決 2月13日

高裁判決は、地裁五十嵐裁判長の判決が引きずられる結果となり、棄却・不当判決となった。事実上の上部団体の団交拒否となる。弁護団からは、憲法28条による憲法違反。地公法55条6項を遵守していない。裁判所が憲法を理解していない、労働組合を理解していないことが問題である。団結権・基本的人権からみても労働者を代表する自由が保障されないことはおかしい。ILO87号条約（結社の自由及び団結権の保護に関する条約）からも逸脱している。原告はこれまでの支援に感謝を述べ、判決には不服であることが述べられた。最高裁への上告については、議論して決めていく。

■Ai女性協幹事会 2月13日

とりくみの総括、今後のとりくみに話し合った。原水爆禁止世界大会参加を促す女性協オリジナル

ルグッズを作成した。グッズを広めて啓発をおこなっていく予定。3. 8国際女性デー街宣に連帯し参加することとした。

3. 8国際女性デー街宣 3月8日(土) 11:00～ @金山駅北口
次回幹事会は、3月8日(土) 17:00～ @愛労連応接室

■母親大会名古屋市要請行動 2月13日

19名参加。名古屋市側19名参加。第70回愛知母親大会にて採択された大会決議に盛り込まれた母親・女性の切実な要求を名古屋市に反映するための要請を行い、その回答をもとに計2時間懇談を行った。教職員の定員増・正規化、給食無償化、子どもの居場所作り、最賃1500円、ジェンダー問題、マイナ保険証、消費税5%、インボイス制度中止、障がい者政策の充実、原発問題、核兵器禁止条約署名批准、平和の日について、などについて話し合いを行った。

■全労連共済拡大全国交流集会(～17日) 2月16日

静岡県湯河原市「ニューウェルシティ湯河原」で開催され、参加者は86人。①基調報告で春の拡大月間の方針や2つのキャンペーンについて話された。②特別報告で愛知のきずな共済会など5組織からそれぞれのとりくみについて報告された。③分科会・分散会では単産・地方共済会それぞれのとりくみについて経験や成果、悩みなど交流した。

■あいち総がかり行動総会 2月16日

総会と記念講演が名古屋市教育館で行われ150人が参加した。

■はたらく女性の中央集会in愛知実行委員会 2月17日

愛知の会場と全労連会場、各実行委員をオンラインにてつないで開催。11月に開催される「はたらく女性の中央集会in愛知」について、開催形態などについて話し合いをおこなった。各組織からの活動報告も併せておこない、交流をした。

はたらく女性の中央集会in愛知 11月29日(土)～30日(日)

1日目分科会 労働会館、2日目全大会 ウイルあいちホール

■春闘共闘役員会 2月17日

7人(建交労・JMITU・医労連・自治労連名ブロ・全国一般・名高教・愛労連)が参加した。トヨタ総行動の振り返りをしつつ、全国統一行動を山場としたたかひの具体化について議論した。春闘をめぐるのは、医療における経営困難やトラックにおける燃油高を背景に厳しさが報告された。

■社保協理事会 2月17日

労働会館本館とリモートでおこなわれ、19人が参加。①大軍拡より社会保障の拡充を求めるたかひでは毎月25日に宣伝行動を検討する。また5月27日には国会行動に参加する。②介護について自治体での意見書採択がすすみ愛知県議会でも介護事業者の安定的な運営確保についての意見書が採択された。③健康保険証存続を求めるたかひでは署名の紹介議員が愛知県の国会議員が14人となっている。今後県内のすべての市町村議会で「従来の健康保険証とマイナ保険証の両立を求める意見書」の提出を求める陳情書を実行委員会名で出す。④子ども子育て支援では、保育料の第2子以降の無料化などについて報告された。⑤生活保護裁判について3月ごろに全国の高裁での判決が相次ぐことが予想されている。3月15日の生活保護シンポの参加などとりくみも呼びかけられた。また、1月24日に名古屋高裁で判決が出された「障害者加算漏れ事件」については、名古屋市が上告を断念した。⑥障害者団体の問題として、「恵」からの譲渡先と福保労が団体交渉したことなど報告された。⑦その他今後のとりくみ日程など確認した。

■若者気候訴訟第2回口頭弁論 2月18日

傍聴希望者は全国から来名し、定員の2倍を上回る150人以上が並び抽選となった。原告の大学生、高田さんは「猛暑、洪水」の現実をふまえ「私たちの人生を保証してください」、高校生の角谷さんは「気候危機によって未来がなくなることが怖い。気候危機を止めるときは今です」と訴えた。報告集会にも会場あふれる参加となった。

今回は5月22日(木)14:00から名地裁1号法廷。

■地域手当違憲訴訟第2回弁論

2月19日

地域手当が手当なのか報酬なのか？すべての公務員に関係する「地域手当による報酬格差は違憲!訴訟」の第2回口頭弁論が名古屋地裁で開催された。原告側弁論の中で「地域手当」の歴史的経過も触れられるなど、社会的な賃金闘争をすすめるうえで参考となる裁判であることが浮き彫りとなった。愛労連幹事会から林副議長・佐賀事務局次長が、口頭弁論を終えた後に桜華会館でおこなわれた報告会まで参加した。

■安保廃棄愛知県実行委員会常幹会議

2月19日

12月9日の総会后、初の会議。平和委員会、国公、医労連、愛労連、共産党の5人が参加。安保廃棄実行委員会としてのとりくみを確認(沖縄・地位協定・小牧平和集会・平和大会・学習会)。各団体から平和のとりくみを報告。医労連=ゆにあか、平和ツアー、国公=ビキニデー、平和行進、共産党=学費問題で学生と対話、高校生とのシンポ。報道記事を資料に情勢討議。今後のとりくみ=憲法新署名、リーフレット、3/11の次期戦闘機開発と武器輸出の学習会：署名、次回幹事会でチラシ配布。

今後の会議の日程=3月19日(水)1000~、4月23日(水)1100~、5月21日(水)1100から、いずれも愛労連会議室。(予約完了)

■Ai組織拡大推進委員会

2月19日

あいち非正規公務員1万人組織化プロジェクトのとりくみでは、建交労保育パート支部が雇止め問題で当事者と対話し運動をすすめる中で6人が加入した。春の拡大月間の成功・新人加入100%に向けての準備状況、臨時大会方針の対話と学びあいについて提起し議論を行った。4月1日春の拡大行動・フレッシューズ宣伝伏見駅、名古屋市小中教員への加入セット配布の行動を確認した。年金者組合は拡大についての書記長会議を3月に計画し、5月9日に支部代表者会議を開催する。建交労は、少数組合で要求論議の対話を行って、組合加入が大きくすすんでいる報告が行われた。

■労基法改悪に反対する学習会

2月20日

昨年秋に計画したが、名古屋市長選挙に伴い延期していた学習会を全労連厚生労働局長の土井直樹氏を招き開催した。土井氏は、労働基準関係法制研究会が今年初めに出した最終報告書は労働組合の要求を大半無視した内容であり、4週4休飲み直しや週44時間特例の撤廃、有給休暇の賃金算定改善など部分的な改善事項春としながらも、法規制の適用除外(デロゲーション)を「法定基準の調整・代替」と言い換えてごまかし、適用除外はすべての企業内の労使に任せるべきだという認めがいた方向性を打ち出しており、労基法解体を許さぬたたかいを職場地域から起こそうとよびかけました。

地域総行動の夜に地域で行動の計画のないところの参加を呼びかけたが、参加は13人(リアル9、オンライン4)にとどまった。

■愛労連新聞編集委員会

2月20日

会場とオンラインで5人が参加。愛労連新聞2月10日号の振り返りと、3月10日号の企画打合せをおこなった。

■消費者大会実行委員会

2月20日

6名参加。活動の総括、今後の講座の開催方法、内容、講師などを話し合った。今後は、食の安全について、大学生向け契約トラブルなどの講座を予定。

「食から健康を考える～サプリ、機能性表示食品、食品表示など」

3月22日(土) 13時30分～ 場所：ウインクあいち905会議室

講師：原英二さん(日本消費者連盟・食の安全部会)

第12回実行委員会 3月26日(水) 10:00～ @イーブルなごや

■全労連東海北陸ブロック第1回幹事会 2月21日

オンラインで実施し、7県7人が参加した。各県のとりくみ報告の後、最賃キャラバンや最賃引き上げのために徳島県のとりくみを聞くためのレクを県庁に要請することとした。最賃キャラバン東海コースは6月19日(木)、23日(月)で調整することとした。

労働相談員研修会については、7月9日(水)13:30からオンラインで、労働相談員のための会計年度任用職員制度の問題点と課題(仮題)をテーマに自治労連東海北信ブロック事務局次長の中川悟さんをお願いして行うこととした。

レバカレとフリーランス労災特別加入の2点だけで通常の幹事会とは別に日程を設けて全労連から説明を受ける場を設けることとし、日程は全労連担当者とともに調整することとした。

■国民大運動実行委員会2025年度総会 2月21日

全労連会館とオンライン併用で開催された。政府予算に関わって高額医療をはじめとする社会保障や教育予算に関わって、軍事費を減らして拡充する対応を共産党を除く野党からは出ないこと、マスコミの報道もされないことから、この点での発信を強化する必要性が方針でも討論でも強調された。役員を含むすべての議案が拍手で採択された

■Aiパ臨連幹事会 2月21日

オンライン含め6名が参加。各組織の活動報告をおこなった。春闘期にむけておこなう、非正規労働者へ年収の壁問題にからめたアンケートの活用や集計方法などを検討した。完成次第各組織へ交付し、第一次集約を3月末、第二次集約を4月末としてアンケートにとりくむ。

次回幹事会 3月17日(金) 18:30～ @愛労連会議室

次々回幹事会 4月16日(水) 18:30～ @愛労連会議室

■全国一般アクリル支援共闘会議 2月22日

14人が参加した。NCPでの斡旋が進む可能性がでてきており、アクリルはもとよりダウに対して解決をするよう3月6日に要請することとした。

都労委は、3月21日の調査で結審の方向を打ち出す方向であるが、組合としてはNCPでの解決の可能性ができていもとで、最終的な和解は都労委での場で行いたい意向を伝え閉じないように求めることとした。

次回は4月5日(土)14:00から労働会館本館会議室&オンライン

■2025春闘自動車デモ 2月23日

約80人、車両32台が参加した。名古屋港稲永埠頭で決起集会を行った後、金山や栄を三の丸まで自動車デモを実施した。集会には愛労連を代表して若井副議長が参加し、連帯のあいさつを行った。

■原水協定期総会 2月23日

民主会館とリモートを併用しておこなわれ42人が参加。記念講演は「若者気候訴訟について」を、樽井直樹弁護士から聞いた。気候変動に対する若者たちの深刻な危機感を真剣に受け止めなければいけないことなどが話された。高校生平和ゼミナールから募金の訴え(ビキニデーへ参加予定)、

愛友会からの挨拶後(被爆者行脚の奮闘)、総会がおこなわれた。総会では、運動方針が提案され、被爆は80年のとりくみに全力をと呼びかけられた。2024年の会計決算報告、2025年の予算の提案・採択、2025年の役員選出、討論などがおこなわれた。討論では各地域や団体の活動の報告などがされた。

■Ai 青年協幹事会

2月24日

リモートでおこない、参加者は医労連2、建交労、自治労連、愛労連の計5人。協議事項として4月19日の春の学習交流会、各組織の新歓のとりくみ交流、5月18日の新歓☆地引き網、サマセミについてなど協議した。①春の学習交流会については、最賃や最低生計費についての学習と自分たちの賃金について話し合ったりする。②新歓のとりくみについては、医労連、自治労連、建交労のそれぞれのとりくみ状況を交流した。③新歓☆地引き網は5月18日をほぼ確定し、現地の漁師さんや榎松講師と調整する事とした。④サマセミについては、今年度は青年協中心であいち実行委員会を進める事を確認した。⑤その他、青年協を広げるためにニュースを出していくことを確認した。

■サマセミブロック実行委員会

2月26日

リモートでおこない、参加者は静岡3、愛知3、岐阜、石川2、福井の計9人。①この間のとりくみ、トヨタ総行動や全労連青年部ユニアカについて概要や参加者から感想が述べられた。②サマセミについて、宿泊施設を中心に協議した。宿泊施設は富士市の「エスプラット フジスパーク」として、3月1日に予約をした。また、昨年(2023)の第31回サマセミの記録集について現状を確認し、4月ごろの完成をめざす。③次回ブロック実行委員会は3月下旬から4月初旬で調整する。

■全労連レバカレプレ企画

2月26日

全国各地で立ち上がる非正規雇用の実践から学ぼう。#労働組合ができることをテーマに第1回は、「当事者が立ち上がる瞬間」と題して、ZOOMで開催された。

テーマは、①「多くの自治体職場で働く非正規労働者が直面する雇い止めにどう立ち向かうか」について、建交労愛知県本部・保育パート支部から尾崎よしみさん、②「スシロー外食チェーンで働く大学生はなぜ賃上げを求めて声をあげたのか」について、回転寿司ユニオンの役員について、③「札幌市で活動するコミュニティ・ユニオンに集う仲間は何を求めているのか」について札幌地域労組役員から報告があった。回転寿司ユニオンと札幌地域労組は若いオルガナイザーで、当事者の尾崎さんの奮闘にも感銘を受けていたようだ。尾崎さんの報告は、当事者が闘うからこそ活路を開くことができること、単産・県労連の支援の関わりにも重要であることが報告された。尾崎さん自身も若い活動家が闘っている姿に感銘したと後日感想を寄せてくれた。

■愛知共済会理事会

2月26日

愛労連会議室でおこなわれ、参加者はJMITU、建交労、全国一般、きずな2、愛労連、事務局2の計8人。この間の共済増減、給付実績の確認、全国交流集会の振り返りなどおこなった。協議事項として、①24秋の拡大月間のまとめと25春の拡大月間について協議した。②今後のとりくみについて協議し、「おうちの安心共済」フライヤーをつかっての宣伝やオルグなど協議した。また、総会日程について協議し、6月28日(土)13:30からとした。

■Ai 非正規公務員1万人組織化プロジェクト会議

2月27日

11月のオータムミーティング以降の会議開催となった。議題は、3月8日国際女性デーを前に、「ジェンダー不平等」の象徴、「ジェンダー差別」「非正規差別」の改善を求める記者会見について議論を行った。石破首相による施政方針演説～会計年度任用職員の処遇の改善～が発出された。今年5月男女雇用機会均等法の成立から40年、日本労働弁護団非正規公務員立法提言が出されるなど、情勢が刻々と動いていることを確認した。記者会見の取り組みの意義や目的などを率直な議論を行った。任用回数による雇い止めは理不尽であり、制度を改善するために記者会見で世論に訴え、正

規・非正規の立場を超え、制度撤廃へ連帯していくこと、記者発表する内容、出演者などを確認した。

スプリングミーティング（名称未定）の実施について次回議論することとした。

参加は、愛教労近藤、愛高教堀、名古屋市職労武藤、磯村、建交労保育パート支部尾崎、愛知国公青山、事務局竹内、西尾（敬称略）

■クール・クライメート事務局会議 2月27日

7人が参加。今後のとりくみについて議論した。裁判支援のとりくみを継続しつつ、クライメート独自のとりくみとして、学校断熱のワークショップをすすめていくために、国会議員を通じて文部科学省のレクや気候危機・自治体議員の会に所属する東京都議による調査結果などを学ぶ学習会を企画し、地方議員や自治体に参加を呼びかけていくこととした。また、同会として「健康と環境を守れ！愛知の住民いっせい行動」に参加・エントリーすることとした。

■全医労ストライキ 2月28日

名古屋医療センター前でスト突入宣伝が実施され、支援者約30名が駆けつけた。多くのノボリやストライキ決行中の横断幕が出され、たたかう春闘を元気にアピールした。

■革新市政の会総務代表世話人会 2月28日

3月18日に開催する総会に向けて、おもに総括について議論した。「みんな未来」との今後の共同についても議論していくこととした。再度、総務代表世話人会を持ち方針について議論することとした。

次回 3月12日(水)13:30～自治労連会館

■3・1ビキニデー 2月28日-3月1日

第71回3・1ビキニデーは、12月に被団協のノーベル平和賞を受賞した後の、核兵器廃絶を求め、焼津市とオンラインを結んで28日は1500人、3月1日は1800人が参加する大きな集会となった。愛知からは昨年の1.2倍の143人が参加し、関心の高さがうかがえた。

米国が南太平洋マーシャル諸島ビキニ環礁で行った水爆実験による被災から71年の日、核兵器のない世界への願いを新たにした。主催は原水爆禁止世界大会実行委員会と3・1ビキニデー静岡実行委員会で開催された。

2月28日の1日目は、静岡市内で3・1ビキニデー日本原水協全国集会・全体集会が行われ、代表理事の全労連秋山正臣議長があいさつを行った。連帯あいさつはライターの和田静香さんが、署名共同よびかけ人として杉並区の魚屋の女性をはじめた署名運動の広がりや意義を話された。日本原水協と日本被団協訪れたスペイン、フランスの代表の録画、アメリカ、韓国から現地で発言が行われた。ノーベル平和賞受賞への国民的共感を追い風に、『非核日本キャンペーン』を市民、自治体ぐるみの運動へと広げようと呼びかけが行われた。

3月1日は焼津に移動し、第五福竜丸の無線長・久保山愛吉さんのお墓に向けて2キロの献花墓参行進を行い、愛吉さんが愛した赤いバラを献花した。焼津市文化センターで行われた3・1ビキニデー集会では、主催者あいさつを菊池静岡県評議長、来賓として中野焼津市長、金本被団協代表理事で愛友会会長があいさつを行った。初めて地元高校生が登壇しうたごえのみなさんと共に、「原爆を許すまじ」と久保山愛吉さんの妻の思いを詩にした「海に生きたあなたよ」の合唱が反核の願いを次世代につなぐもので胸を打つ内容であった。登壇した10人の被爆者が一人ひとり紹介され、高校生らから赤いバラの花束が手渡され、会場から大きな拍手が送られた。集会では被爆80年の今年、核兵器のない世界に向けて連帯し、共同を発展させようと呼びかけられた。高草木世界大会実行委員会運営委員会共同代表は、「世界を核兵器廃絶へと動かすカギを握っているのは日本です。禁止条約に入り、核兵器廃絶をリードできるよう日本の針路を変えましょう。そのために、対話と署名の創意的な行動で、大きな国民的合意を築くために、対話と署名の創意的な行動で、大きな国

民的合意を築くために奮闘しましょう」と呼びかけがありました。

米国の代表は、トランプ政権になり、公務員の解雇、裁判所の支配がすすみ、右傾化が強まっているが、声をあげデモに立ち上がっている、日本も連帯して闘おうと、呼びかけが行われた。韓国民主労連の代表は、全労連と交流し、核兵器のない世界を求めていくことが話された。ビキニ事件を機に被爆者が声をあげ、運動が広がり、ノーベル平和賞につながった歴史的経過を踏まえ、国民・世界の声で核兵器廃絶を求めていく確かな力、次世代に引き継ぐことを実感する内容であった。

1954年3月1日、71年前、米軍のハワイビキニ環礁での「ブラボー」水爆実験が行われ、漁船100隻、乗組員数は2万人、現地マーシャル諸島島民に大きな放射能の被害を受けた。捕ったマグロから放射能が検出され、投棄を余儀なくされ、汚染は世界中に広がった。水爆実験は、広島原爆の1000倍の爆発力を持ち、爆発による「死の灰」は太平洋からインド洋の広範囲に海も空も島々も放射能で汚染された。静岡県の大黒漁船、第五福竜丸は13日後、焼津市に帰港し、無線長・久保山愛吉さんは半年後に亡くなった。当時の国会では米国に核実験に抗議する姿勢はなく、広島・長崎の被爆から10年、被爆者や家族は差別と偏見で声を上げることもできない「沈黙の10年」といわれている。ビキニ事件をきっかけに、国民から水爆禁止を求める声が強くなり、杉並区の鮮魚店の女性が署名を提起し、草の根の署名運動が広がった。署名運動は全国に広がり、原水爆禁止署名運動全国協議会の結成や、原水爆禁止世界大会の開催につながっていった。

■一宮地区労連2025春闘学習会 3月1日

14人が参加した。労基法解体と労働時間短縮のたたかい、地域における労働者の組織化について、愛労連の竹内事務局長を招き学習した。懇談では、厳しい学校職場の実態を改善するため、組合が校長や教頭に粘り強く交渉するすがたが伝わり若い組合員が2名増えたことや職場労働者の抱えた問題に寄りそい解決に導いたが、加入の声をかけるのにどうしても躊躇してしまうなどの悩みもだされ、率直な交流がされた。

■あいち社会保障学校 3月2日

労働会館東館ホールとリモートで開催され、参加者は約100人。①記念講演として石川康宏氏(神戸女学院大学名誉教授)の「人の命を守る国づくり」という講演がされた。近年の選挙の特徴や政治情勢から今後の運動について話をされた。②2024秋の自治体キャラバンのまとめ報告として、まとめ冊子を使い、社保協事務局次長の伊藤剛氏(保険医協会)が説明した。③会場からの発言として、マイナ保険証一本化反対実行委員会、国保、知トクパンフ、介護改善、生保裁判、保育分野の6本の発言がされた。④愛労連の西尾議長が閉会挨拶をおこなった。

■社保協四役会議 3月3日

愛労連会議室でおこなわれ、参加者は保険医協会、自治労連、医労連、民医連などから10人全員参加。①前日の社会保障学校の振り返りがおこなわれた。寄せられた感想などから、今後話を聞くだけでなく、参加者間の交流なども必要なのではと協議した。②大軍拡より社会保障の拡充を求めるたたかいで、この間議論してきた宣伝行動について具体化した。結果的に3月から5月にかけて第3金曜日に宣伝行動をおこなうこととなった。3月21日には覚王山日泰寺、4月18日に東別院、5月16日には笠寺観音でおこなう。③その他、健康保険証存続、国保、後期高齢者医療制度、生保裁判などのとりくみについて確認した。

■公務共闘・愛労連早朝宣伝 3月5日

愛知公務共闘が人事院中部事務局に申し入れをする前の行動として宣伝を実施し、12人が参加した。春闘における賃上げ情勢や公務労働者の賃上げの必要性・正当性について訴えた。

■日本平和大会学びと交流の集い打ち合わせ打ち合わせ 3月5日

実行委員会から2名来局して、10月25日に開催される日本平和大会の「学びと交流の集い」の具体化について打ち合わせ。気候危機（環境問題）がテーマで「打ち出し方」、体制、講師・場所などを確認した。次回は4月中旬～下旬を予定する。

■憲法と平和を守る愛知の会 3月5日

土曜宣伝の体制確認、各団体からのとりくみ（愛労連は春闘関連をNEWSで報告）、情勢討議。次回は4月10日（木）1600～愛労連会議室。

■学習協常任理事会 3月5日

青年部活動の実態を学ぶため、愛労連青年協の小松さんから青年協のとりくみを聞いた。未来を担う青年がいなくなれば、当然その組織の未来はない、青年の活動や青年組織の強化を組織強化の中心課題としてとりくむことが必要ではないか、等の発言がなされた。

第61回総会は6月21日（土）午後開催されることとなった。

次回常任理事会 4月2日（水）19:00～労働会館本館会議室

■25国民春闘勝利！中央行動 3月6日

愛労連・春闘共闘の行動には13人（名高教1・生協労連7・国公1・尾中1・守山1・事務局2）が参加した。最低賃金署名の紹介議員5人に5300余を提出した。日比谷野外音楽堂で開催された中央総決起集会には、コロナ禍以前以来3000人が参加した。

参議院講堂で開催された国会講堂意思統一集会には、立憲や共産、沖縄の風の現職議員とともに自民党最賃議連の務台前衆議院議員も参加し、国会の外から一元化に向けて頑張ると決意を述べた。

■国際女性デー非正規公務員制度問題記者会見 3月7日

司会に松本陵子幹事、主旨説明に西尾美沙子議長、解説に「はむねっと」の渋谷典子監事、「東海労働弁護団」の田巻紘子事務局長、当事者として「建交労保育パート支部」の山田啓子委員長・尾崎よしみ書記長の計6名、説明員として「自治労連愛知県本部」の長坂圭造副委員長の陣容で会見に臨みました。

参加された記者さんや会見動画をご覧になられたジャーナリストのみなさんの感想として、国際女性デーを迎えるにあたっての会見のクオリティーの高さを評価されていました。

マスコミの取材は、会場に「NHKスペシャル取材班」3名、「中日新聞」「読売新聞」「朝日新聞」「毎日新聞」各1名、「しんぶん赤旗」3名の計10名。WEBで「週刊金曜日」ライター1名、合計で11名が参加しました。後日、「NHK名古屋放送局」「東京新聞」「北海道新聞」「河北新報」などに情報提供を行いました。

報道は、「読売新聞」「毎日新聞」が3月8日朝刊、「朝日新聞」「中日新聞」は3月9日の朝刊に記事を掲載しました。「しんぶん赤旗」も紙面掲載と合わせ、独自インタビューを実施しました。

会見に先立ち、立教大学の上林特任教授から紹介を受けた「中日新聞」デスクやNHK名古屋放送局の記者からも連絡があり、3月18日にはNHK記者との懇談もおこないました。

■3. 8国際女性デー 3月8日

今年の国際女性デーは、昼は街宣行動を共同でおこなった。ミモザの花をチラシとともに配付した。若い男性2名が飛び入り参加をして一緒にミモザを配り国際女性デーをアピールした。

■憲法と平和を守る街宣A 3月8日

3月第二週土曜日の定例の宣伝。憲法も最賃も関心があるとそれぞれ家族含め4筆署名をしてくれた。国公から3人で柴田副議長が非常勤職員の雇用、國枝国公議長が平和と公務員の定員の課題をスピーチした。

■原発ゼロNAGOYA ACTION

3月8日

矢場公園で開催され、約150人が参加した。集会では原発ゼロや環境問題にとりくむ市民団体、福島原発事故被害や40年原発廃炉をたたかう原告団など、11団体が政府や電力事業の姿勢を批判、政党からは立憲・共産・社民・れいわ・みどりの各党が連帯のあいさつを行った。終了後、大須を回るデモ行進を行った。

■WOMENS MARCH

3月8日

女性協幹事で名古屋ウイメンズマーチへ参加をした。昨年を大幅に上回る約100人が参加し、女性の権利を訴えながら栄でパレードをおこなった。

■Ai 最低賃金・公契約問題対策委員会

3月10日

8名参加。2.1最賃ローカルビッグアクション、3.6中央行動での議員要請（署名の手交）など報告。最賃愛労連個人署名1万筆の達成。愛知地方最低賃金審議会委員労働者委員の推薦書を3月12日賃金課に持参、25日に要請書提出（西尾・竹内・薄・池田・市川）、24日に愛知県知事への要請と記者会見（西尾・竹内・高木・田村・池田・市川、浅生＝会見）。4月9日のビッグアクションデー確認。

次回は4月10日（木）10時から愛労連会議室。

■JMITUオハラ愛労委調査

3月10日

愛知県労働委員会でおこなわれ、参加者は弁護士3、JMITU3、オハラ分会3、愛労連の計10人。審問に向けての最後の調査の予定だったが、会社側から新たな書面が出されていたため、審問の前に調査期日を入れることとなった。審問では現在ほとんど表に出ない会社社長の証人尋問を労働委員が促したことにより会社側からも申請がされる見通しとなった。次回調査は5月13日（火）10時45分からとなり、最後の調査となり、その後あまり期間を空けずに審問がおこなわれる見通し。

■424共同行動実行委員会

3月10日

愛労連会議室でおこなわれ、参加者は社保協、自治労連、国公、医労連2、民医連、全医労、愛労連の計8人。①地域医療構想をめぐり、現在の全国的な動きや県内の状況について報告された。②県内の再編・合理化状況について、名古屋リハセンやみどり市民病院の移転などについて確認した。③各組織からの報告で、社保協から自治体キャラバンのまとめ冊子や知っトクパンフについて報告された。その他、国会行動などが各労働組合・団体から報告された。④次会日程について、6月12日（木）10時からとなった。

■日本平和大会実行委員会

3月10日

12名参加。冒頭、中央実行委員会から情勢報告、城下さんから愛知の軍需産業の実態、3月22日（土）次期戦闘機開発と武器輸出」をテーマに学習会、4月6日（日）平和活動交流会、10月18日＝国際シンポジウム（中央主催、オンライン）、10月24日＝愛知県の基地・軍需産業・戦争史跡を巡るオプション企画（NEW）、10月25日の「学びと交流の集い」の各テーマと担当団体から報告（市川から3月5日の打ち合わせの報告）、会場確保の状況を議論。次回は、4月28日（月）1500～労働会館第5会議室

■JAL 解雇撤回愛知の会事務局会議

3月10日

3人が参加した。当面の宣伝行動と5月6日に実施される全労連争議支援総行動の具体化、日本平和大会in愛知の愛知の兵器産業と有事の輸送問題及び交通労働者（仮題）の分科会について相談した。

次回の事務局会議

5月22日（木）18：30～国労会館会議室

当面の宣伝行動

3月27日(木)	18時～	栄・三越前	*宣伝カー無し
4月25日(金)	18時～	名古屋駅前	*宣伝カー有
5月22日(木)	18時～	名古屋駅前	*宣伝カー有

■Ai四役会議 3月11日

愛労連会計の対策と対応について議論した。コラム担当割りや会議日程調整の確認を行った。

■回轉寿司ユニオンストライキ 3月11日

スシローイオンタウン弥富店に働く回轉寿司ユニオンの組合員がストライキに入り、首都圏青年ユニオンからの要請にもとづき支援に竹内事務局長と住田幹事、高田事務局員が駆けつけた。ストライキは午前中に実施され、午後2時からイオン敷地外の交差点にて横断幕や多数のノボリを掲げ6人でアピールした。

■医労連あまこだ労組労働委員会 3月11日

公益委員からは、労働組合弱体化をねらったとことの記述の整理。主張の整理が述べられた。
次回：5月13日(火)午後3時～被申立人、3時半～申立人

■労働会館AED講習① 3月11日

労働会館が会館内に設置するAEDが更新されたことから1回目の講習が行われた。

■単一協議会事務局会議 3月11日

経過報告、修繕状況について等、確認した。

■Ai新聞編集委員会 3月12日

オンラインで4人が参加。愛労連新聞4月10日号の振り返りと、5月10日号の企画打合せをおこなった。

■革新市政の会・総務代表世話人会 3月12日

7人が参加。3月18日に開催する定期総会に向けて、市長選総括、次年度方針、役員案などについて議論した。

■愛知共済会事務局会議 3月12日

愛知共済会事務所でおこなわれ、参加者は建交労、JMITU、きずな2、愛労連、共済会事務局2の計7人。活動報告として、共済の増減と給付の確認をおこなった。協議事項として①25春の拡大月間について、全体の目標や拡大月間のスタート集会の参加、各組織の計画など確認した。②事務局の具体的な動きとして、おうちの安心共済フライヤーやオレンジパンフを全ての会員に届けることなど各団体への訪問や学習会の講師派遣などおこなうことを確認した。③各団体の組織会議で組織共済や年金共済、事故見舞共済などを押し出すことも確認し、各組織の組織共済の加入状況を確認した。次回事務局会議は4月9日(水)10時から。

■JMITU通信労組宣伝ストライキ 3月13日

NTT三の丸ビル前にて15人が参加してストライキ支援集会。佐賀事務局次長、松本幹事がスピーチ。通勤する労働者にビラを配布した。印象だと3割前後の労働者が受け取った。

■医労連・全医労ストライキ 3月13日

未定稿

■医労連・南医療生協労組ストライキ **3月13日**

前日の回答書で一時金は昨年比を確保したもののベアなし回答のため、昨年に続き、かなめ病院敷地内にて1名の指名ストライキで13時～14時までストライキに決起した。当該組合からはストライキ1名、組合員6名が参加した。医労連、愛労連、生協労連、愛高教、愛教労が支援に駆けつけ、マイクで激励のエールを送った。地域の組合員さんもマイクを握って激励、患者さんも手を振って応援してくれた。「職場は人で不足。介護の現場は高齢化している。人手確保、職員が辞めないためにも、給料をあげて」「ベアは職員のモチベーション」「医療・介護を守るためにも賃上げを」など訴えた。全体で17名が参加をした。

■医労連・国共病組名城 **3月13日**

名城病院前で9人が参加してアピール鼓動を実施した。参加した各組合から連帯のスピーチを行い赤字を理由にした賃下げに抗議した。

■医労連・国共病組東海 **3月13日**

愛労連を代表して若井副議長が支援参加した。

■医労連・みなと医療生協労組ストライキ **3月13日**

愛労連を代表して谷藤副議長と小松事務局員が支援参加した。

■2025春闘全国統一名駅宣伝 **3月13日**

17時30分～18時30分まで名古屋駅桜通口交番前で実施。30人参加（自治労連5、愛高教4、医労連3、福保労3、検数労連2、建交労2、タクシー協議会1、きずな1、名北労連1、西三河労連1、JMITU1、事務局6）。チラシ（ティッシュ付き）1000部配布。シールアンケートには27人が協力し、最賃希望額には1300円=1、1500円=13、1800円=3、2000円=3人、それ以上=7。月給の賃上げ希望は、2万円=1、3万円=2人、5万円以上=3。労働組合の必要性は、必要=9、わからない=1。単産からスピーチ、きずなの城下さんは最賃署名を11筆集約。しんぶん赤旗が取材した。

■重税反対統一行動愛知県集会 **3月13日**

愛労連を代表して林副議長が参加した。

■労働会館AED講習② **3月11日**

労働会館が会館内に設置するAEDが更新されたことから2回目の講習が行われた。

■生活保護シンポジウム **3月15日**

労働会館東館ホールでおこなわれ、参加者は会場取りモート合わせて約80人。つくろい東京ファンド代表でいのちの砦裁判共同代表の稲葉剛さんの講演「広がる貧困の実態と生活保護裁判の意義」、内河恵一弁護士の主催者あいさつ、全国訴訟ネット・尾藤弁護士の報告「全国の裁判の現状と最高裁にむけた課題」、寸劇「〇〇〇でもわかる物価偽装」、全国からの報告、愛知原告などからの発言、弁護士・森弁護士からのあいさつなどおこなわれた。

■医労連名城病院裁判 **3月17日**

3月末で裁判官が変更となった。次回期日は5月21日（水）14:00～

■社保協理事会 **3月17日**

労働会館本館でおこなわれ、リモート合わせて17人参加。①団体報告で自治労連、福保労、愛

労連がそれぞれの活動など報告。②大軍拡より社会保障の拡充を求めるたたかいでは3月からの宣伝行動について確認した。③介護、健康保険証存続、国保、後期高齢者医療、生保裁判などについてとりくみ状況など確認した。④あいち社保学校について参加者や内容について報告確認した。

■第8回パート臨時労組連絡会・幹事会

3月17日

オンラインを含め6名が参加。各組織の活動報告をおこなった。春闘期にむけておこなう、非正規労働者へ年収の壁問題にからめたアンケートの進捗状況を確認した。目標数300で奮闘中。6月15日(日)午後、総会を予定。講師検討中。

次回幹事会 4月16日(水) 18:30～ @愛労連会議室

次々回幹事会 5月14日(水) 18:30～ @愛労連会議室

■第2回対話と学びあい25春闘組織拡大実践講座

3月17日

金井裕子全教組織教宣局長から「純増を実現した対話の教訓」と題して前年大会現勢を上回る純増の実現について、どのように意思統一を行ったのか。職場や県単位でどのような対話が作られたのか、その教訓を学んだ。愛高教のとりくみ、100を超える分会に賞味期限のあるアップルパイを配布。「アップルパイ来ちゃったから」キャンペーンで、アップルパイを囲んで集まることで意見の交換をできたり、組合の大切さを実感するものになった取り組みが紹介された。金井さんからは、組織拡大への情熱にあふれていた。教員不足の問題を解決する組合の姿(運動)を語り、一人ひとり対話を通し一緒に解決をしていこうとの積み重ね、共有していくことの対話のつながりで、組合員拡大に踏み出している教訓が話された。対話数が大きく飛躍したことが拡大も、組織の強化にもつながっている。

■郵政ユニオンストライキ

3月18日

郵政ユニオンは3月18日、19職場55名の組合員が、会社当局の低額回答に対して全国一斉の怒りのストライキに突入した。愛知では、名古屋港と名古屋貯金センターに勤務する組合員2名がストライキに入った。午前10時からの名古屋港郵便局前の支援集会には、愛労連(写真左/西尾議長)・愛知公務共闘・医労連・中地域センター・港地区労(写真右/幸島議長)・愛労連女性協・静岡西部地区労連・郵政ユニオンOBの仲間30人が参加。ストライキ宣言が読み上げられ、ストライキに入った澤田舞子さんは(写真中央)、「13年間、多額の自費を投入し資格を取り正社員試験を受け続けてやっと合格した。非正規としてのストは今回でラストとなるが、全国で16万人いる非正規社員のうち時間給社員のゼロ回答は、一生懸命仕事をしている職員の誇りを切り捨てるもの」と訴えた。

■革新市政の会定期総会

3月18日

労働会館東館ホールで開催され、49人(団体23、地域6、リモート10)が参加した。2024年11月の名古屋市長選挙総括や運動方針、役員体制について確認した。発言では、SNS活用の重要性と具体的な推進、地域における日常的な要求運動の必要性、青年活動の強化などについて発言された。総会の冒頭には尾形けいこさんが謝辞を述べるとともに今後の共同の発展についてもよびかけた。

■安保破棄実行委員会常任幹事会

3月19日

5名参加。ウクライナ問題、ビキニデー、実行委員会全国代表者会議の報告。国公、医労連、愛労連からの最近のとりくみ報告。国際・国内の情勢討論。大軍拡反対署名の推進、愛知の軍事化を許さない署名、三菱重工現地視察・平和活動交流企画＝4月6日(日)、平和市民連続講座。安保を学ぶ運動ブックレットの普及。日本平和大会実行委員会の状況。次回は4月23日(水)10:00～愛労連会議室。

■9の日宣伝

3月19日

定例の宣伝、金山駅北口。平和委員会、共産党、きずな、国公、年金者組合から9人が参加。「軍拡中止署名」13筆集約した。卒業式もあり若者が多く歩いていた。署名も学生が集団で協力した。

■あいち総がかり行動集会&デモ

3月19日

強い寒の戻りもあり、約100人が参加となった。長峯信彦共同代表から防衛費だけを正規化した予算議論への批判、衆議院で審議入りした川口創弁護士から能動的サイバー防御法案に危険性などについて報告された。

■平和大行進第3回実行委員会・原水協理事会

3月19日

オンラインと合わせて開催。平和行進や、世界大会に向けてのとりくみについてなどが検討された。今後も多くのとりくみを予定。非核日本キャンペーンに力をいれることが呼びかけられた。

次回理事会&平和行進実行委 4月16日(水) 18:30～ @愛知民主会館

■春の自治体キャラバン実行委員会

3月21日

2025年度の春キャラのスケジュールと事前学習会の次第(コンセプト)について確認を行った。愛労連として、この実行委員会の確認をふまえ、地域と単産に通知を発出した。

■Ai組織強化学習教育委員会

3月21日

オンライン含め7人が参加。各組織の学習教育のとりくみや組織強化拡大の報告をおこなったあと、今後の行事についての確認。2025年のわくわく講座について積極的な声掛けをし、夏の開講式には多くの受講者を呼べるようにしようと思統一をおこなった。

■被爆者行脚報告会

3月22日

オンラインと合わせて開催。毎年開催している被爆者行脚だが、ノーベル平和賞を受賞した今年は、首長対応や応接室対応など、例年と比べて対応が格段に良くなったことなどが報告された。北名古屋市が日本政府に核禁条約へ調印・批准を求める意見書提出をおこない採択されたことが、北名古屋市市会議員から報告された。事務局からはノーベル平和賞受賞が大きな力となった、今後も各自治体へ意見書提出を呼びかけていくことなどが訴えられた。

■Ai青年協幹事会

3月21日

リモートでおこない、参加者は医労連2、愛労連の計3人。①この間のとりくみとして、学習協常任理事会での報告、南医療生協労組のストライキへの激励メッセージの送付など確認した。②4月19日(土)の学習交流会について具体化した。講師の名古屋市職労・刀根さんの講演内容、新たに講師として全労連青年部村上副部長へ講師要請すること、グループ討論のテーマなど決めた。学習会後の交流会について東館5階でおこなうこととした。③「新歓☆地引き網ツアー」について、候補日を5月6日、5月25日として、調整する事とした。今回はマイクロバスで金山駅からまとまって向かうこととし、さまざま調整する事とした。④青年協ニュースについて、出されたたたき台について協議し、5月ごろの発行をめざすとした。

■社保協宣伝

3月21日

覚王山日泰寺前でおこなわれ、参加者は医労連、自治労連、民医連、保険医協会、愛労連、社保協など計15人ほど。保険証存続をもとめる署名、県あての国保引き下げ署名、大軍拡ではなく社会保障の拡充を求める署名など社会保障関係の署名にスピーチしながらとりくんだ。

■はむねっと4周年集会

3月23日

非正規公務員1万人プロジェクトでのとりくみで協力する「公務非正規女性全国ネットワーク(通

称：はむねっと)」の4周年集会在、東京の図書館協会ホールで開催された。愛労連から佐賀事務局次長が会場に代表参加し、非正規公務員の組合員を含め複数名がオンライン参加をした。プログラムでは東海労働弁護団の田巻紘子弁護士が「立法提言」及び「建交労保育パート支部」のとりくみを解説し、個人参加していた建交労保育パート支部の尾崎書記長もフロアから発言した。共同代表の瀬山紀子さんは、トークセッションで、愛労連のように女性が労働組合の主体となれば、非正規公務員問題の解決の近道になると語られました。

■最低賃金引上げへ県知事が役割を果たすことを求める県要請 3月24日

自治センター会議室。県労働福祉課から3名出席。西尾議長は「春闘で大企業が5桁の賃上げを行う中、中小企業やケア労働者には賃上げが届いていない。一時金のカットもある。最賃は労働市場のセーフティーネット、最賃の引き上げは賃上げのないケア労働者も含めすべての労働者の賃金底上げに繋がる。徳島県では知事が労働局や最低賃金審議会に要請し、目安を34円上回る84円の引き上げが行われ徳島ショックと報道された。若者の東京圏への人口転出超過が進む中、愛知県民の生活を支え、愛知のもの作りを継承してゆくために、知事が積極的な役割を果たしていただきたい」と述べた。竹内事務局長が要請項目の主旨について資料の説明をしながら説明した。若井副議長が2年前に実施した愛知県内各地の求人情報から見た時給賃金の差について(名古屋より一宮や豊橋が低いのは、最賃が愛知と比較して岐阜や静岡が低いことが背景にある)、医労連の池田書記次長と建交労の田村委員長が、ケア労働者や学童の指導員の低賃金の実態を報告した。

■最低賃金に関わる記者会見 3月24日

16時30分から17時15分。幹事社は朝日新聞で中日新聞、読売新聞が参加。県知事に要請した内容で進行。竹内事務局長から①県知事要請書の記述にもとづき、資料も合わせて説明。合わせて浅生さんから②最低生計費の説明、竹内事務局長から③25日の労働局長に要請する内容について要請文の内容を説明。朝日新聞から③について、途中辞任の理由は何か。中日新聞から最低生計費はいつから調査が始まったかの質問あり。

■はたらく女性の中央集会実行委員会 3月24日

愛知の会場と全労連会場、各実行委員をオンラインにてつないで開催。11月に開催される「はたらく女性の中央集会in愛知」について、講師や分科会などについて話し合いをおこなった。各組織からの活動報告も併せておこない、交流をした。

はたらく女性の中央集会in愛知 11月29日(土)～30日(日)

1日目分科会 労働会館、2日目全大会 ウイルあいちホール

■消費税国会議員要請行動 3月24日

消費税をなくす愛知連絡会は、消費税廃止各界連絡会が実施した「議員会館前宣伝&署名提出集会」に合わせ、地元国会議員への要請行動にとりくんだ。愛労連からは佐賀事務局長が前日の「はむねっと集会」に引き続き、議員会館での要請行動・院内集会に参加した。愛知からは愛商連のメンバーを中心に「STOP!インボイス」のメンバーも加わり、院内集会では愛知でのとりくみが紹介された。インボイス制度廃止を求める意見書採択の流れは、埼玉県議会から埼玉県内の複数の市町村に波及している。また、3月15日には佐賀県議会でも採択されるなど、自民党の地方議員からも反旗が揚がりはじめた。愛知にもこの流れをつなぎ、地方から消費税とインボイス制度の廃止を求めていかななくてはならない。

■最賃委員選任に関わる労働局要請 3月25日

西尾議長が「委員の任命にあたっては、多様性、公平性を持ってダイバーシティを担う委員を」とあいさつした。竹内事務局長が要請項目を説明した。医労連の池田書記次長は「ケア労働者の選定」を要請した。任期途中辞任問題の指摘には当局は「(途中辞任しても)審議会の運営には問題

がない」とあらためて強調しましたが、「発言しないので運営には問題がない」と言わんばかりの回答で、法で言う「2年任期」が形骸化されていることも明瞭になった。要請書の取り扱いについては、「任命時の局長決裁に添付する」と回答。また、「新規の委員には5月にレクチャーをしている」と回答した。

■Ai労働相談センター全体会 3月25日

相談員6名と谷藤さん（建交労）、煤本さん（全国一般）、矢野さん（医労連）が参加し、それぞれの単産の労働相談の対応・組合費などを報告した。近頃、「労働組合に加入したい」という相談が愛労連に一定数あることから、お互いの相談～加入～要求解決までを共有した。1月と2月の労働相談の共有。次回は5月29日（木）1500～愛労連会議室。

■全労連女性の春闘懇談会 3月25日

会場とオンラインあわせて65人が参加。「カスタマーハラスメントの対応と労働安全衛生委員会の活用～労働組合の役割」と題し岡村やよいさん（いのちと健康を守る全国センター理事）から様々なハラスメントやそれに対する方法などを聞いた。

リレートークは①ハラスメントアンケートの取組について：群馬県医労連②当事者が声をあげることの重要性：CUみなと厚生会分会③定時アクションの取り組み：岡山県高等学校教職員組合④仲間増やしの重要性について：たかまつ学童保育ユニオン⑤情報共有で25春闘前進を運動の見える化とオープンチャットの活用について、があった。その後運動交流をおこなった。

■全労連単産・地方代表者会議 3月26-27日

128人（単産30、地方68、事務局30）が参加し、女性比率は19.5%だった。春闘後半に向けた提起で全体平均の回答水準は昨年編みであるが、医療分野がベアゼロだけでなく一時金削減など年収がマイナスとなる回答も出ており、深刻な事態となっており、これを克服するために全労連全体であたることにした。

レバカレについて集中討議の時間が持たれ、説明後に討議がされた。今回の提起では、「イメージがわからない」「初めてのとりくみなのに600人という規模は多すぎるのではないかな」などの意見が寄せられていたが、50近い分科会案が出されたり、参加規模も全労連大会規模であるという説明がされた。ブロック単位などで説明と討議の場も行われており、議論を始めたところでは前向きな受け止めがされてきている。

■機関紙宣伝学校実行委員会 3月26日

リモートでおこない、4人が参加。2月1日におこなわれた第29回機関紙宣伝学校の総括をおこなった。オルグの成果で参加組織数が増え活動に広がりが出た、担当者が集まる場がないので交流や意見が聞けて良かった、などの感想が寄せられた。しかし、参加者数の減少や機関紙発行の各組織の状況などから、今後の学校の開催の意義や位置づけ、必要性などを具体的に示してほしいという希望が出た。今後の方向性なども含めて再度幹事会などへ意見を求めることとした。

■Ai組織拡大推進委員会 3月26日

春の拡大月間が4月・5月・6月。春の月間に入るにあたり、新人加入100%について意思統一を行った。社会人になれば加入するのがあたりまえという雰囲気をかもしだし、組合加入書を書いてもらう、「よく考えてからでも」「ぜひ」など、NGワードに気を付けようと意思統一した。非正規職員の加入をふくめ、未加入者に総当たりし、春闘の要求課題など1対1での対話で組合加入をすすめる。春の行動日程について意思統一を行った。医労連では全医労がストライキに立ち上がりその姿を見て加入があった。愛教労一宮では保護者からのハラスメントへの対応などで仲間が増えていることが報告された。参加は全国一般、医労連、JMITU、東海法労、愛教労、事務局2名が参加した。次回会議は、5月14日（水）。

■消費者大会第11回実行委員会

3月26日

6名参加。会の最初に学習として、愛知農民連所属で獣医師の中嶋久興さんから「コメ問題」について、話を聞いた。今のままでは今年の秋もコメが不足する、政策の転換が必要なことなどが話された。その後活動の総括、今後の講座の開催方法、内容、講師などを話し合った。今後は、大学生向け契約トラブルなどの講座を予定。

5月11日（日）15：30～ @大学生協会館会議室

「ブラックバイトと契約トラブル、ネット、カード利用などの消費者被害防止で」

講師：全相協相談員

次回実行委員会 4月21日（月）13：30～ @イーブルなごや

■全労連事務局長交流会打ち合わせ

3月27日

5月9日（金）に開催を予定している事務局長交流会の内容について、全労連の担当役員と地方選出の幹事で議論した。地方労連の大きな悩みに地域労連問題があり、この議論を行うこととした。また、「地方・地域組織の役割と強化に向けて（案）」について議論を進め地方・地域運動の再定義と方針化をすすめていくこととした。

■メーデー第2回実行委員会

3月27日

愛労連会議室とリモートでおこない、参加者は建交労、自治労連、国公、うたごえ、東海共同印刷、愛労連の計8人。第96回愛知県中央メーデーについてメインスローガン、集会次第、要員についてなど協議した。次回第3回実行委員会は4月22日におこない、要員の仕事内容について実行委員会の各要員責任者が意思統一するための要員責任者会議をおこなう。また、来年度以降のメーデー会費について協議を始めることとした。

■第2回非正規センターオンライン学習会

3月27日

オンラインで開催。36カ所から参加があった。「『103万の壁』政府案の問題点と私たちの運動の課題」と題して、非正規センター事務局長の仲野智さんから話を聞いた。所得税控除額は引き上がったが社会保険の不要の範囲は変わっていない。今回の見直しも「世帯単位」で考えられていることは、女性の人権問題としてスタートしていない。一人一人の人権が守られる税と社会保障の制度にむけて、世帯単位から個人単位への変更を求めていこうと訴えられた。

■春闘共闘第3回役員会

3月28日

春闘前半のとりくみについて振り返りを行った。様々な行動を組み頑張っているが、報道は限定的であり、メディアへの接近をさらに研究していく必要がある。各組合の回答状況やとりくみについて出し合い、後半のたたかいについて意思統一した。とりわけ、医療の回答が深刻であり、医労連とも相談しながら支援の強化を図っていくこととした。

■クール・クライメイト事務局会議

3月28日

6人が参加した。5月22日に行われる第3回期日当日の対応、傍聴をよびかけるチラシ、今後の運動経費、学校断熱などのとりくみについて議論した。今年度から「健康と環境を守れ！愛知の住民いっせい行動」にエントリーすることとなり、県知事及び名古屋市長に直接要望できることから、学校断熱について要望することとした。

■憲法と平和を守る会宣伝

3月29日

名古屋市中区栄・スカイル前で実施。参加者は年金者組合、愛教労、名中センター、千種名東労連など10人ほど。

■日本原水協東海ブロック原水協学校

3月29～30日

民主会館とリモートを併用して開催し2日間でのべ80人が参加。1日目の記念講演は「核廃絶をめぐる国際情勢と、戦後・被爆80年の運動」を、日本原水協事務局次長・土田弥生さんから聞いた。平和のルールを踏みにじるアメリカの横暴や危機に立ち向かう世界の動き、禁止条約促進への今後の課題などが話され、被爆体験は核保有国を追い詰める、今後もノーベル平和賞受賞を力に世論を変えていこうと訴えられた。2日目は「これからの被爆者運動と支援の在り方」と題して愛知県原水協代表理事・日本被団協2世委員会副会長の大村義則さんから話を聞いた。今後の運動は被爆被害者である被爆2世とともにおこなっていくことが大切などと訴えられた。他県の仲間の活動報告や交流など、久しぶりの開催だったが充実した学校となった。

■中京非正規ユニオン「宴ハゲ天」スト

3月30日

名古屋駅ミッドランド前で宣伝行動を実施。参加者は非正規ユニオン3、名中センター、西三河労連、国公など8人。「宴ハゲ天」で働く組合員が12:00～15:00までストライキに入り、その支援行動としてミッドランド前で宣伝行動を実施し、本人や支援者が交替で訴えた。一部適切でないと思われる場面も見られたため、宣伝物の配置やスピーチの内容など事前の確認が必要。

■消費税ロングラン宣伝

3月31日

2025年4月1日に1989年に「消費税」が導入されて36年目を迎えるにあたり、消費税をなくす愛知連絡会が恒例の「3・31「今すぐインボイス廃止！消費税引き下げを！ロングラン宣伝を栄（メルサ前）」で行った。愛労連幹事会の呼びかけに応え、単産・地域から昨年以上の参加があり、準備したチラシやティッシュがなくなる事態となった。全商連の太田会長は「業者をいじめるようなインボイス制度はやめてちょー」と名古屋弁で訴えました。宣伝では、愛労連の提案で、ミャンマー発生した大地震への支援募金もとりくんだ。

■あいち総がかり行動運営委員会

3月31日

4月19日の集会の具体化と分担について確認した。愛知の軍事産業問題について5月14日にイーブルなごやで平和委員会の城下さんを講師に学習会を開催することとした。

次回 4月28日(月)18:00～イーブルなごや

■フレッシューズ（新社会人）宣伝行動

4月1日

16人が参加し、伏見交差点で900部の権利手帳を配布した。取りに戻ってきたり列ができる場面もあった。赤旗が全国面で報道した。

■全労連会計年度任用職員組織化プロジェクト会議

4月2日

6月に広島で開催される「全労連非正規集会」を前に、第18回となるプロジェクト会議がオンラインで開催された。愛労連からはプロジェクトメンバーの佐賀事務局次長、建交労から田村委員長が出席した。全国の動きとして、事務局から新潟公務公共一般の勢いある組織化の報告がなされたのち、愛知からも建交労から名古屋市が強行した「5年目公募」の結果、愛労連からも「あいち非正規公務員1万人プロジェクト」の今後のとりくみなどを報告した。後日、仙台の河北新報の特集にも取り上げられた「全国一斉非正規公務員ホットライン」の次回開催に向けた提案もなされた。

■サマセミブロック実行委員会

4月4日

リモートでおこない、参加者は静岡2、愛知2、岐阜、石川2の計7人。第31回サマセミについて目的・目標・スローガンなどの概要を協議した。全体で80人以上の参加を目標として、静岡40人、愛知20人、その他各県5人ずつを目標定めた。①内容の大枠（3日間の構成）としては昨年と同様の1日目全体会、2日目分科会、3日目全体会とした。②各県の担当を協議した。初日全体会は愛知、2日目分科会は静岡、3日目全体会は三重となった。次回実行委員会に大まかな案を持ち寄

る。③6月初旬にはチラシを完成させ、参加を呼びかけるため、次回各県からチラシ案を持ち寄ることとした。④次回実行委員会は5月中旬で調整する。

■全国一般アクリル支援共闘 4月5日

14人が参加した。NCPの斡旋については会社側が断ってきたことから打ち切りとなる見通し。都労委は7月18日に結審を迎えるも、回答の撤回、団交打ち切り・拒否などについては勝てる可能性があることから、新たに上申書を出してたたかいぬく確認をした。

次回 5月31日(土) 14:00から労働会館&オンライン

■名張毒ぶどう酒事件再審開始決定20周年行動 4月5日

再審決定から20年を迎え、名張毒ぶどう酒事件・全国の会 日本国民救援会愛知県本部が主催する「再審勝ち取る宣伝行動&全国決起集会」が金山総合駅エリアと労働会館で行われた。愛労連は主催団体からの呼びかけに応え、林副議長と佐賀事務局次長が愛労連宣伝カーとともに参加した。決起集会では再審申し立ての状況について、弁護団から詳細な報告がおこなわれ、全国からの支援者が、無実の人は無罪！一刻の早い最新化し・無罪により奥西勝さんの無念を晴らし、名誉回復を求めた。

■全労連「能登半島地震」支援対策本部拡大会議 4月7日

全労連・災対連は、「能登半島地震支援対策本部」第6回拡大会議をオンラインで開催した。主な内容は2025年5月・6月に実施する「能登半島地震」支援ボランティアの実施に絞ったもの。事務局からは、昨年からの変更点である①ダイヤ変更に伴う参集時間の変更、②ボランティア保険の見直しなどについて報告された。石川県労連からはこれまでの支援に対する感謝とこれからの支援への期待が語られた。愛労連としても6月期のボランティアへの組織的な対応の検討が急がれる。

■戦後・被爆80年あいち平和のつどい実行委員会 4月7日

被爆80年(2025年)に向けて、愛知独自のとりくみとしての「つどい」開催をめざす実行委員会を開催、賛同金やチラシ、当日の演目などを話し合った。

戦後・被爆80年 あいち平和のつどい 2025年9月27日(土) @名古屋市公会堂

次回実行委員会 5月22日(木) 10時～ @労働会館本館会議室

■春闘第2次統一行動宣伝 4月9日

第二次全国統一行動・最賃デー、8時から9時まで名古屋駅前で開催、18人参加。新春宣伝とトヨタ総行動で、この場所この時間の宣伝はあるが、それ以外はなく、ピラの受け取りに不安はあったが、1000枚を配布した。参加者からは、夕方よりも受け取りがよいと感想あり。8人が職場・組合員の現状もふまえてスピーチした。しんぶん赤旗が取材した。

■Ai単産・地域代表者会議 4月9日

春闘前半の到達点を確認するとともに後半のたたかいを意思統一する場として開催し、32人(12単産・11地域)が参加した。賃上げ運動の成果と課題を共有し、今後の運動方針について討議を行った。物価上昇が続く中、実感できる生活改善の実現、特に非正規・ケア労働者の賃金底上げが喫緊の課題であることが全体の共通認識として確認された。

今後の方針として、ストライキや宣伝行動のさらなる強化、中小企業への価格転嫁と賃上げ支援の運動を広げていく。4月11日の第2次ネット特番、メーデー、夏の闘争などと連携し、全体運動の波を広げていくことを確認した。

■共済会事務局会議 4月9日

愛知共済会事務所でおこなわれ、JMITU、きずな、愛労連、事務局2の計5人。①この間の共

済の増減、給付実績を確認した。②春の月間について、各組織の計画など確認した。③今後のとりくみについて確認した。

■9の日宣伝

4月9日

金山駅北口で9の日宣伝を行った。きずな1、愛労連事務局2、共産党2、革新あいち1、平和委員会1の計7人で18筆の署名集約、チラシ50枚を配布した。明日なるで12時30分からコンサートが行われるため急ぎょ30分だけの行動だったが、多くの署名が集まった。アメリカが関税を大きく引き上げる横暴ぶり、大軍拡予算もアメリカ言いなりを指摘。ケア労働者には賃上げどころか年収削減になっている、社会保障予算の引き上げの必要性を訴えた。

■第7回最低賃金・公契約問題対策委員会

4月10日

8人参加。ミニ学習会は、浅生さんから「中小企業における最低賃金の影響に関する調査」（日本商工会議所・東京商工会議所）について説明あり。支払い能力、地方と都市との格差、地方で暮らしたいという若者などとの関係も議論した。5月9日から始まる春の自治体キャラバンでの「最賃」かかる議会からの意見書（3項目）について、キャラバン参加の場合発言を。3月のとりくみを総括（委員の推薦書提出、記者会見、愛知労働局への要請）。協議事項：①最賃署名、なんとしても1万筆を、②オンライン署名、③宣伝（名駅・大学）、④公益委員に手紙と懇談（最低生計費試算調査の件）、④労働局への要請書と署名提出の日程、（当局に日程案を伝え調整中）、⑤6. 24東海北陸ブロックキャラバンへの参加、⑥次回は5月28日（水）1000～愛労連会議室

■Ai女性協幹事会

4月10日

各組織の活動報告後、とりくみの総括、今後のとりくみに話し合った。総会の開催方法や、議案の担当割りなどをおこなった。女性協総会は、7月5日（土）13：30～労働会館本館会議室で開催予定。東海北陸ブロック女性交流集会への交通費補助をおこなうこととした。

次回幹事会は、5月16日（金）19：00～ @愛労連応接室

■憲法と平和を守る愛知の会

4月10日

5人参加。3月の土曜日宣伝の報告。各団体からのとりくみ報告。愛労連からはNEWSにもとづき春闘などを報告した。4月12日、19日、26日、5月3日、5月12日の土曜日定例宣伝の担当団体を確認。年会費納入のお知らせ。

■憲法と平和を守る街宣A

4月12日

憲法と平和を守る愛知の会宣伝行動には、愛労連からは福保労16人、愛知国公4人、年金者組合2人、愛教労1人、きずな1人、中センター1人、事務局2人の27人が参加、子どもたちもたくさん参加し、社民党、新社会党など含め30人以上の参加でにぎやかな宣伝となった。チラシ190枚署名10筆が集まった。「福保労は最終16人、子どもたちを入れたら23人でした！毎回地域支部で担当を決めており、中村区の3つの分会がきちんと分会で呼びかけてたくさん来てくれたようです（福保労簿書記長より）。」と嬉しい報告が届いた。福保労からはふたつばし保育園柳原さん、国公炭竈さん、愛教労住田さん、年金者組合関さん・高木さんがマイクを握り話した。

■きずな45周年をめざすプレ企画

4月13日

愛知地域労働組合きずなは、労働組合が企業内主義、右傾化していくもとで、たたかう労働組合として1万5千人の組合をめざし1981年1月に96人で結成された。全国で4番目の地域労組。時代は今年44年を迎え、45年周年を組織最高の峰で迎えるために、1年前にプレ企画のつどいをもった。初代委員長河合孝徳さんがゲスト参加し、「スライドで振り返るきずな44年間の活動」と題して城下英一委員長との対談が行われた。河合さんはきずな結成にあたり、「きずな結成は、太平洋に繰り出す気持ち。統一労組懇ができていくもとで統一労組懇にも入り、のちに愛労連

結成に参加した。非正規の労働者の組織化をしていこう。トヨタの下請けで働いている会社で組合を作ったり、どういう組合を作っていくのか不安もあった。1万5千人組織へ未組織労働者の組織化をめざしロマンにあふれていた。25歳の若い人たちがみんな自分たちで考えて、協同して取り組んできた。労働者の思いにしっかり向き合い、要求をどう受け止めて出発していくのか。仲間の要求ひとつひとつを大事にしてきた。たった一人であっても要求して自分たちの頭と行動で打開してきた。臨教部会をつくった、何ができるのか？仲間の思いを考えて仲間の要求を一つひとつ大事にしてきて取り組んできた。最賃生活実験や1万5千筆の署名にとりくみ、最賃署名をもって労働基準局と交渉し最賃のことならさきずなどと言われた。1984年には組合員数が500人を突破。6つの地域組織ができた。トマホークくるな！依佐美行動にきずなから100名参加し平和のとりにくみも行った。きずな共済をつくり、健康を守ろうと健康診断もはじめた。」と、対談で話された。困難に寄り添い、非正規労働者の組織化をはじめ一人ひとりの個性・人権が大切にされている組合の取り組みは大変感動的であった。きずなクイズ、共済の寸劇など、会を盛り上げ、45周年に向け団結と連帯をさらにパワーアップする企画となった。

■春の自治体キャラバン実行委員会

4月14日

キャラバンのスタートを直前に控え、自治体との懇談に向けた具体的なマニュアルの作成や調整をすすめる「春の自治体キャラバン実行委員会」が愛労連会議室で開催された。23日の予定される「事前学習会」の段取りや、自治体に送付する資料との最終チェックを実施した。

■レバカレ&フリーランス労災特別加入説明会

4月14日

東海北陸ブロックとして説明会を開催し14人（愛知からは6人）が参加した。レバカレについては全労連の竹下事務局次長、フリーランスの労災特別加入については九後副議長が説明し、質疑応答と討議を行った。全体としては、全労連の意図が理解でき運動推進に向けた意思統一がされた。

■社保協四役会議

4月14日

愛労連会議室でおこなわれ、参加者は保険医協会、民医連、医療研、自治労連、医労連、年金者組合、愛労連、社保協から計10人。4月理事会に向けてこの間のとりくみの確認、今後について協議した。

■Ai四役会議

4月15日

春闘・組織拡大の取り組みの状況について各組織から報告を行った。財政問題について議論した。

■全労連幹事会

4月16-17日

47人中46人が参加した。3月26日に開催した単産・地方代表者会議の振り返りを行い、この時期に会議を設定し、春闘後半の意思統一を行うことは意義があることを確認した。来年度運動方針（骨子）をもとに議論した。重点はボトムアップ型の運動を職場からどうやって構築するかで、組合員の自覚的・主体的な参加による強い組織の構築を具体化することにあることを柱に据えていくこととした。

■Aiパ臨連幹事会

4月16日

オンライン含め5名が参加。各組織の活動報告の後、非正規労働者へ年収の壁問題にからめたアンケートの進捗状況を確認した。目標数300に対し500以上が集まる予定となっており奮闘している。6月15日（日）午後、総会を予定。

次回幹事会 5月14日（水）18：30～ @愛労連会議室

次々回幹事会 6月9日（月）18：30～ @愛労連会議室

■平和行進実行委員会&原水協理事会

4月16日

オンラインと合わせて開催。平和行進や、世界大会に向けてのとりくみについてなどが検討された。今後も多くのとりくみを予定。

平和行進引継ぎ静岡 5月31日(土)～6月11日(水) 岐阜へ引継ぎ
次回理事会&平和行進実行委 5月23日(水) 18:30～ @愛知民主会館

■医労連サニーライフ打合せ **4月16日**

4月26日に行われる和解報告集会の内容、資料について議論した。

■革新市政の会政策委員会 **4月16日**

名古屋市への要請内容などをまとめるための政策委員会が労働会館で行われた。愛労連からは佐賀事務局次長が参加した。

■栄総行動昼休み集会 **4月16日**

中区栄オアシス21でおこなわれ、参加者は約50人。各争議からの訴えなどがおこなわれた。集会最後に中京非正規ユニオンが不当解雇撤回にむけてたたかうことを表明後、決議文を読み上げ、参加者全員で採択された。

■非正規公務員1万人組織化プロジェクト **4月17日**

あいち非正規公務員1万人プロジェクト会議を愛労連会議室にて開催した。3月におこなった「記者会見」のマスコミ報道や反響を共有し、今後のプロジェクトのとりくみの内容について議論を行った。①地方議会への要請、②学校にはたらく「非正規公務員」記者会見の実施、③サマーミーティングの開催に向けてなど、具体的なとりくみの実行に向けた準備をすすめることを確認した。

■Ai新聞編集委員会 **4月17日**

オンラインで4人が参加。愛労連新聞5月10日号の振り返りと、6月10日号の企画打合せをおこなった。

次回委員会 5月15日(木) 19:00～ @オンライン

■チェンジ全国一律最低賃金キャンペーン交流集会 **4月18日**

全国から180人が参加した。最低賃金をめぐる到達点と情勢について黒澤事務局長が報告し、静岡県立大学短期大学部の中澤秀一准教授が「ナショナルミニマムとしての最低賃金」について講演した。その後、①地方議会での意見書採択の取り組み(秋田県労連)、②最低生計費試算調査を生かした取り組み(大阪労連)、③全国一律署名紹介議員・「法改正の4つのポイント」賛同議員を増やす取り組み(神奈川労連)、④非正規労働者が広げる全国一律署名の取り組み(生協労連大阪いずみ市民生協労働組合)について、報告が行われた。

■社保協宣伝 **4月18日**

東別院交差点でおこなわれ、参加者は22人。保険証存続、愛知県国保など社保協のとりくむ各種署名を呼びかけ、計80筆集まった。

■Ai青年協幹事会 **4月19日**

愛労連会議室でおこなわれ、医労連2、自治労連、全労連青年部、愛労連の計5人が参加。①春の学習交流会について内容・準備など最終確認した。②5月6日の「新歓☆地引き網ツアー」について当日の運営、準備、天候不良時など協議した。③サマセミについて、ブロック実行委員会の決定を受け、愛知の担当パートについてやあいち実行委員会の開催について協議した。

■Ai青年協春の学習交流会 **4月19日**

労働会館本館で開催。参加者は医労連、自治労連2、福保労、愛高教、青年協2、全労連青年部、愛労連の計9人。自治労連・名古屋市職労の刀根さんを講師にした最賃についての学習、全労連青年部の村上副部長を講師にした埼労連の最低生計費試算調査からの学習、講演をうけての討論などおこなった。

■あいち総がかり行動4.19集会

4月19日

午後1時半から久屋大通公園光の広場で開催され、200人超が参加した。集会では、共同代表の中谷雄二弁護士が「能動的サイバー防御法案は市民監視を合法化し、戦争に加担する危険な法案」と批判。プライバシー侵害、民主主義の破壊を指摘し、国民の反対の声で阻止を訴えました。不戦へのネットワークの八木巖さんは、戦争体験を語り、当時の悲惨さと軍国教育の影響を証言。加害と被害の両面から戦争を見つめ、再び戦争を繰り返さないために若い世代への継承が必要と訴えました。民族教育の未来をともにつくるネットワーク愛知の会の原信広さんは、自衛官募集や軍事教化が教育現場に及んでいる現状に危機感を表明。教師が自衛官募集の協力者にされる問題を指摘し、子どもたちの未来を守るため声を上げる必要を強調しました。種子法廃止・違憲訴訟の会代表の池住義憲さんは、平和のための対話と連帯の力を説き、市民が政治に無関心でなくなることの重要性を指摘。憲法9条を守り、希望ある社会を次世代へつなぐ責任を共有しようと呼びかけた。

■名古屋ふれあいユニオン定期大会

4月20日

愛労連からメッセージを送付した。

■私鉄連帯する会第35回全国総会

4月21日

労働会館本館で開催されたことから、竹内事務局長が全労連幹事として連帯のあいさつを行った。

■愛知県弁護士会新役員就任披露パーティー

4月21日

令和7年度愛知県弁護士会役員就任披露宴会が東急ホテルで行われ、川合伸子新会長はじめ、小川洋子副会長含む5人の副会長の就任の披露が行われた。愛知県知事、名古屋市長、選挙区衆参議院、県連・県市議団、司法関係、自治体関係、各省関係、報道関係、大学関係、諸団体関係が来賓にきていた。

川合会長あいさつ紹介。キャッチフレーズは「変化を捉え、人を支え、人権を守る」。時代の流れを直接にとらえる、例えばタレント事務所のハラスメント問題を通して、人権擁護という言葉を目にすることが多くなった、過去にこれほどまでに人権擁護という言葉が使われることはなかった戦後、日本国憲法が施行され、国民はすべて基本的人権の享有を妨げられない、すべての人が法の下に平等であると高らかに謳われた。しかし実際には性の平等一つをとってみても慣習の名の下にさまざまな差別が残っている。また障害のある人に対する処遇についてもさまざまな差別が残っている。しかしそういう社会の不合理に対して、これは間違っている、正さなければいけないと勇気を出して声をあげる方々がいて少しずつ世の中は変わってきた。このように今なお残る社会の不合理に対して声を上げて人権擁護を叫ばなければならない、そういう流れが日本にもようやくできてきた。社会の流れを的確にとらえ、基本的人権の擁護と社会正義の実現を使命とする弁護士としてその役割をはたしていきたい。もう一つ忘れてはいけない理念は、弁護士自治の堅持、私たち弁護士・弁護士会には監督官長がない、弁護士が時に国会権力にも対峙しないといけないため、どの官長の監督もうけることができないため。それ故、私たちは自らを律していかななければならない。不祥事を未然に防ぐべき研修や相談制度を整え、また発生してしまった不祥事に対しては迅速に対応し厳正に対処していく。基本的人権の擁護、弁護士自治の堅持、その二つの理念を胸に。今年度取り組みたい施策、第一に市民のみならずが日常生活を送る上で疑問に感じたこと困ったなあと感じていること、早くに弁護士に相談して人権を守っていただくよう、弁護士の職務と役割を広く社会にPRする。また数々の法情報を的確に社会に発信していく。第2に社会の隅々にまで法の支配を行き渡らせるべく取り組んでいく。その一つにビジネス分野における人権の問題がある。企業は社会

に応じて労働法を守らなければいけない、取引については独禁法などの法律を守らなければならない、それは当然のことだがいまはEUなどを中心にその企業のみならず、サプライチェーン全体において人権を守る、法を守っていかなければその会社で作った製品を買っていただけない、そんな流れがある。日本もその例外ではなくなっている。私たちはそのような社会の流れを的確に捉え企業に対して的確に助言をしたり、あるいは人権を守っているか調査する、人権デューデリジェンスに対応できるよう励んでまいりたい。このことは経済団体や労働組合とも意見交換をしていきたい。第3に裁判のIT化について、(略)。第四は志と意欲のある方に法曹をめざしていくよう法曹の魅力を発信していく。また弁護士の世界にも弁護士登録東京一極集中の傾向が顕著にみられている。私たちはこの愛知県で弁護士として活動していくことの魅力を発信し続けていく。第5に改めて多様性の確保を主張していきたい。先ほど知事の話にもあったがようやく日本では多様性の尊重という理念が広がってきたが海の向こうのアメリカにおいては、新しい政権が多様性の確保を否定する大統領令に署名した。これにいくつかの州政府やいくつかの企業がその方針に同調するという報道も。言うまでもなく多様性を尊重することは人権擁護の第一歩。私たちはそんな時代だからこそ日本の中心である愛知において多様性の確保を叫び続けていきたいと思っている。その他にも選択的夫婦別姓制度の実現、再審法改正の実現、弁護士に対する妨害行為への対応、法テラスなどの報酬の適正化などのさまざまな課題の解決に努めていく。執行部一同、愛知県弁護士会の運営に誠心誠意尽くす所存。ご指導を。

■社保協理事会

4月21日

愛知県保険医協会伏見会議室とリモート併用でおこなわれ、参加者は15人ほど。この間のとりくみについての報告確認、今後のとりくみについての協議をおこなった。①大軍拡より社会保障の拡充をもとめるたたかいでは、宣伝行動の報告、今後の宣伝行動の予定について確認した。②保険証存続を求めるたたかいでは新たに始まった署名について、とりくみ期間など確認した。③生活保護裁判について5月27日の行動を確認し、署名の提出日を確認し、とりくみの強化が呼びかけられた。④6月21日の社保協総会について、記念講演を佐久大学の唐鎌教授に依頼することなど次第を確認した。

■消費者大会実行委

4月21日

6名参加。第56回大会のもちかた、今後のとりくみの概要を検討した。学習会や見学会、愛知サーセミナーや名古屋消費生活フェアへの参加などを予定し、学習会のテーマや方法、準備などについて話し合った。

5月11日(日) 15:30～ @大学生協会館会議室

「気を付けなければならない! 契約のルールやトラブルを知ろう!

～当たり前だと思っていたけど、、、実は法律違反かもしれません～

講師: 藤原典子さん(消費生活相談員)

樽井直樹さん(弁護士・ブラックバイト対応弁護団・名古屋法律事務所)

会場: 大学生協東海会館 地下一階会議室

次回実行委員会 5月19日(月) 13:30～ @イーブルなごや

■メーデー実行委員会

4月22日

愛労連会議室とリモートでおこない、参加者は、自治労連、国公2、建交労、新婦人、東海共同印刷、愛労連4の計10人。第96回愛知県中央メーデーについて各要員の任務内容の確認、メーデー宣言案などの協議をおこなった。また、メーデーの振り返りや来年度の予算などについて協議するためメーデー終了後に実行委員会をおこなうこととなった。次回実行委員会は6月18日(水)18:30から愛労連会議室でおこなう。

■春の自治体キャラバン事前学習会

4月23日

全体で37人（会場19人、Zoom18人）、自治労連愛知からは12人が参加。冒頭、実行委員長あいさつで、西尾美沙子・愛労連議長は「愛知の中で生活していくこと、働いていくことをどう考えていくかが問われる。自治体労働者の処遇を改善していくことが、住民生活の向上、地域経済の発展に直結する」と述べ、「今年は被爆80年、男女雇用機会均等法40年、女性差別撤廃条約批准から40年、温暖化対策の新しい枠組「パリ協定」から10年の節目の年、いずれも人権問題が根底にあり、この年に行われるキャラバンの意義は大きい。憲法と地方自治の本旨に基づいた行政運営を一步二歩と進めるため、より充実したキャラバンにしましょう」と呼びかけた。

学習会ではまず、昨年の特徴と今年の背景について自治労連愛知県本部の高木書記長が報告。その後、実施要項をもとに、実行委員会の事務局団体が【1】憲法遵守（自治労連）、【2】Ⅰ. 自治体職員の賃金・労働条件（自治労連）、Ⅱ. 1. 2. 3. 5. 公契約の適正化と奨学金返還制度（愛労連）、Ⅱ. 4. 地域経済振興（全国一般）、Ⅲ. 1～3. 保育・障害・介護（福保労）、Ⅲ. 4. 学童保育（建交労）、Ⅲ. 5. 学校教育（愛教労）、Ⅳ. 国や県への意見・要望（自治労連）についてそれぞれポイントを説明した。最後に注意事項の説明（自治労連）があり、懇談当日へ向けて学び合い、決意を固め合う場となった。

■安保破棄実行委員会常任幹事会

4月23日

5名参加（平和委員会、愛労連、医労連、国公、共産党）。3月22日の殺傷武器輸出反対署名集会には80人（オンライン含め）が参加。石川康宏氏は「経済と武器輸出の関係」をわかりやすく話し「愛知を軍需に依存し、他国で誰かが殺されて喜ぶ地域にしてはならない」と強調した。4月6日の三菱重工の工場（次期戦闘機共同開発やミサイル生産）を見るフィールドワークには80人参加。各団体からの報告（愛労連は平和行進、世界大会、土曜宣伝、9の日）。情勢議論。平和大会の成功をめざすパンフ「今、ここにある危機 世界の戦場につながる愛知県」（50円）の普及、次期戦闘機の共同開発と輸出を止めてください」の署名の推進（4月28日に労働会館会の団体に要請）。今後の委員会、5月21日、6月18日、7月30日、いずれも水曜日で10時から愛労連会議室。

■レバカレ2025 プレ企画②

4月24日

第2回 ストライキを復活させると題し、ストライキに立ち上がった仲間の経験を聞いた。ファシリテーターに大久保なつみ全労連事務局員がつとめ、パネリストを全医労いわき支部、生協労組おかやまから発言が行われた。

■愛知共済会理事会

4月24日

愛労連会議室でおこなわれ、参加者はJMITU、全国一般、建交労、タクシー協議会、きずななどから計11人。①この間の共済の増減、給付実績など確認した。②この間のとりくみについて報告され、今後の春の月間について各組合のとりくみを確認した。③今後のとりくみについて協議し、6月28日(土)に予定していた共済会総会を7月6日(日)に変更し、第6回理事会を6月26日(木)13:30からおこなう事とした。④共済会ニュースの発行について協議した。

■クール・クライメートあいち事務局会議

4月25日

7人が参加した。次回、第3回期日に向けて、メーデーや憲法集会での宣伝、当日の準備等について具体化した。いっせい行動（健康と環境を守れ！愛知の住民いっせい行動）について、準備状況や当日の流れについて説明された。教室断熱ワークショップについては、進捗が遅れており、あらためて具体化に向けた働きかけを確認した。

■JAL争議支援宣伝行動

4月25日

名古屋駅桜通口で実施し、8人が参加した。

■全国港湾第4波スト連帯宣伝行動

4月26日

地下鉄「名古屋港」駅で、愛労連・愛知国民春闘共闘委員会・港地区労が共同し、総勢20人で宣伝行動を行った。当該の検数労連から尾崎委員長、大塚書記長ら4人が参加。尾崎委員長は「すべての労働者への適正価格の転嫁、利益の還元は港湾を利用する企業の社会的責任。大幅賃上げ、労働時間の短縮で魅力ある港湾労働の確立をめざそう」と訴えた。愛労連から西尾議長、谷藤副議長、竹内事務局長、港地区労の幸島議長らが連帯のあいさつを行った。

■医労連・サニーライフ裁判報告会

4月26日

サニーライフ豊橋労働組合の額額委員長の再雇用拒否が、組合の弱体化を狙った不当労働行為だと訴えた裁判は地裁豊橋支部で敗訴となった。名古屋高裁では、会社は組合との適切な労使関係構築を構築するよう努める」という一文が和解分に入ったことが大きな成果となる勝利的和解を勝ち取った。3年に渡り裁判を行った額額委員長と弁護団へのねぎらい、支援する会の裁判報告会を4月26日豊橋で行った。報告集会は31人の参加で、勝利和解を喜び合い、労働組合の意義を改めて感じる会となった。また介護の改善に向けて引き続きがんばっていくことの大切さを実感できる報告集会成为となった。弁護団の田巻弁護士・林弁護士から、「物言う労働者を排除し、組合弱体化をねらった会社の態度は明らかであったが、再雇用となるため、使用者の裁量があり難しさもあったが突破できたのは額額さんのがんばり、支援者のがんばり、そして元々労働組合が団体交渉で追求してきた活動があり、裁判の証人に上部団体が採用されたことは珍しく力になった。委員長が職場を追い出された後も、職場に労働組合が残っていたことが大きい」と話しました。額額委員長は、「弁護士から全力で守るとしてもらえがんばってこれた。愛知県医労連内では3つも裁判があり、パワハラを受けている看護師も。争議のない職場にしていきたい」と述べた。

■名労連（仮称）第11回準備会

4月27日

32人（9地域13人、9単産15人、事務局4人）が参加した。各組合での議論状況や苦勞している点などを報告し合い、結成に向けた今後の運営や結成事務局の設置について確認した。討議資料については5月8日まで意見を募り、必要部数を集約して印刷することとした。次回は6月29日（日）13：30からとした。

■はたらく女性の中央集会在愛知実委

4月28日

愛知の会場と全労連会場、各実行委員をオンラインにてつないで開催。11月に開催される「はたらく女性の中央集会在愛知」について、スローガン、講師や分科会などについて、スケジュールなどについて話し合いをおこなった。

はたらく女性の中央集会在愛知 11月29日（土）～30日（日）

1日目分科会 労働会館、2日目全大会 ウイルあいちホール

■愛教労定期大会

4月29日

西尾議長が参加し、愛労連を代表して連帯のあいさつを行った。

■メーデー前夜祭

4月29日

竹内事務局長が参加し、愛知県中央メーデー実行委員会を代表して連帯のあいさつを行った。

■全国一般ナトコ労組執行委員会

4月29日

春闘の振り返り、夏期一時金の要求論議を行った。春闘アンケートはGoogleフォームを使い33人から集めることができた。20代7人、30代8人若い人の回答が半数。営業の離職が高く、ハラスメントや連携の問題もある、実態をつかんでいく。教育制度の充実を求めるアンケートの声も多かった（9人）。再雇用者の賃金低く、賃上げ希望。ベアはあったが、物価高騰を上回っていない。夏期一時金でしっかりと引き上げていこう。新人は6人採用。組合ファイルを配布する。一時金要

求で対話し組合加入につなげていく。

■第96回愛知中央メーデー 5月1日

白川公園で開催し、参加者は約1000人。来賓では若者気候訴訟、地域手当違憲訴訟からあいさつ。リレートークでは12組が元気に発言。集会後は2コースに別れてデモ行進をおこなった。デコレーションコンクールにはデコレーション部門4組、仮装着ぐるみ部門3組、横断幕・プラカード部門9組と昨年比微減。

■あいち総がかり行動事務局会議 5月8日

7人が参加した。5月17日に予定する秋に向けた運動相談会の持ち方や、6月19日に計画する一斉宣伝について具体化した。6月15日(日)13:45～東別院会館ホールの学習会についてオンライン参加も可とすることにした。

次回は6月5日(木)14:00～名古屋共同法律事務所

■全労連地方労連事務局長交流会 5月9日

56人(37地方38人、全労連18人)が参加した。7月の評議員会に提案する「地方組織強化・拡大に向けた対策方針(案)」とレバカレの推進について討議した。

■9の日宣伝 5月9日

天候が危ぶまれたが、なんとか持ちこたえた。9人参加(国公3)。名大祭の案内のパレードが矢場町からメルサ西まで行われ(名電の吹奏楽も応援パレード)ていた。奨学金問題や最賃に興味を持って、手を振ってくれた学生もいた。署名も数人協力。

■全労連東海北陸ブロック女性交流集会in三重 5月10-11日

ブロックの各県から29名が参加。1日目は木村夏美弁護士から、「憲法とジェンダー」と題し、選択的夫婦別姓制や共同親権について、憲法との関係や反対論の矛盾点などが話された。講演後は、津生協病院の理学療法士の松阪美樹さんとともに体をほぐすストレッチを実施。今井一久さん(元原発反対三重県民会議事務局次長)からは「原発立地をやめさせた三重県民のたたかい」と題した、芦浜原発計画を撤回させた住民運動についての話を聞いた。

2日目は、各県女性部の活動報告や、新規組合が立ち上がった元気の出る話、女性役員の減少の悩みなど、活発に意見交換をおこない交流した。活動を次世代につなぐためにも、組合員の増勢、非正規の組織化をすすめることなどが意思統一された。

■憲法と平和を守る街宣A 5月10日

天候が危ぶまれたが、なんとか持ちこたえた。9人参加(国公3)。名大祭の案内のパレードが矢場町からメルサ西まで行われ(名電の吹奏楽も応援パレード)ていた。奨学金問題や最賃に興味を持って、手を振ってくれた学生もいた。署名も数人協力。

■解放運動戦士第34回合葬追悼会 5月11日

5月11日午後、日進市の五色園にて、愛知無名戦士の「碑」維持管理運営委員会が主催する第34回愛知解放運動戦士合同追悼会が開催された。第78回(2025)の合葬者は52名、愛労連を代表し、佐賀事務局次長が感謝と追悼の言葉を述べた。

■第55回消費者大会講座「ブラックバイト&契約トラブル」 5月11日

「気を付けなければならない! 契約のルールやトラブルを知ろう!」～当たり前だと思っていたけど、、、実は法律違反かもしれません～、と題し、大学生向けの講座を開催。51人が参加し好評だった。藤原典子さん(消費生活相談員)と樽井直樹さん(弁護士・ブラックバイト対応弁護団

・名古屋法律事務所) から話を聞いた。「身近な事例でとても参考になった」「自分が働いているバイト先が違法なルールをおこなっているとわかり驚いた」「様々な大人が学生をだまそうと画策している社会で本当に知識は必須、声をあげられるのは知っている人だけなので一步を踏み出したい」などの感想が寄せられた。講演後に今のアルバイト先について質問、8割の人が法に触れていると回答し、身近にブラックバイトが多く存在することに皆驚いていた。

■社保協四役会議

5月12日

愛労連会議室でおこなわれ、参加者は自治労連、医労連、年金者組合、保険医協会、民医連など計10人。①理事会にむけて、各分野の状況や今後のとりくみを確認した。②6月21日の総会についても次第や役割分担を確認した。③7月の会議日程について、理事会を7月28日、四役会議を7月14日とした。

■JMITUオハラ愛労委調査

5月13日

愛知県労働委員会での第16回日の調査。参加者はオハラ分会2、JMITU3、弁護団3、愛労連の計9人。長期間続いてきた調査が終了し、次回から審問に入る。期日の日程調査をおこない、①7月24日13:30、②8月19日13:30、③8月20日13:30の3回でおこなわれることとなった。

■A i 組織拡大推進委員会

5月14日

第6回組織拡大推進委員会を開催し、全国一般、JMITU、東海法労、愛教労、事務局2名が参加をした。あいち非正規公務員1万人組織化プロジェクトの経過報告をおこなった。春の組織拡大到達、春の拡大数の到達について報告した。愛高教が何年かぶりに組織純増。医労連、全国一般、愛教労も純増の見通しがある。支部・分会単位で組織拡大に踏み出せない状況が報告された。東海法労は、メーデー懇談会で組合のチラシを配り活動への参加を呼びかけられている。共済に入ると脱退なく組織強化につながっていく、組織共済への加入について提案が行われた。

春の拡大月間4月・5月・6月の中間点で昨年と今年の4月時点の拡大数は、2948人で昨年比▲113人であり、昨年の拡大数を上回っていない。愛教労からは部活問題、パワハラ問題で組合に入って交渉し改善しようとして3名が組合加入した。6月末組織実態調査に向けてすべての組織で、純増に向けたとりくみとして、対話の行動に取り組むことを意思統一した。レバカレへの参加、分科会運営や青年強化としてもサマーセミナーへの参加の位置づけを確認した。次回は、6月26日(木)18時30分～

■全労連幹事会

5月14日

次年度運動方針、学習教育要項の改定と具体化、地方・地域運動の対策方針、第67回包議員会の開催要項、レバカレの具体化と推進などについて検討し確認した。

■日弁連最賃シンポ

5月14日

日弁連が主催し徳島での最低賃金84円引き上げの経緯や影響についての調査結果が日弁連より報告され、後藤田知事が徳島県としてのとりくみと考えを講演された。知事は、徳島の最低賃金は1000円以上であるべきだという目標を持ち、これを達成するために審議会への意見や件としての中小企業支援策の実施などについて報告した。

■A i パ臨連幹事会

5月14日

オンライン含め5名が参加。各組織の活動報告の後、非正規労働者へ年収の壁問題にからめたアンケートの進捗状況を確認した。目標数300に対し500以上が集まる予定となっており奮闘している。6月15日(日)午後、総会を予定。

次回幹事会 5月14日(水)18:30～ @愛労連会議室

次々回幹事会 6月9日(月)18:30～ @愛労連会議室

■Ai第2三半期会計監査 5月15日

愛労連事務室において、会計監査3人（金川・高木・牧野）が監査を行い、伝票や帳簿、現金預金が正しく管理されていることが確認された。

■Ai機関紙編集委員会 5月15日

オンラインで4人が参加。愛労連新聞6月10日号の振り返りと、7月10日号の企画打合せをおこなった。

次回委員会 6月14日（土）評議員会後

■Ai非正規公務員1万人PT 5月15日

5月15日の夜、第7回プロジェクト会議を愛労連会議室&オンラインで開催、今後のとりくみのすすめ方などを議論した。6月11日の「学校図書館の日」にむけて記者発表、8月期の「あいち非正規公務員サマーミーティング」の検討などを行った。プロジェクトに対する全労連からの財政支援が底をつくもと、今後の運動に係る費用負担のあり方などについて単産から意見が出された。そもそも、第1期として2年間のプロジェクト期間を設定していたこともあり、3年目以降のプロジェクトのあり方について、今後検討を進めていく。

■憲法と平和を守る愛知の会 5月15日

7名参加。土曜宣伝の報告。情勢討議。各団体からのとりくみ報告、愛労連はNEWSを資料につけて報告した。次回は、6月19日（木）1600～愛労連会議室

■サマセミブロック実行委員会 5月16日

リモートでおこない、参加者は静岡3、愛知2、岐阜、石川2の計8人。①昨年開催した第31回サマセミの記録集作成について進捗状況を確認した。②第32回サマセミについて具体化をおこない、テーマ・スローガン、3日間の主要パートについて各県から持ち寄った案を確認した。③宿泊施設の予約について確認し、現状抑えられる51人宿泊分を仮予約する事とした。8月中旬までにだいたいの人数を確定させる。また、参加費設定については、宿泊施設と宿泊費の確認をとり、次回それをもとに決定する。

■はたらく女性の中央集会in愛知 愛知実行委員会打合せ 5月16日

11月に開催される、はたらく女性の中央集会in愛知、の愛知担当の分科会についての打合せを開催。分科会は、愛知で活躍する女性複数人をパネリストとして迎え、くらしや地域を支える女性の活動についてシンポジウム形式で開催することとした。愛知実行委員で、1つの学習分科会と2つの動く分科会を運営する予定。

■Ai女性協幹事会 5月16日

各組織の活動報告後、とりくみの総括、今後のとりくみに話し合った。総会の開催方法や、議案の担当割りなどをおこなった。女性協総会は、7月5日（土）13：30～労働会館本館会議室で開催予定。

次回幹事会は、6月24日（火）19：00～ @愛労連応接室

■社保協宣伝 5月16日

名古屋市南区・笠寺観音前でおこない、参加者は保険医協会、民医連、医労連など計13人参加。スピーチしながら社保協のとりくむ各種署名をよびかけ、計48筆集まった。

■能登半島地震・豪雨災害第10次ボランティア 5月17-18日

全体で47人が参加し、愛知からは4人（自治労連3、医労連1）が参加した。

■日本平和大会「青年の集い」打ち合わせ 5月17日

リモートでおこない、参加者は日本平和委員会、愛知県平和委員会2、民青、愛労連の計5人。日本平和大会の説明をおこない、青年のつどいについてイメージを出し合った。次回以降テーマなど内容について協議を始める。次回打ち合わせは6月2日(月)19:15から。

■全労連単産・地方女性組織交流集会 5月18日

会場とオンライン併用にて開催。12単産・24組織、会場41人、オンライン39人の合計80人が参加。

午前中は「ハラスメントなくす第三者介入スキルを身につけよう」と題した学習会を実施。中村果南子さん（一般社団法人ちゃぶ台返し女子アクション）を講師にむかえ、具体的なハラスメントのシナリオをもとに、グループごとに分かれてワークショップをおこない介入方法を考えた。ワークは日常にある暴力を防ぐための「避難訓練」、いろいろな差別のない社会をめざすために必要と話された。午後は、行動提起や各組織の発言などがあった。

■東海自治体学校 5月18日

5月18日の午前・午後、名城大学ナゴヤドーム前キャンパスにて、第51回東海自治体学校が開催された。愛労連が参加する東海自治体問題研究所の産業構造研究会は、愛知の産業構造から読み解く「非正規雇用」と「ジェンダーギャップ」と題して、第13分科会を担当した。なかでも、都道府県別「男女の賃金格差」ランキングで最下位グループに位置する愛知県の意識の背景にあるとされる、製造業中心の産業構造について「トークセッション」で深掘りした。セッションは、産業構造研究会メンバーでもある佐賀事務局次長が担当し、ゲストには愛労連西尾美沙子議長、元名古屋市男女平等参画推進センター・センター長の渋谷典子さん、毎日新聞記者の加藤沙波さん、愛知中小企業家同友会事務局次長の池内秀樹さんが加わり、産業構造研究会の梅原浩次郎先生と議論を行った。会場はほぼ満席となる延べ20名程度の参加があった。

■日本平和大会環境打ち合わせ 5月19日

6名参加（愛労連1・国公1・年金者組合1・事務局3）。テーマ（メイン）とサブテーマを議論、サブテーマ2案で5月26日の実行委員会で決める。体制＝千金者を国公・青山さんを確認。講師確認中。次回6月19日(木)14:30～愛労連会議室。

■社保協理事会 5月19日

愛知県保険医協会伏見会議室とリモートでおこなわれ、参加者は20人。

①軍事費の拡大より社会保障の拡充を求めるたたかいでは、この間の宣伝行動の参加状況を確認。今後のとりくみとして6月2日の署名提出集会を確認した。②介護のたたかいについては5月27日の参加者を確認した。そのほか、介護パンフの活用について、秋からとりくみが始まる「新介護署名」について、9月1日に決起集会がおこなわれることを確認した。③健康保険証存続のたたかいでは、マイナ保険証の利用状況は3月時点で27.26%と報告。渋谷区ではマイナ保険証の有無にかかわらず資格確認書を送付することになっている。愛知県内の自治体に資格確認書の取り扱いを聞き取りしているが、渋谷区の例を知らない自治体がほとんどで、自動送付の実施(検討中も含めて)自治体はないと報告された。その県内の状況を踏まえて県内自治体へ「一斉交付」を要望する。④国保改善の課題では、豊田市で新たに「国保の国庫負担増額を求める意見書」が採択された。⑤高額療養費の改悪を許さないたたかいでは、OTC類似薬の保険外しの状況を確認。「高額療養費の自己負担引き上げの撤回を求める意見書」提出を求める陳情書について、県内の自治体6月議会に送付する。⑥総会の次第・役割分担など確認した。

最賃署名への協力を訴えた。

■消費者大会実行委 5月19日

8名参加。第56回大会のもちかた、今後のとりくみの概要を検討した。学習会や見学会、愛知サーセミナーや名古屋消費生活フェアへの参加などを予定し、学習会のテーマや方法、開催時期などについて話し合った。下水道、ノーベル平和賞関係、食料問題、防災、原発、PFOSなどを検討中。

次回実行委員会 6月26日(木) 13:30～ @イーブルなごや

■平和行進事務局団体打ち合わせ 5月20日

7名が参加。平和行進の事務局団体が集まり、出揃ったコースについてや、運営や対応方法などについての実務関係の打ち合わせをおこなった。

■Ai組織強化学習教育委員会 5月20日

オンラインを含め9人が参加。各組織の学習教育のとりくみや組織強化拡大の報告をおこなったあと、今後の行事についての確認。2025年のわくわく講座の現時点の申込者を確認、開講式は厳しいが、なんとかスクーリングを開催し受講者に参加をしてもらうために、引き続き声掛けをしようと思いつき統一をおこなった。受講者を増やすために、オルグを開催予定。勤通大、新しい役員に学習をおこない、世代交代をしていこうと学習をすすめている組織が出てきている。引き続き学習の重要性を伝えていくこととした。

次回委員会 6月30日(月) 19:00～ @愛労連会議室

■安保破棄実行委員会 5月21日

5名参加。経過報告＝名古屋市会へ日米地位協定の抜本改定を求める請願、陸上自衛隊第10師団式典の空砲訓練中止を求め申し入れ、T4自衛隊機が犬山入鹿池に墜落事故で小牧基地へ申し入れ。各団体からの報告＝医労連、国公、愛労連、平和委員会、共産党(平和行進、原水禁世界大会)、情勢討議。

今後の予定は、6月18日(水)10:00～、7月30日(水)10:00～。

■平和行進実行委員会&原水協理事会 5月21日

オンラインと合わせて開催。原水協理事の大村さんから、来年のNPT再検討会議の第3回準備委員会にNGOの代表として出席をした報告があった。平和行進や、世界大会に向けてのとりくみについてなどが検討された。平和行進への参加が呼びかけられた。

平和行進出発集会 5月25日(日) 14:00～16:00 @生協生活文化会館

平和行進引継ぎ静岡 5月31日(土)～ 6月11日(水) 岐阜へ引継ぎ

平和行進交流会 6月8日(日) ピースアクション後 @民主会館

平和行進まとめ集会 6月29日(日) 午後 @民主会館

次回理事会&平和行進実行委 6月18日(水) 18:30～ @愛知民主会館

■若者気候訴訟第3回口頭弁論期日 5月22日

傍聴には160人以上が列をつくり、回を追うごとに関心の高まりと支援が広がっている。法廷では、2人の原告が意見陳述し、弁護団からは、気温の高温下の実態、原告の差し止め請求権の適格性について主張した。

法廷後の報告集会は、桜華会館で開催され151人が集まった。

■戦後・被爆80年あいち平和のつどい実行委 5月22日

被爆80年(2025年)に向けて、愛知独自のとりくみとしての「つどい」開催をめざす実行委員会を開催、賛同金やチラシ、当日のスケジュールや部屋割りなどを話し合った。広く参加を呼

び掛け多くの参加者が来るようにと再度意思統一をおこなった。

戦後・被爆80年 あいち平和のつどい 9月27日(土) @名古屋市公会堂
次回実行委員会 6月22日(木) 10時～ @労働会館本館会議室

■【中止】最賃ビッグアクション 5月24日

雨天予報のため中止としたが、10人(自治労連2、国公2、きずな1、名中1、尾中1、事務局3)が現地に集まったため30分間ビラ配布を行い430枚を配布した。

■あいち平和行進出発集会 5月25日

5月31日からスタートする平和行進にむけて、愛友会理事長の金本弘さんの挨拶と、被爆80年の今年の平和行進の意味が話された。また、通し行進者から意気込みや、コール・歌の練習などで行進へ向け、意思統一をおこなった。

■はたらく女性の中央集会in愛知実行委員会 5月26日

愛知の会場と全労連会場、各実行委員をオンラインにてつないで開催。11月に開催される「はたらく女性の中央集会in愛知」について、スローガンや講師、分科会、運営スケジュールなどについて話し合いをおこなった。

はたらく女性の中央集会in愛知 11月29日(土)～30日(日)

1日目分科会 労働会館、2日目全大会 ウイルあいちホール

次回実行委員会 6月23日(月) 18:30～ @オンライン

■日本平和大会第8回実行委員会 5月26日

16人参加(うちオンライン5)。中央実行委員会から情勢報告。全体集会の構想案の説明など。「学びと交流の集い」各分科会からこれまでの討議状況について報告。青年のつどいについて報告(中央平和委員会)。大会に向かうとりくみ、要員案などを確認。今回は6月23日(月) 15:30～労働会館本館。「環境」は6月19日(木) 14:00～応接室。

■春の争議支援総行動 5月28日

愛労連からは明治乳業、アクリル争議、東海大王製紙パッケージ労組の支援に駆け付けた。大王パッケージ株式会社前には、青木幹事を含む全体で52人が集まり、若い組合員も多く参加し盛り上がる中で支援をおこなった。(愛労連2、静岡県評2、東三河労連4、東海大王製紙パッケージ労組23、化学一般全関東7、化学一般中四国2、化学一般関西1、その他)。アクリル争議は、本社前にて林、煤本幹事が参加。争議解決に向けての決意が述べられた。

■A i 青年協幹事会 5月28日

リモートでおこない、参加者は医労連2、自治労連、建交労、愛労連の計5人。①この間のとりくみの振り返りをおこない、4月18日の学習交流会、中止となった5月6日の新歓☆地引き網ツアーについて感想や改善点を確認した。②サマセミの愛知担当パートについて協議した。大まかな内容を決め、ブロック実行委員会にて提案する。③「青年協ニュース(仮)」について協議し、発行に向けて内容や分担を確認した。④その他愛労連のとりくみへの参加など確認した。⑤次回幹事会は6月19日(木)となった。

■A i 最賃公契約問題対策委員会 5月28日

7人参加。5月14日日弁連の最賃シンポ(徳島から全国へ)のミニ学習。春の自治体キャラバン(公契約・最賃)のとりくみ。経過報告、最賃署名1万筆にむけてあと1カ月の奮闘。オンライン署名。7月4日に提出する要請書案、公益委員への手紙案、公務員賃金と最賃宣伝、徳島県との懇談、審議会委員の報酬にかかる情報公開。今後の会議・行動について確認(以下のとおり)

6月19日(木) 815～最賃宣伝(愛知学院前)

6月30日(月) 1000～第9回最賃・公契約問題対策委(愛労連会議室9)

7月4日(金) 1430～徳島県最賃懇談(オンライン)

7月14日(月) 1730～最賃ビッグアクション(名駅)

■労働相談センター全体会 5月29日

9人参加(うち、健康センター2)。新規相談件数3月=49件(昨年63)、4月=40件(同53件)。組合加入(建交労1、全国一般1)。相談内容の共有。
東海北陸ブロックの相談員研修7月9日:1530～(会計年度任用職員)。次回は26年度第1回=7月30日(水)1500～。

■Ai四役会議 5月29日

コラム担当、愛労連機関会議、加盟組織大会の任務分担を決めた。財政問題について評議員会提案文の確認を行った。役員人事について現況報告、大会方針に関わり、2026年度の愛労連運動の意義と役割、組織の強化発展についてディスカッションを行い、ジェンダー平等の運動が組織強化拡大につながるなど議論した。

■全労連ジェンダー平等推進交流集会 5月30日

全労連ジェンダー平等推進委員会が主催して開催された。メイン講演には筑波大学名誉教授の田中洋子先生を招き、短時間正社員制度と労働組合の役割について学んだ。基調報告のあとにJMIT U・道労連・岐阜県労連の取組報告。後半は、ちやぶ台返し女子アクションの中村果南子さんから「性的同意と第三者介入」について学んだ。

■秋の自治体キャラバン実行委員会 5月30日

労働会館本館でおこなわれ、参加者は13人。秋の自治体キャラバンについて、日程や準備のスケジュールなど確認した。次回実行委員会は6月19日(木)13:30から。

■平和行進～(引き継ぎ～桜丘高校) 5月31日

国民平和行進(東京一広島)が5月31日に愛知県入りし静岡新所原で引き継ぎ集会が行われた。集会で愛友会会長の金本さんは、ノーベル平和賞受賞につながった草の根運動である平和行進の意義と必要性を訴えた。林副議長は、草の根運動である行進が、今年は県内47カ所から56カ所へ増やされみんなで奮闘している旨などが話された。パレードには高校生も参加するなど、若い世代への引継ぎが感じられた。

原爆の火を保存し灯される桜丘高校では、学校あげての歓迎集会が行われた。教職員組合、生徒会会長から歓迎のあいさつが行われた。ノーベル平和賞受賞についての声明を桜丘高校平和委員会と生徒会連盟で作成し、日本被団協の濱住さんに直接手渡した。和太鼓部による演舞は力強く感動的だと好評だった。

■憲法と平和を守る街宣 5月31日

名古屋市中区栄でおこなわれ、参加者は愛教労、年金者組合、きずななどから計10人。軍事費が増える一方で物価高騰の下、賃上げが進んでいないことと社会保障費が削られていることなどから、軍事費でなく私たちの暮らしに係わることに税金を使うべきなど訴えた。
終了間際に右翼を名乗る人物が政党ののぼりをみて、その政党の批判などを大声でさげふなどの迷惑行為をしてきた。対策について、「会」の中で確認が必要と思われる。

■サマセミ現地見 6月1日

静岡県富士市周辺で静岡実行委員会中心におこなわれた。午前中からサマセミ2日目に訪れる候補地の下見をおこない、午後には宿泊予定のホテルやBBQ会場の下見をおこなった。

■あいち平和行進（奥三河・豊橋コースなど） 6月1日

奥三河初の平和行進を成功させようと、奥三河9条の会などが1年をかけて準備をし、実現。山間部を車で移動しながらの行進をおこなった。新城市役所前集会では、黒岩市議会議長ら7人の市議会議員が参加。新城市在住の被爆者の黒田レオンさんが被爆体験を語った。設楽町では、障害者施設「きらりと一ふ」のみなさんも一緒に行進。愛知県最奥地の豊根村では、高低差のある中心街を元気にアピールした。東栄町では、議会で核兵器禁止条約の批准を求める意見書を提出する請願で趣旨採択となったと浅尾町議から報告された。豊橋市役所から蒲郡市役所、碧南市役所から高浜市、幸田町でも行進が同時におこなわれ、全コースあわせてのべ366人が参加。募金は31,907円、ペナント21本、折り鶴12,745羽、署名28筆が集まった。

■春の自治体キャラバン名古屋市・愛知県要請 6月2日

20人以上が参加。名古屋市との懇談には、2時間に渡って懇談が持たれた。愛労連から求めた公契約条例制定については、担当課が賃金下限条項をもった条例を制定したみよし市から聞きとりをしているなど、制定に向けた前向きな検討がされていることが伺えた。

愛知県との懇談は70分で開催。公契約条例に関わって、賃金や報酬の報告をさせているが、その集計や分析がされていないことを指摘し、予算化するよう求めた。

■あいち平和行（岡崎市～安城市） 6月2日

岡崎市役所前の出発集会からスタート。岡崎城前まで行進し、電車で移動。南安城駅前から安城花ノ木公園まで行進後、集会。安城市議の石川氏、森下氏、白谷氏の3人が参加し挨拶をおこなった。その後の豊田駅前での行進では、戦争展でつながりのある高校生が原爆の火を持ち先頭を歩いた。みよし市でも初めての平和行進が開催。太田川駅でも開催されるなど、全コースあわせてのべ319人が参加。募金は106,424円、ペナント75本、折り鶴42,060羽が集まった。

■社保協四役会議 6月2日

愛労連会議室でおこなわれ、自治労連、年金者組合などから計8人。①翌週の理事会にむけて、今後のとりくみについて内容やスケジュールの確認をした。②第45期総会について議案書作成の進捗状況や今後のスケジュールを確認した。

■青年ネットスタッフ会議 6月2日

リモートでおこなわれ、参加者は4人。各団体の活動報告、青年ネットのこれまでの活動の振り返り、今後の活動についてなど協議した。

今後の活動については、参議院選挙前に政治についてのとりくみを検討したが、日程の都合上断念し、8月中下旬に企画を設定する事とした。具体化は次回検討する。次回スタッフ会議は7月3日(木)10:30からリモートでおこなわれる。

■日本平和大会青年のつどい打合せ 6月2日

リモートでおこなわれ、参加者は日本平和委員会、民青、愛知県平和委員会、愛労連の計4人。「青年のつどい」について協議した。①時間と場所については19時開始、労働会館東館ホールで開催する方向で進めていくとした。②名称を「ピースシャウト」を引き継ぐ。③目的について協議した。④次回は7月下旬で調整する。

■あいち総がかり行動運営委員会 6月2日

9月に開催する集会について、5月17日に開催した意見交換会で、屋外集会ではなく屋内でじ

っくりと情勢とともに今後の運動方向について学び考えられる企画をとということになった。当初は9月20日に計画したが、会場が確保できないことから9月21日(日)鯉城ホールで開催することとなった。

当面の19日に伴うとりくみは、6月19日は栄、名古屋駅、金山駅での一斉宣伝、7月23日も栄、名古屋駅、金山駅での一斉宣伝にすることとした。

■給特法改定反対宣伝 6月3日

給特法改定審議が参議院でヤマ場を迎える中、愛高教が名古屋駅で宣伝を実施。愛労連からも参加を呼びかけ16人が参加した。宣伝開始時は雨が残る天候だったが、代わる代わる現場の実態や法案の問題点を明らかにし、解決するためには予算を増やして教員を増やすことと訴えた。

■大王パッケージセクハラ裁判期日 6月5日

大王製紙子会社の、大王パッケージ株式会社愛知工場の女性職員が上司からセクハラなどを受けたとして、男性上司2人と同社に損害賠償を求め名古屋地裁豊橋支部に提訴した裁判で、上司の1人は2月に和解が成立。もう1人は、まったく誠意のない対応ため引き続き裁判を継続中。書面の確認と次回の予定確認などをおこなった。裁判傍聴席に入りきれないほどの支援者25名が集まった。裁判前には、豊橋駅前にてチラシを配付し宣伝をおこなった。裁判後は報告集会を実施し意思統一。今回から裁判官が変わったため、注目を集める裁判だと訴える必要があった。今日は席数を超える傍聴を集められて、裁判官に意識させることができて良かった。今後も、傍聴席を埋めて応援をお願いしたいと訴えがあった。

■サマセミブロック実行委員会 6月5日

リモートでおこない参加者は静岡3、愛知2、岐阜、石川2、福井の計9人。6月1日の下見をうけての具体化をおこなった。①急遽会場が富士パークホテルに変更となり、初日夕食交流会に予定していたBBQの実施が危惧されたが、ホテルから車で15分程度のBBQ会場で実施することとした。ゴミや準備の問題があるが、業者に頼らず費用を節約する事とした。②初日全体会(愛知担当)の内容を確認した。グループ・参加者個人の紹介チラシを作成し、c a n v aなどの使い方を参加者に覚えてもらい、今後の組合活動に活かしてもらう。③2日目分科会、3日目全体会について案を大まかに確認した。④6月中旬にチラシを出すことを目標にチラシの作成にあたるが、前回に引き続きどの県からもチラシ案が出なかったため、愛知案で作成にかかる。

■あいち総がかり行動事務局会議 6月5日

6月15日(日)の学習会や6月19日(木)の一斉街宣について当日の運営や分担について具体化した。9月21日(日)に計画する集会については鯉城ホールで開催することとし、学習を中心としていく。集会の実行委員会は、当面6月12日(木)18:30、6月26日(木)18:00にいずれもイーブルなごやで開催する。

■クール・クライメイト事務局会議 6月5日

第3回期日のふりかえりとともに、今後のとりくみについて検討した。8月に、気候危機や裁判について、率直な疑問を出し合い深め合う学習会を開催することとした。また、いっせい行動の愛知県・名古屋市との懇談についても参加者や懇談項目について具体化した。

若者気候訴訟勉強会「いまさらだけど、訊きたい」(仮題)

日時 8月30日(土)14:00~16:00

場所 ウィンクあいち

次回事務局会議

日時 7月24日(木)10:00から

場所 愛労連会議室

■非正規ではたらくなかまの全国交流集会in広島

6月7-8日

広島県で開催された全労連非正規センターが主催する「第33回パート・派遣など非正規ではたらくなかまの全国交流集会in広島」に、パ臨連から2名（福保労・郵政ユニオン）と、建交労、自治労連、事務局などからリアルとオンラインで参加があった。1日目の全体会は「さらに広がる非正規の働き方をどう考えるか？」と題し竹信三恵子さんの講演を聞いた。非正規化が労組離れに影響している、非正規の周りは詐欺だらけだが打ち勝つためには労働組合が大切、などが訴えられた。その後、被爆者の証言や、被団協理事佐久間邦彦さんからのノーベル平和賞受賞とこれからの運動について、などが話された。400人の参加があった。終了後のパレードは、ちょうどお祭りが開催されており人出も多く反応も良かったとのこと。2日目の分科会とあわせて、参加者からは「とても良い話が聞けて、全国の仲間と交流も出来て、パレードも楽しく良い集会だった」と感想が寄せられた。

■愛商連定期総会

6月8日

佐賀事務局次長が参加し、愛労連を代表して挨拶した。

■あいち平和行進・市内集中行進・ピースアクション

6月8日

名古屋市内14コースで市内手中行進がとりくまれ、若宮広場で開催されたピースアクションを含め1596人が参加した。集会は、金本弘愛友会理事長のあいさつ、参加者報告、通し行進者紹介、全国通し行進・県内代行の重責を果たす、大村美恵さん、6/6から参加のわかやま市民生協中山さんらの紹介、会場にゴールした反核マラソンメンバーの紹介、愛知県高校生平和ゼミナールの活動報告と世界大会派遣募金の訴えがあった。文化企画では、ぞうれっしゃ合唱団によるうたごえの披露があった。

集会終了後には折り鶴平和行進で大須の街を「核兵器なくそう「禁止条約への日本の」参加を」とコールしながら約200人で行進した。募金129,535円、折り鶴44,170羽、ペナント70本が集まった。

■平和行進交流会歌う大交流会

6月8日

名古屋集中行進・ピースアクション後、歌う大交流会が開催された。全国通し行進、愛知県内代行の大村美恵さん（JMITU）が、行進への意気込みを語り、得意の歌を披露し会場参加者と交流、合唱をするなどして軽食と共に親睦を深め平和への意思統一をおこなった。

■A i パ臨連幹事会

6月9日

4名が参加。各組織の活動報告の後、非正規労働者へ年収の壁問題にからめたアンケートの集約状況と、回答の傾向などを確認し、総会での発表をめざすこととした。

6月15日（日）13:00～ @労働会館本館会議室

講演 「非正規労働者こそ労働組合を活かそう」
～首都圏青年ユニオンのとりくみから学ぶ～

講師 尾林哲矢さん（首都圏青年ユニオン委員長）

次回幹事会 7月25日（金）18:30～ @愛労連会議室

次々回幹事会 8月27日（水）18:30～ @生協労連事務所内

■9の日宣伝

6月9日

金山駅北口で実施。参加者は革新愛知の会、共産党、愛労連の計3人。スピーチしながらチラシを配布し、税金を軍事費でなく物価高騰に苦しむ国民のために使うことなど訴えた。

■社保協理事会

6月9日

保険医協会伏見会議室でおこなわれ、参加者は保険医協会、民医連、自治労連、愛知国公、医労連、年金者組合などから計20人。①大軍拡より社会保障、介護、健康保険証、国保などのこの間のとりくみについて報告され、今後のとりくみについて確認した。②6月21日の第45期総会に向けて、代議員の出席状況、議案書案など確認した。議案書案については今後各理事から寄せられた修正意見を反映させ、完成させる。

■平和行進表敬訪問（県・名古屋）

6月10日

名古屋市役所と愛知県長へ、行進団と、愛労連、自治労連、平和委員会、新婦人、原水協、愛高教の代表が、表敬訪問を行った。名古屋市、愛知県とも平和都市宣言と平和県宣言を1963年にそれぞれ決議をしているが、どちらも非核の文言がなく、「非核」という文字を入れて欲しいと要請した。名古屋市では、「戦争に関する資料館」の運動をもっと身近に、のテーマで教育委員会と懇談を持つなど前進が話された。県市共同で、8月に平和シンポジウムの企画が行われること、予算増がされたことが報告された。9月平和のつどいには、大村知事からのあいさつを要請した。

■春の自治体キャラバン意見陳述（東郷）

6月11日

東郷町議会で、最低賃金・公契約法制定・国家公務員増員・地方財政に関わる意見書採択を求める意見陳述に、年金者組合の三宅さん（東郷町在住）と愛労連佐賀事務局次長で臨んだ。9時半に始まった委員会での意見陳述は2時間半にも及び、それぞれの委員から熱心な質問が相次いだ。いずれの意見書も不採択となったものの、昨年は反対に回った委員がすべての意見書に賛成するなど、前向きな変化も感じられる結果となった。持続的な運動に確信を持てる意見陳述となった。

■全労連幹事会

6月11-12日

2025年度運動方針、2024年度活動の経過、2025年秋季年末闘争方針、2024年度会計決算報告、第67回評議員会開催要項と定数の確定などについて討議し確認した。運動方針などの評議員会議案については、次回の7月幹事会で再度議論し事前発送とすることとした。

■あいち平和行進引き継ぎ集会（各務原）

6月11日

雨の中、扶桑町を出発し、岐阜・各務原で引き継ぎが行われた。扶桑町は町長、議長が参加し、行進団は62名が参加。岐阜への引き継ぎ集会では被爆者の丹羽さんが2歳で被爆し父と姉を亡くされた経験を話された。原爆の火を消灯し岐阜に無事バトンを引き継いだ。

■革新中の会総会・学習会

6月11日

民主・革新中の会の総会に合わせて、上下水道事業を考える学習会のリクエストが有り、愛労連佐賀事務局次長が「八潮市道路陥没事故から「上下水道事業」を考える」と題する講演を行った。全国の上下水道事業の現状などについて、国土交通省や総務省から公表された資料に基づき、公営企業会計や料金改定の仕組みについて説明を行った。参加者の関心も高く、あらためて市民に訴える必要性などが感じられる結果となった。

■424共同行動実行委員会

6月12日

愛労連会議室でおこなわれ参加者は社保協、自治労連、医労連、国公、民医連、全医労、愛労連の計7人。1) 情勢報告では、①「病床数適正化支援事業」で全国で補正予算時の予想の7.5倍におよぶ5万3千床の削減申し込みがあったこと、②自民・公明・維新による3党合意についての報告などがされた。2) 県内の再編・合理化進捗状況では半田病院と常滑市民病院の経営統合により4月にオープンした知多半島総合医療センターについて、利用者の交通問題、現場の人手不足、常滑の赤字問題など報告された。今後の病院運営について労働組合の組織と役割が重要となると考えられている。3) 愛知県への要請行動についてスケジュールを確認し、10月ごろの懇談にむけて今後要求書を確認していく。4) 次回実行委員会は8月7日(木)10時から。

■Ai第1回評議員会

6月14日

出席は、17単産20人、14地域14人、幹事23、事務局3だった。夏季闘争方針をはじめとする5つの議案すべてが全会一致で採択された。

評議員の女性比率は8.8%（男性31、女性3）、発言は単産7、地域2だった。

■Ai新聞編集委員会

6月14日

リアルとオンラインで6人が参加。愛労連新聞6月10日号の振り返りと、7月10日号の企画打合せをおこなった。

次回委員会 7月11日（金）19:00～ @オンライン

■憲法と平和を守る街宣A

6月14日

当日は雨が強く、愛労連としては幹事会に中止の連絡を行った。自治労連、きずな、事務局3名と社民党1名、市民1名の5名が参加し、50個のティッシュ・チラシを配布した。

■愛高教定期大会

6月15日

愛知県教育会館ホールにて第127回定期大会が行われ、運動方針を確立した。愛労連からは西尾議長があいさつを行った。

■Aiパート臨時労組連絡会第21回総会

6月15日

労働会館本館会議室にて開催。オンラインを含め40人以上が参加した。西尾議長の来賓挨拶後、首都圏青年ユニオン委員長 尾林哲矢さんが会場にて講演を行った。「非正規労働者こそ労働組合を活かそう」～首都圏青年ユニオンのとりくみから学ぶ～と題し、非正規労働で団結する運動の歴史や方法の返還、今どうしていったら良いか、などが話された。

その後の総会では、パ臨の活動報告・提案後、年収の壁問題のアンケート報告後、建交労保育パート支部の尾崎書記長から名古屋市非正規保育士ら1200人雇い止め問題について報告された。議案採択後、団結ガンバローで総会を終えた。

■あいち総がかり西谷修さん講演会

6月15日

東京外国語大学名誉教授の西谷修さんを招き、「激動の次代の日本の進路」をテーマに学んだ。西谷さんは、アメリカの歴史と世界統治の変遷、冷戦後の世界秩序の変化、トランプ政権の意味、第三世界諸国の台頭などについて話すとともに、トランプ政権の登場は西側世界の分裂を示しており、BRICSなど第三世界諸国の連携と台頭のもとで、日本は西側にこだわらず第三世界との連携を模索すべきではないかと投げかけた。参加は約40人だった。

■最高裁包囲ヒューマンチェーン

6月16日

東京電力福島第1原発事故をめぐる国の賠償責任を否定した3年前の最高裁判決を正し、公正な司法を取り戻そうと事故被害者や市民らが最高裁を包囲するヒューマンチェーン（人間の鎖）にとりくみ包囲した。昨年を上回る約1150人が参加した。愛知からはだまっちゃおれん原発人権訴訟愛知岐阜の原告や弁護士はじめ支援者など約30人が参加し、愛労連からは5人（愛教労4、事務局1）が参加した。

■自衛隊T-4練習機飛行再開中止を求める申入れ

6月16日

航空自衛隊が犬山にある入鹿池に墜落したT-4練習機について6月13日から同機種の飛行停止を解除すると発表したことに対し、安保破棄愛知県実行委員会・愛知県平和委員会・小牧平和県民集会実行委員会が「T-4及びブルーインパルス」の飛行再開方針をとりやめ中止すること」など4つの請願項目を申し入れた。3団体7人が参加した。対応した担当者は「事故の原因は不明だが、

点検を万全にして飛行を開始する」と応えました。また、愛知県、名古屋市、小牧市、春日井市、豊山町には説明を行ったと述べました（名古屋は副市長で、他は知事・市長・町長対応とのこと）。中日新聞、しんぶん赤旗が取材した。

■メーデー実行委員会

6月18日

愛労連会議室でおこなわれ参加者は自治労連、建交労、国公、医労連、東海共同印刷、きょうされん、愛労連4の計10人。第96回の振り返りをおこなった。第97回メーデーにむけて、会費の値上げについて協議し、現在組合員ひとりあたり30円としている会費を一人あたり50円に値上げずるとして、来年の実行委員会で提案する。

■安保破棄実行委員会常任幹事会

6月18日

4名参加。あいち総がかり行動学習会、6月16日の小牧基地への申し入れ（T4自衛隊機墜落後の飛行再開に抗議の申し入れ）を報告。各団体のとりくみ＝医労連・愛労連は平和行進報告と原水爆禁止世界大会の参加について、平和委員会からは10月の平和大会実行委員会の経過を報告。中日新聞社説などで情勢討議（トランプ関税、イスラエル攻撃）、安保破棄中央実行委員会議案。愛知の安保として、「次期戦闘機の共同開発と輸出を止めてください」署名とあいち学習パンフの普及と学習の推進。次回は7月30日（水）10時から愛労連会議室、8月20日（水）10時から応接室。

■平和行進実行委員会&原水協理事会

6月18日

オンラインと合わせて開催。平和行進のまとめが報告された。世界大会に向けてのとりくみや各組織の計画についてなどが話された。

平和行進まとめ集会 6月29日（日）午後 @民主会館

次回理事会&平和行進実行委 7月16日（水）18：30～ @愛知民主会館

■最賃愛知学院大学前宣伝

6月19日

早朝8時15分から9時まで、地下鉄「名城公園」にある愛知学院大学前で、「学生応援！バイト代時給1500円宣伝」を行った。12人（自治労連3、医労連2、生協労連1、愛教労1、国公1、事務局4）が参加、最賃1500円オンライン署名QRコード付きビラ（ティッシュ入れ）200個配布しました。

「最低賃金を1500円にしましょう！」「一緒に声を上げましょう」と声をかけながら配布。昨年名城大学と比べると、やや受け取りが悪かった印象ですが、「1500円だって、いいね」など会話する学生も。大きな横断幕を見て歩く学生はたくさんいた。

テレビ愛知が午後5時からのニュースで1分ほど放映、7月3日の愛知地方最低賃金審議会があることも報道した。しんぶん赤旗、愛知民報も取材しました。

■愛労連四役会議

6月19日

財政問題の対応、定期大会「対話とまなびあい」グループディスカッションについて議論を行った。

■Ai青年協幹事会

6月19日

リモートでおこない、参加者は医労連2、自治労連、建交労、愛労連の計5人。サマセミについて、青年協夏のとりくみ、第36回定期総会の日程など協議した。①サマセミについては、愛知担当の初日全体会について、次第案に変更を加えた。3日目全体会については、テーマと大まかな内容を確認し、具体化を協議した。②青年協の夏のとりくみはサマセミにむけてつながりを増やそうと、気軽に参加できるピアガーデンでの交流会をおこなうこととした。8月2日（土）20：00から柳橋ピアガーデン2025を20人で予約した。③第36回定期総会について、11月30日の午後開催する事

を確認した。

■共済会1日事務局会議

6月19日

愛労連会議室でおこなわれ、参加者は建交労、JMITU、きずな2、愛労連、事務局2の計7人。理事会にむけて定期総会で提案する内容などについて素案を協議した。

■憲法と平和を守る愛知の会

6月19日

土曜宣伝の報告と今後の日程、各団体の活動報告（愛労連はNEWSで報告、平和行進など）、総がかり行動、情勢議論。次回は7月31日（木）1600～社会文化センター。

■あいち総がかり行動一斉宣伝

6月19日

金山・栄・名古屋駅の3カ所で宣伝行動行われた。金山には約20人が参加し、ビラ配布とともに参加者が代わる代わるマイクを握って訴えた。

■日本平和大会分科会打ち合わせ

6月19日

10月25日、16時からの学びと交流のつどい「気候危機」についての打ち合わせ。講師、原告からの報告、司会など議論。7月9日＝小島弁護士との打ち合わせ、7月23日＝気候危機打ち合わせを確認した。

■A i 非正規公務員1万人PT

6月20日

主な議題は、NHKスペシャルの特集や「まるっと」の報道などによって注目が集まる「名古屋市立保育園ではたらく会計年度任用職員大量雇い止め」問題に関わる子ども青少年局からの回答の報告、2年間のプロジェクト期間や当事者からの期待の高い「集会」開催のとりあつかいについてでした。6月25日には、総務省から会計年度任用職員制度に関わる「事務処理マニュアル」の改定が示されました。専門性を要する会計年度任用職員の「給与」の上限設定を撤廃するもので「処遇改善」に期待が持てる内容です。新体制となる組織もあり、あらためて協議を行う必要があります。

■勤通大開校式&学習協第61回総会

6月21日

労働会館本館で開催。勤通大開校式では、愛知学習協副会長 吉田豊さんから「SNSの時代をどう見る？どう考える？」と題した講演を聴いた後、グループに分かれて感想交流などをおこなった。その後の総会では、議案提案報告後、グループで「共に学び成長する仲間をどのように増やしていくのか？」をテーマに討論をおこなった。

■社保協第45期総会

6月21日

愛知県保険医協会伏見会議室でおこなわれ、参加者は会場に代議員33人、傍聴10人、事務局1、リモートで代議員2、傍聴4の計48人。①記念講演で佐久大学特任教授の唐鎌直義氏による「社会保障を巡る情勢と課題－社会保障を改善するたたかひの正当性と実現への道筋－」という講演がおこなわれた。介護保険のサービス低下など現在の社会保障を巡る情勢などを解説しながら、最賃など労働組合のとりくみにも言及。「社会保障は労働者を強くする」という言葉も紹介し、「大企業の内部留保を賃金・社会保障に還元させるべき」労働組合のとりくみにも期待を寄せた。②総会の議事では、議案提案のあと討論で、一宮社保協、生健会、福保労、きょうされん、自治労連、保険医協会、医労連、尾張旭国保・介護をよくする会、SNS担当、名古屋市職労から発言がされた。

■はたらく女性の中央集会in愛知 分科会下見

6月21日

はたらく女性の中央集会、見学分科会の下見を名古屋城でおこなった。見学箇所を確認し、現地のガイドへの依頼内容や集合場所などの打合せをした。

■革新愛知の会学習会

6月22日

労働会館東館ホールとリモート併用でおこなわれ、参加者はリモート含め約100人。同志社大学名誉教授の浜矩子さんが「さよなら自民党政治 物価高から暮らしを守る！～本当の問題はどこにあるのか～」という講演をした。講演を前に、屋台の珈琲さんによる替え歌が、自民党政治に苦しめられている実態をリアルに物語った替え歌に会場はヒートアップ。浜さんは歴代首相のニックネームを紹介、国民を守るべき自民党政治になっていないことを時事情勢を交えながら斬った。講演の後、50分間じっくりと質問に答える形式で理解が深まった。

■アメリカがイランの核施設に攻撃したことへの抗議のアピール行動 6月23日

愛知県原水爆禁被災者の会、原水爆禁止愛知県協議会の共同のアピール行動を名古屋市中区栄のスカイル前で正午から30分実施。15人が参加、愛友会の理事長、金本弘さんは「今回の攻撃に無関心であっても、私たちに無関係ではない。紛争の拡大を招く最悪の行為」と強い口調で話した。愛労連幹事の松本さん、国公事務局次長の青山さんもスピーチした。

■日本平和大会第9回実行委員会

6月23日

中央実行委員会と事務局からの報告（情勢と全体集会など）。学びと交流の集いは16時～18時、19時～青年交流集会（仮称）。参加目標、学びと交流の集い、大会に向かうとりくみ、会場と案内、アメリカのイラン攻撃に対する抗議の意思表示のためのアクション検討。次回の実行委員会7月29日（火）14：00～、気候危機打ち合わせ7月23日（水）10：00～。

■はたらく女性の中央集会in愛知 第4回実行委員会

6月23日

愛知の会場と全労連会場、各実行委員をオンラインにてつないで開催。11月に開催される「はたらく女性の中央集会in愛知」について、講演タイトルや分科会内容などについて話し合いをおこなった。

はたらく女性の中央集会in愛知 11月29日（土）～30日（日）

1日目分科会 労働会館、2日目全大会 ウイルあいちホール

次回実行委員会 7月28日（月）18：30～ @オンライン

■女性協第10回幹事会

6月24日

各組織の活動報告後、とりくみの総括、今後のとりくみに話し合った。総会議案の内容や、総会スケジュールなどの確認をおこなった。女性協総会は、7月5日（土）13：30～労働会館本館会議室で開催予定。

次回幹事会は、8月21日（木）19：00～ @愛労連応接室

■ブロック最賃キャラバン（愛知）

6月24日

ブロック役員4人と愛労連から6人が参加して要請した。1500円と全国一律化要求とともに、意見陳述や

■自治労連2025年機関紙コンクール

6月25日

自治労連の各組織の機関紙審査会に8名が参加した。組合員の顔が見える紙面になっているか、労働組合の姿が見える紙面になっているか、読みやすく心をうつ記事や見出しになっているか、など、さまざまな審査基準にもとづき審査をおこなった。

■全労連組織強化拡大交流集会

6月25-26日

静岡のつま恋リゾート彩の郷で行われ、薄幹事（福祉保育労書記長）が愛労連を代表して参加をした。ファシリテーターの実践、グループ討論で対話と学びあいの実践交流を行った。

■被爆80年愛知県民のつどい実行委員会**6月25日**

被爆80年（2025年）に向けて、愛知独自のとりくみとしての「つどい」開催をめざす実行委員会を開催、賛同金や当日の内容などを話し合った。広く参加を呼び掛け多くの参加者が来るようにと再度意思統一をおこなった。

戦後・被爆80年 あいち平和のつどい

日時 2025年9月27日（土）

場所 名古屋市公会堂

次回実行委員会 7月23日（水）10時～ @労働会館本館会議室

■公務員給与・最賃引き上げ宣伝①**6月26日**

13人が参加し、ビラ403セットを配布した。

■Ai組織拡大推進委員会**6月26日**

第7回組織拡大推進委員会は、全国一般、自治労連、JMITU、愛高教、東海法労、事務局2名の7名が参加した。

6月末現勢調査、昨年比組織増勢に奮闘する、レバカレの取り組みについて報告しあった。愛高教からは非正規の組織拡大の実践やレバカレでは3人を予定30代が引っ張り分科会にエントリーしている。全国一般からは労働相談での加入の報告があった。若い世代の労働組合への理解が薄く脱退や、加入に至らないいいことがあげられ意見交換した。来期の組織拡大推進委員会のあり方について、議論をした。今回は産別のとりくみなど実践報告を聞いてディスカッションするオープン企画を行い対話とまなびあいを深めていくこととした。9月以降12月までの会議の日程を確認した。今回は9月25日（木）とした。

■愛知共済会理事会**6月26日**

愛労連会議室でおこなわれ、参加者は、自治労連、建交労、JMITU、タクシー協議会、全国一般、きずな、愛労連、事務局から計11人。①この間の活動について報告された。②共済の増減について報告された。基本共済では名水検の99人の脱退が報告された。③協議事項では、共済会総会にむけて、個人加入共済の増減、会計決算・予算について、総会当日の役割分担など確認した。

■消費者大会実行委員会**6月26日**

8名参加。第56回大会のもちかた、今後のとりくみの概要を検討した。学習会や見学会、名古屋消費生活フェアへの参加などを予定し、学習会のテーマや方法、開催時期などについて話し合った。下水道、ノーベル平和賞関係、食料問題、防災、原発、PFOSなどを検討中。

7月20日（日）13:30～15:30 @イーブルなごや大会議室

「ネットで購入物被害を防ぐ、上手な活用は？」

講師 藤原典子さん（消費生活相談員）

8月20（水）9:50～12:00 @鍋屋上野浄水場

「鍋屋上野浄水場見学と水道管のいま、そして交換は？」

■生活保護裁判最高裁判決視聴会**6月27日**

生活保護引き下げ訴訟の最高裁判決があり、大幅引き下げは「違法」と判断、減額決定を取り消す判決が言い渡され、原告側の勝訴が確定した。同様の訴訟は全国29地裁で31件が起こされ、最高裁が判断を示したのは初めて。最高裁が「違法」との結論を出したことで、引き下げを進めた国の責任が問われる。

■公務員給与・最賃引き上げ宣伝②**6月27日**

17人（自治労連2、生協労連1、愛教労1、国公7、千種名東1、尾中1、事務局4）が参加

し、ピラ435セットを配布、署名4筆が寄せられた。

■はたらく女性の中央集会in愛知 分科会下見 **6月28日**

はたらく女性の中央集会、見学分科会の下見を市政資料館とその周辺施設でおこなった。見学箇所を確認し、現地のガイドへの依頼内容などの打合せをした。

■能登半島地震支援ボランティア **6月28-29日**

全国からこれまでで最高の97人が参加、愛知からも17人（医労連3、建交労2、検数労連2、タクシー2、国公1、自治労連7）が参加した。現地では水路の泥出しやイノシシ対策の電子柵づくりなどに従事した。

■きずな46回定期大会 **6月29日**

若井副議長が参加し、愛労連を代表して連帯のあいさつを行った。

■名労連結成第1回関係単産・地域代表者会議 **6月29日**

21人が参加した。結成日については、2026年5月30日(土)13:30から労働会館東館ホールとした。組合費について様々な意見があることから、登録人数の目安について調査を行うこととした。今後、初年度の運動方針、予算、結成大会の準備などを進めていくこととした。次回は9月23日(祝)10:00から労働会館本館第4・5会議室にて。

■平和行進まとめ集会 **6月29日**

昨年数を上回り5773人、ペナント普及数は約1000本、平和行進募金70万6292円、日本政府に禁止条約への参加を求める署名は486人分、世界大会への支持賛同（首長・議長・議員）31人、折り鶴は約25万羽県下54市町村のすべての自治体で「平和行進」をとりくみ、56コース（昨年47コース）で実施。被爆80年と日本被団協がノーベル平和賞受賞したことをうけて、政治的な訴えの基調となり「核兵器禁止条約への参加を政府に求める」声を大きく発信できた。被爆者の現地での参加も昨年よりも増え、のべ12人に。若い世代の自主的な参加、飛び入り参加が多数あるなど大きな成果が報告された。

■Ai最賃・公契約問題対策委 **6月30日**

7人参加。経過報告。署名の到達＝紙：8702（委員会後提出）、オンライン：4637の合計13339人、7月3日に編纂する。7月4日（金）10時～11時、署名と要請書の提出、要請書の内容を確定。署名の提出時はTシャツを着て、筆数のボードを掲げ撮影する。報道機関（リリース）は26日に送り、再度、水曜に送る。意見書提出は3日からスタートの予定で、医労連、福保労、建交労、国公の4組合からは、「意見陳述実現」だけの意見書を提出しようと確認。（連合の委員は、審議会で意見書の内容はわたしたちと同じで意見陳述の必要なしと発言するので）。生協労連からは大学生協労組として（学生の生活など）を記述できないか。中央の目安額提示後と異議書提出にかかわる宣伝行動の配置を確認。7月14日（月）1730～1830は名古屋駅宣伝。第10回最低賃金・公契約問題対策委員会、7月30日（水）13時30分～14時50分（1500～労働相談センター全体会）のため短縮。

■公務員給与・最賃引き上げ宣伝③ **6月30日**

16人（国公3、愛高教2、名高教1、自治労連4、医労連1、名中1、千種名東1、事務局3）が参加し、ピラ806セットを配布した。

■Ai組織強化学習教育委員会 **6月30日**

オンライン含め10人が参加。各組織の現状報告後、わくわく講座スクーリング開催についての

確認をおこなった。受講者が参加しやすいよう、平日の夜にオンラインも併用して開催を予定。わくわく講座申込者がまだ少ないので、各組織にオルグをおこなうこととした。引き続き声掛けをする確認をした。

■公務員給与・最賃引き上げ宣伝④ 7月1日

16:30から三の丸で実施し、15人が参加した。ビラは326枚を配布し、署名が14筆寄せられた。

■春の自治体キャラバン議会意見陳述（半田） 7月3日

7月3日、半田市議会で「最低賃金全国一律1,500円」の意見書採択を求める意見陳述が行われ、佐賀事務局長が主旨説明を行った。結果は全員反対で不採択となった。ただし、陳述人が退席した後、2人の議員から賛成討論のような反対討論が行われるなど、わたしたちの主張を否定できない苦し紛れの全会一致の不採択の様相であった。半田市議会のあべこべを市民に広く知らせることも、地域から「最低賃金全国一律1,500円」を実現させる上で大切であることを実感する機会となった。

■愛知地方最低賃金審議会 7月3日

愛労連から傍聴で10人参加。労働局長から審議会長あてに「最低賃金改正の諮問」が行われ7月24日までに「意見書」を受け付けると報告があった。報道機関は日経新聞だけであった。

■サマセミブロック実行委員会 7月3日

リモートでおこない、参加者は静岡3、愛知2、石川2の計7人。サマセミの具体化について協議した。①初日全体会について、愛知の具体案を確認した。Canvaを使うため、ブロック実行委員会はcanvaを使えるように次回短時間のcanva講座をおこなう。②2日目分科会について、各コースの参加費・スケジュールなどを確認した。各コースのグループごとにcanvaを使って報告を作成してもらうこととした。③3日目全体会について、内容案を提示し、具体化を進めた。④初日BBQについて、前回まで自分たちで準備をすとしていたが、会場の都合で業者をつかうこととなった。

■愛知労働局・審議会要請と最賃署名提出 7月4日

「最賃今すぐ1500円」署名9000筆と5月から始めたオンライン署名4779人（1500円と介護職の特定最賃）、合わせて13,799筆分を提出した。また、「愛知県最低賃金を1500円に、中小企業支援と審議の活性化・公開を求める要請書」を提出した。

冒頭、西尾議長は「7月の食品値上げが2105品目で前年の5倍、今年は2年ぶりに2万品目を超えることが確実に参院選の争点とも言われている」「国民生活の改善と個人消費を上げるためにも、この署名の重みを受け止めてほしい」と述べた。労働局賃金課の主任地方賃金指導官は「審議会会で要請の内容を説明し、署名は審議会に提出する」と回答した。

若井さん（生協労連）、池田さん（医労連）、高木さん（自治労連）、薄さん（福保労）、青山さん（国公）が、職場の非正規労働者の実態を語った。

また、審議会で使用する「労働者の生計費」に関する資料が極めて不十分なことを指摘（6月24日のブロックキャラバンでも要請）、担当者は「生計費資料の件は真摯に受け止めるし、各審議委員にも伝える。資料の提供については努力するし、愛労連の最低生計費試算調査も審議会に提供する予定」と応えた。しんぶん赤旗が取材した。

■全労連東海北陸ブロック徳島県最賃懇談 7月4日

全労連東海・北陸ブロックは7月4日、昨年の最低賃金引き上げをめぐる徳島県のとりくみについて、県庁の担当者から話を聞こうと、オンラインによる学習会を開催。全国から67人が参加し、愛知県庁や福井県庁などの担当者も参加しました。徳島県の担当者は、①徳島県は淡路島・兵庫県

と橋で直結しており、近隣府県（大阪・京都・兵庫）との賃金格差が顕著、②23年度は全国のワースト2位の最賃水準、都市部との賃金差（例：兵庫県と105円差）が人材流出の一因、③地方創生・持続的・地域経済の発展のためには、最賃引き上げが不可欠とこれまでの課題を上げました。

そのもとで、24年1月に知事が地方版政労使会議を初開催し、①経済団体・労働団体へ積極的な賃上げを要請、②県議会有志・市長会と連携し、労働局長と審議会会長に2度にわたり引き上げ要請、③最賃審議会の公益委員が、県の経済は中位以上と評価、④結果として目安額50円増に加え、34円を上乗せし84円の大幅引き上げとなった。これにより兵庫県との差は105円から72円に縮小したと話しました。合わせて、賃上げに伴う事業所向けの県独自の支援策を作ってきたことなどを報告しました。

■Ai女性協総会

7月5日

7月5日(土)に第36回女性協総会を開催。リモートを含め43人が参加した。

第一部は、記念講演「ジェンダー平等を目指す一歩を～平等をつくるアクション～」と題し、水谷陽子弁護士から話を聞いた。日本のジェンダー不平等の現状、平等をつくる鍵は憲法、職場の差別は労働組合による団結を、などが話された。

第二部の総会では、女性協の河合議長と来賓の林愛労連副議長のあいさつ後、総括案と方針案を提起し討論へ。建交労、自治労連、郵政ユニオン、愛高教、福保労、医労連から発言。すべての議案と新役員について全体で採択され、最後に団結ガンバローで総会を終えた。

【新役員】

議長 荒川忍（自治労連）新／副議長 後藤静（愛高教）再／事務局長 浜島ちか子（医労連）再／幹事 島田幸子（福保労）再／幹事 中尾裕子（郵政U）再／幹事 廣瀬久子（建交労）再／幹事 矢野祥子（自治労連）新／幹事 竹内佐和子（愛高教）新

■愛知県医労連定期大会

7月6日

柴田副議長が参加し、愛労連を代表して連帯のあいさつを行った。

■名中センター定期大会

7月6日

竹内事務局長が参加し、愛労連を代表して連帯のあいさつを行った。

■長良川河口堰30年シンポ

7月6日

長良川河口堰が1987年7月6日に本格運用を開始してから30年の節目を迎え、市民団体「よみがえれ長良川実行委員会」が主催する「シンポジウム『長良川河口堰運用30年』」が岐阜県立図書館で開催された。愛労連からは、当時、過大な水需要予測にもとづく河口堰建設が及ぼす環境や水道財政に悪影響への懸念を訴え、地元住民をはじめ、研究者や環境活動家とともに反対運動に積極的に関わった名古屋水道労働組合出身の佐賀事務局次長が参加した。マスメディアの関心も高く、TBS「NEWS23」も7月11日の放送で特集した。

■あいち被爆者支援ネットワーク連続講座

7月6日

民主会館とリモートを併用して開催。「核抑止力論の虚構を打ち破る」と題した講演を、奈良大学教授 高橋博子さんから聞いた。核抑止力論はまやかして、だまされてはいけない、トランプ政権の国防次官補代理は、小型核兵器配備について言及している人で、今後の米国の動きに注意しなければならない、小さな国が集まり協力することで核廃絶が実現するなどが話された。

■愛知共済会総会

7月6日

労働会館本館でおこなわれ、参加者は各共済会の総代11人、理事15人（委任含む）、監事1人、来賓1人の計28人。①25年度事業経過報告および26年度事業計画についての報告、会計決算と新年度計画の報告、理事会の任務分担変更などの報告がおこなわれ、承認された。理事会の任

務分担では専務理事がJMITUの平田氏からきずなの石川氏に交替した。②来賓の全労連共済・山本常任理事からあいさつと全労連共済ホームページの活用についての提案がされた。③討論では自治労連、きずな、建交労、全国一般、岐阜ローカルユニオン、JMITU、タクシー協議会、年金者組合から発言がされた。

■全労連能登半島地震支援対策本部拡大幹事会 7月7日

主な議題は、全国災対連・石川災対連・全労連の能登半島地震・豪雨災害ボランティアのこれまでとこれからに関して。これまでにに関しては、第10次：5月17～18日、第11次：6月28～29日、それぞれに47名、97名の144名、通算で502名の参加があったことが報告された。愛知からの参加者の多く、2024年度から続けてきた石川県労連の呼びかけに応えるとりくみとして、単産の関心の高さを窺えるとりくみとなっている。これからについて全労連から、引き続き、石川県労連や石川災対連と連携を取り、11月（第12次・13次）に取り組むことが提起された。

■組織強化学習教育委員会愛知国公オルグ 7月7日

組織強化学習教育委員会で提案している、わくわく講座と勤通大の講座についての受講をうながすオルグをおこなった。

■全労連東海北陸ブロック労働相談員研修会 7月9日

オンラインで開催し、約40人が参加した。自治労連東海北信ブロックの中川悟事務局次長を招き、会計年度任用職員制度の問題点や課題とともに、勤勉手当支給や4月遡及、任用上限撤廃など運動で大きく改善を図っていること、組織化に向けた今後の展望について学んだ。

■Ai単産・地域代表者会議 7月9日

34人が参加した。2025年度決算の説明とともに、第1回評議員会で報告した「2026年度の組織財政運営に係る具体的な対応策」に基づいた2026年度財政方針と予算案について説明し意見集約を図った。

■平和大会「気候危機」弁護士懇談 7月9日

気候危機訴訟をとりくんでいる小島弁護士と平和大会の「学びと交流のつどい～命と暮らしを脅かす気候危機」実行委員の3名で講師の件について懇談。

■9の日宣伝 7月9日

金山駅北口でおこない、参加者は平和委員会、愛労連3の計4人。税金が軍事費でなく私たちの暮らしに使われるよう変えていこうなど訴えた。85才の女性と対話になり、戦争中愛知時計で働いていた姉が戦死したこと、戦争は起こしてはいけないなど話をしてくれ、激励をしてくれた。

■愛知共済会事務局会議 7月10日

共済会事務所でおこなわれ、参加者はJMITU、きずな2、愛労連、事務局2の計6人。協議事項として組織活動費お届けオルグの計画、ハゼ釣り大会について、規約の改定にむけて、各委員会の活動に付いて協議した。愛労連会議室が使えなくなることから今後の理事会について、リモート参加を検討していくこととした。

■Ai新聞編集委員会 7月11日

オンラインで3人が参加。愛労連新聞7月10日号の振り返りと、8月10日号の企画打合せをおこなった。今後の編集委員の体制をどうするかは次回幹事会后、新幹事が確定してからとなるため、次回委員会は同じ編集委員でおこなうこととした。

■憲法と平和を守る街宣A

7月12日

憲法と平和を守る愛知の会宣伝行動には、愛労連からは福保労3人、愛知国公2人、年金者組合2人、きずな1人、事務局1人の9人が参加した。酷暑だったが100枚ほどチラシを配ることができた。

■賃今すぐ1500円、めざせ2000円宣伝

7月14日

名古屋駅前で「いますぐ1500円、めざせ2000円」の最賃宣伝を行った。午後4時くらいから雨が降り出したため、場所を名鉄前に変更。雨を突いて23人が参加しました（愛高教5、自治労連5、国公3、尾中労連2、生協労連・医労連・愛教労・千種名東労連/各1、事務局4）。各役員がスピーチ、通行人は傘を持っているため、ビラ（オンライン署名付き：ティッシュ入れ）の受け取りが心配であったが、参加者の気持ちが伝わり836個配布しました。各政党の公約を一覧にし「投票に行こう」と呼びかけた。中日新聞・しんぶん赤旗が取材。

■社保協四役会議

7月14日

愛労連会議室でおこなわれ、参加者は保険医協会、民医連、医労連、自治労連、年金者組合などから計9人。社保協第45期総会の振り返り、今後の課題について協議した。①介護の課題では新たな署名が始まり、9月1日に決起集会がおこなわれる。②健康保険証存続を求めるたたかいについては、名古屋市から国保の資格確認書が届き出したことが奉公された。協会けんぽも7月中旬に随時届く予定。③高額療養費の改悪を許さないたたかいでは、OTC類似薬の保険外しについて、子ども医療無償化でも使用者の負担となると報告された。④2025自治体キャラバンについて、全体の日程から別に設定される東三河広域連合や岩倉市などについて確認した。⑤愛知高齢者大会が11月20日に開催される予定となった。